

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書

平成 22 年 6 月
宇都宮大学

目 次

I. 中期目標の達成状況

- 1 教育に関する目標の達成状況 1
- 2 研究に関する目標の達成状況 19
- 3 社会との連携, 国際交流等に関する目標の達成状況 24

II. 「改善を要する点」についての改善状況 27

I. 中期目標の達成状況

1 教育に関する目標の達成状況

| | |
|-----|---------------|
| 中項目 | 1 教育の成果に関する目標 |
|-----|---------------|

| 小項目番号 | 小項目 1 | 小項目 | |
|---------------|--|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 1-1 | 初期導入教育、リテラシー教育及び教養教育から構成される全学共通教育を豊かで効果的なものにするために教育企画会議で基本方針を策定し、新たな実施体制を構築する。 | | <p>学長のリーダーシップの下、教育企画会議と共通教育センターが主導し、機動的に共通教育英語改革を進め、平成 21 年度入学生から実施した。具体的には、TOEIC 点数による習熟度別に編成したクラスに対し、英語圏での TESOL 有資格による教員団が、“浴びる英語”の教育を行った。こうした結果、平成 21 年度 1 年次必修科目に対する学生授業評価において、全学生の総合満足度（5 点満点）の平均値が、3.89（改革前 4 年間平均）から 4.52 へと大幅に上昇し、学生の英語に対する興味や学習意欲等もそれぞれ 0.5point 以上の上昇が見られた。</p> <p>また、共通教育全般の改革に向け、学長の下に教育・学生担当理事を中心に学長補佐と事務系職員からなる教育改革推進チームを発足させ、改革の骨子である“あらたな「共通教育」”の素案を作成し、共通教育センターおよび教育企画会議と連携して全学的な周知・合意を図った。さらに次年度以降は骨子に沿った改革を計画的に実施することが役員会で決定された。</p> <p>（別添資料 1-1-1, p1）</p> |
| 計画 1-2 | 各学部の教育目標にふさわしい卒業後の進路を確保するために、全学並びに学部ごとに、適切な学生指導を行う。 | | <p>共通教育から専門教育まで 4 年一貫のキャリア教育を全学の方針として示し、キャリア教育・就職支援センターがリードして、キャリア教育充実に努めた。具体的には 4 年間および卒業後のキャリア形成を支援するキャリアデザインノートを作成し、全学的なキャリア教育の柱とするとともに、各学部においては OB や OG と連携したキャリア関連科目を積極的に開講した。また、独</p> |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>自の就職支援システム UU Career Navi の構築，キャリア形成に向けたラーニングコモンズであるキャリアカフェなど環境の整備，キャリアアドバイザーの充実を図り就職支援体制を充実した。こうした大学全体のキャリア教育重視の方針を受け，学生の意識も高まり，例えば学生による宇大就活応援団（JUST）の結成などの積極的な動きに繋がった。</p> <p>また，学生に国際的学術分野の専門性を身につけさせ，地域企業や自治体の国際化ニーズに応える教育プログラム「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」が文部科学省平成 21 年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択され，あらたな観点からの宇都宮大学独自のキャリア形成支援が始まった。（別添資料 1-1-2，p2）</p> |
|--|--|--|

| 小項目番号 | 小項目 2 | 小項目 | 修士課程及び博士前期課程にあつては，創造的で実践的な応用力を身につけた高度専門職業人を育成する。 |
|---------------|--|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 2-1 | 修士課程及び博士前期課程の目標を達成するために，大学院修士課程及び博士前期課程の教育運営体制を見直し，専門分野ごとに教育課程の再構築を図る。 | | <p>工学研究科は 20 年度に部局化・専攻再編を実施し，教員配置の柔軟性と社会状況などに敏速に対応できる体制をとった。その結果，従来の学術区分を超えた学際先端システム学専攻のような新たな専攻を設置し，融合領域での教育を通し，旧来の学問分野にとらわれない高度職業人の育成を可能にした。</p> <p>農学部では，平成 21 年度に国立大学初の附属里山科学センターを設立し，里山をフィールドとする生物多様性，野生鳥獣管理，伝統的知識の継承等の諸研究を推進する一環として「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム（平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費）」を立ち上げ，大学院生の専攻における教育とは別に，地域の関係者とともに問題発掘・解決能力を養うコースを設けた。（別添資料 1-1-3，p3）</p> |
| 計画 2-2 | 教育の成果を検証するために，同窓会や広く社会の識者を含めた評価を行う。 | | <p>国際学部・国際学研究科では，栃木県経済界，市民活動グループ，APSIA 関係等の国内外の大学教員等を委員とした外部評価を実施し，工学部・工学研究科では，群馬大学工学部・工学研究科と相互評価のための体制を構築して新たな形の外部評価を開始した。また，農学研究科では，里山をフィールドとする学部横断的な教育・研究・社会活動について，「農学部顧問会議」や「と</p> |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>ちぎ食・環境・農のネットワーク」など、外部からの積極的な評価を受けて農学部附属里山科学センターを設立した。</p> <p>キャリア教育・就職支援センターでは、学生の就職先へのアンケートを実施しOBやOGの就職後の状況を把握し、就職活動支援の参考に供した。</p> <p>また、創立60周年記念シンポジウム「宇都宮大学ブランドを考える」を開催し、同窓生を含む外部講師から貴重な提言を受けた。さらに、平成22年度には同窓会と連携して「第1回宇都宮大学ホームカミングデー」を開催し（平成22年4月29日）、広く同窓生からの評価を仰ぐことを決定した。（別添資料1-1-4, p4）（別添資料1-1-5, p5）</p> |
|--|--|--|

| 小項目番号 | 小項目3 | 小項目 | |
|-----------|--|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成20年度及び21年度における実施状況 |
| 下記以外の中期計画 | | | 平成19年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画3-2 | <p>教育の成果を検証するために、同窓会や広く社会の識者を含めた評価を行う。</p> | | <p>博士後期課程を有する国際学研究科および工学研究科では次の外部評価を実施し、評価結果を教育改善関連の委員会等の計画に反映させた。国際学研究科では、栃木県経済界、市民活動グループ、APSIA関係等、国内外の大学教員を委員に委嘱して外部評価を実施し、内部では見落としがちな事項の指摘など、貴重な提言を受けた。工学部・工学研究科では、群馬大学工学部・工学研究科との間で、相互外部評価を行うこととし、平成21年度には本学応用化学科・物質環境化学専攻の外部評価を実施し、貴重な提言を得た。（別添資料1-1-4, p4）</p> |

| | | | |
|-----|---------------|--|--|
| 中項目 | 2 教育内容等に関する目標 | | |
|-----|---------------|--|--|

| | | | |
|-------|-------|-----|--|
| 小項目番号 | 小項目 1 | 小項目 | 多様な選抜方法により，専門分野に適性があり，目標をもって意欲的に学ぶことのできる学生を確保する。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| | | | |
|-------|-------|-----|--|
| 小項目番号 | 小項目 2 | 小項目 | 多様な学生集団がもたらす教育効果を高く評価し，社会人や留学生を積極的に受入れる。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| | | | |
|---------------|--|-----|--|
| 小項目番号 | 小項目 3 | 小項目 | 全学共通教育と学部専門教育の目標を明確にし，学生の特性や興味関心に配慮した教育課程を編成する。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 6-1 | 全学共通教育において，学ぶことの意義と方法を習得するための初期導入教育，現代社会に必要なリテラシーを学ぶためのリテラシー教育，幅広く深い教養を身につけるための教養教育，という 3 つの κατηγοリーを基本にして教育課程を編成し，内容の充実に努める。 | | 学長の下に教育・学生担当理事を中心に組織された教育改革推進チームがリードし，カテゴリーの見直しや科目の充実，持続性のある実施体制等の再整理等を含む改善案“あらたな「共通教育」”を作成し，全学的に周知した。その中では全学方針である 4 年一貫のキャリア教育に対応した基盤キャリア教育，理系基礎やリメディアル教育に対応可能な専門導入教育というカテゴリーも加えることが決定され，早期実施に向けた計画がたてられた。（別添資料 1-2-1，p6） |

| | | |
|---------------|---|---|
| <p>計画 6-2</p> | <p>学部の専門分野ごとに実践的専門性を培うためのコア・カリキュラムを編成して、内容の充実を図るとともに、学生の興味関心に応じた柔軟な履修方法を提供する。</p> | <p>教育プログラムを提供する単位（例えば学科等）ごとに3方針に基づく教学経営体系の確認・再構築を行うとともに、3方針や教育プログラムの特徴をまとめた“教育プログラムシラバス”を全学的に整理し、提供する教育内容や達成される能力を学生や社会に明示した。またカリキュラムポリシーに従ったカリキュラム編成の“見える化”，コア科目や個々の科目のカリキュラム内での位置づけと到達目標とのつながりの“見える化”を図るために、教育プログラムごとにカリキュラムツリーを整理し、専攻学生に対してはカリキュラムの全体像の理解を、他専攻の学生に対しては興味に応じた柔軟な履修を助けることとした。（別添資料1-2-2, p7）</p> |
|---------------|---|---|

| 小項目番号 | 小項目 4 | 小項目 | 各授業科目の目標を明確にし、学生の特性も考慮しながら、適切な授業形態をとるとともに、国際的な通用性も視野に入れた教育方法を絶えず考究する。 |
|-----------|---|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 7-1 | シラバスなどの授業計画書を充実して学習支援を強化するとともに、全学共通教育と学部専門教育のコア・カリキュラムについては単位制度の理念の徹底を図るなど、教育効果の向上に努める。 | | <p>学生や教職員の要望のもと、シラバス、履修登録、成績登録・確認等の Web 化を中心とした教務システムの自主開発に着手し、シラバスでは、授業の到達目標や教育プログラムの学習・教育目標との関連などの項目も加え、学んで身につけるべき目標を分かりやすく表示した。</p> <p>共通教育の英語に関しては“浴びる英語”の方針で新カリキュラムを再構築し、習熟度別クラス編成による1年生に対する基礎力養成、2年生向けに Academic Writing から Cinema English に至るまでのバラエティに富んだ講義選択による応用力養成を図り、学生から極めて高い評価を得ている。さらに、意欲ある上級学年への効果的なクラス、能力の高い学生に対する Honor Program も合わせ4年間一貫の英語習得を可能とするカリキュラム編成を構築した。</p> <p>また、単位の実質化を図るため、土曜・休日振り替え等により講義 15 回+補講期間+定期試験期間を確保した学年歴を整備した。（別添資料1-2-3, p8）</p> |
| 計画 7-3 | インターンシップなど実践的な教育の場を拡充する。また、その充実のため産学が連携して教育プログラムの開発を行う。 | | <p>新たに外国人留学生対象のインターンシップを宇都宮市商工会議所及び宇都宮市内の企業と連携して実施したほか、東京外国人雇用サービスセンターとも連携してインターンシップの拡充並びに充実を図った。また、宇都宮大学が中心となり、地域の経済団体および私立大学と連携して「キャリア形成支援推進協議会」の設置を決め、平成 22 年度から地域ぐるみでインターンシップ</p> |

| | | |
|--|--|---|
| | | も含むキャリア教育をサポートするシステムを構築した。（別添資料1-2-4, p9） |
|--|--|---|

| 小項目番号 | 小項目 5 | 小項目 | 厳正で適切な達成度評価法を開発し、実践する。 |
|---------------|--|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 8-1 | 学科、課程（講座）、及び全学共通教育の専門領域ごとの教員団が各授業科目の達成目標にふさわしい達成度評価法と基準を組織的に考究するとともに、その成果は学生に公表する。 | | 教育プログラムの単位（学科等）ごとに、コア科目を含む個々の科目がカリキュラム内で占める相互関係や到達目標とのつながりなどを学生に分かりやすく“見える化”するため、カリキュラムツリーの構築を図った。また、個々の教科の到達目標、教育プログラムの学習・教育目標あるいは到達目標（ディプロマポリシー）等との関係、さらには教科それぞれの特徴に合わせた成績評価法を教科のシラバス内に明示し、HP に掲載すると共に、印刷物として学生に配布した。 （別添資料 1-2-2, p7） |
| 計画 8-2 | GPA (Grade Point Average) を基本にした総合的達成度評価法を開発し、試行する。 | | 工学部や農学部の一部学科では、卒業要件として卒業単位数や卒業科目の GPA 値だけでなく、ディプロマポリシーの中に掲げられた到達目標の内容ごとに、それに関わる講義の GPA 値や GPT 値を算出し、それぞれが基準値を超えること、さらには卒業研究に従事した積算時間等も卒業要件に加える事などが試行されており、教育の質の保証に向けた達成度の評価法の開発が着実に進んでいる。（別添資料 1-2-5, p10） |

| 小項目番号 | 小項目 6 | 小項目 | 専門分野に適性があり、高度な学習と研究に意欲的に取り組むことができる学生を確保する。 |
|-------|-------|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| 小項目番号 | 小項目 7 | 小項目 | 多様な学生集団がもたらす教育効果を高く評価し、社会人や留学生を積極的に受入れる。 |
|-------|-------|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |

| | | |
|-------|--|--------------------------------|
| 全中期計画 | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
|-------|--|--------------------------------|

| 小項目番号 | 小項目 8 | 小項目 | |
|-----------|---|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 11-1 | 修士課程及び博士前期課程にあつては、精選した専門授業科目を中心に教育課程を編成してその内容の充実を図るとともに、少人数の実践的な教育の場を通じて、創造性と課題解決能力を育成する。 | | 平成 20 年度に部局化・専攻再編を実施した工学研究科では、教員配置の柔軟性と社会状況などに迅速に対応しやすい体制整備を行った。その結果、従来の学問区分を超えた学際先端システム学専攻のような新たな専攻を設置し、融合領域での教育を通して、旧来の学問分野にとらわれない高度職業人の育成を可能にした。また、工学研究科の共通科目として、少人数のグループにより地域の問題を発掘しそれを解決することを学ぶ「創成工学プロジェクト」を開講し、授業の面からも問題発掘や課題解決の能力を育成している。“現場から発想し、現場に貢献する農学”をモットーとする農学部では、新設された里山科学センターをコアとして、里山の問題を実践的に解決するための分野横断的な PBL 教育を開始した。(別添資料 1-2-6, p11) |
| 計画 11-2 | 外国語による授業を拡大する。 | | 国際学研究科を中心に、全研究科での英語による修士課程及び博士前期課程の授業の拡大が進められ、平成 19 年度で 4 科目であったものが 20 科目にまで増加した。一方で、全学教務委員会の分析では、現段階での全学的な英語による授業の拡大が、授業内容の理解度を低下させる可能性が高いとの結論を得た。こうしたことを踏まえ、大学院での英語による講義に対応できるような英語力の上昇をめざし、共通教育英語の充実による学生の英語基礎力向上と学部教育における専門英語の充実を図ることとした。すなわち平成 21 年度の 1 年生向け共通教育英語では全ての授業を英語で実施した。また、共通教育センターによる英語学習強調週間では理系英語なども積極的に取り入れ、工学部、農学部の学生の英語力向上に努めた。また国際学部では、外国語授業科目として外国の大学が主催する授業を受講し単位に振り替える「外国語臨地演習」を開講し、現在オーストラリアのカーティン工科大学、台湾師範大学との間で実施するなど、実質的な外国語による講義の拡大を図った。(別添資料 1-2-7, p12) |

| | | |
|---------|---|---|
| 計画 11-3 | シラバスなどの授業計画書を充実して学習支援を強化するとともに、全学共通教育と学部専門教育のコア・カリキュラムについては単位制度の理念の徹底を図るなど、教育効果の向上に努める。 | 学生や教職員の要望を聞きながら、シラバス、履修登録、成績登録・確認等の Web 化を中心とした教務システムの自主開発に着手し、学生に利便性のある学習支援環境を整備した。また、シラバスにあっては内容を大幅に見直し、学部・大学院ともに授業の到達目標や教育プログラムにおける学習・教育目標との関連などの項目も加え、学生が学んで身につけるべき目標を分かりやすく表示した。また、単位の実質化を図るため、土曜・休日振り替え等により講義 15 回＋補講期間＋定期試験期間を確保した学年歴を整備した。（別添資料 1-2-8, p13） |
|---------|---|---|

| 小項目番号 | 小項目 9 | 小項目 | 博士後期課程にあつては、専門分野の高度化はもとより、幅広い柔軟な発想と創造性を培う教育課程を編成する。 |
|-----------|----------------|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 12-2 | 外国語による授業を拡大する。 | | 国際学研究科を中心に、工学研究科も含め、博士後期課程の学生が履修可能な英語による大学院授業（主に修士課程及び博士前期課程向け）が 21 科目にまで拡大し、幅広い専門的知識を英語によって学ぶ機会が大幅に増加した。また、両研究科とも特別講義などの一環として出席する学内の学術講演会など外国人研究者による英語講演に触れ、専門分野の最先端の知識を英語で学ぶことを推進し、実質的な外国語による講義の拡大を図っている。（別添資料 1-2-9, p14） |

| 小項目番号 | 小項目 10 | 小項目 | 国際的な通用性を念頭におきながら、実践的な教育方法を積極的に導入するとともに、複数の教員による指導体制を充実させる。 |
|-----------|--------------------------|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 13-2 | インターンシップなど実践的な教育の場を拡充する。 | | 平成 21 年度から外国人留学生対象のインターンシップを宇都宮市商工会議所及び宇都宮市内の企業と連携して実施したほか、東京外国人雇用サービスセンターとも連携してインターンシップの拡充並びに充実を図り、留学生にも実践的な場での教育の機会を設けた。また、宇都宮大学が中心となり、地域の経済団体および私立大学と連携して「キャリア形成支援推進協議会」の設置 |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>を決め、平成 22 年度から地域ぐるみでインターンシップも含むキャリア教育をサポートするシステムを構築し、より実践的な教育機会を拡大した。</p> <p>さらに、教育の国際的通用性を念頭に置き、平成 21 年度に採択された「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム（文部科学省平成 21 年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム）」の一環として「国際キャリア実習 I, II（平成 21 年度）」が設けられ、国内および海外でのインターンシップにより、国際的通用性のある実践教育が単位化された。</p> <p>（別添資料 1-2-10, p15）</p> |
|--|--|--|

| 小項目番号 | 小項目 11 | 小項目 | 厳正で効果的な達成度評価法を開発し、実践する。 |
|---------------|---|---|--------------------------------|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 14-1 | 全学的な基本方針のもとに、関連する教員団が各授業科目の達成目標にふさわしい達成度評価法と基準を組織的に考究するとともに、その成果は学生に公表する。 | 教育プログラムの単位（専攻等）の教科の到達目標、教育プログラムの学習・教育目標あるいは到達目標（ディプロマポリシー）等との関係、さらには教科それぞれの特徴に合わせた成績評価法を教科のシラバス内に明示し、HP に掲載するとともに、印刷物として学生に配布した。 | （別添資料 1-2-11, p16） |
| 計画 14-2 | GPA を基本にした総合的達成度評価法を開発し、試行する。 | 各研究科において大学院課程の GPA 制度導入について試行するとともに、全学教務委員会において試行結果の分析を行った。その結果、大学院課程では履修者数及び科目数が少ないことなどから、現段階では講義科目中心の GPA や GPT だけでは達成度の評価が困難であることが示唆された。その上で、総合的達成度を評価するには、学位論文や学会発表・投稿論文などの成果、TA や RA の活動、現地調査やインターンシップ活動なども点数化して加える必要があると判断され、そうした案の具体化を進めることとなった。 | （別添資料 1-2-12, p17） |

| 小項目番号 | 小項目 12 | 小項目 | FD(Faculty Development)を実施し、教育内容の質の向上と改善に努める。 |
|-------|--------|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |

| | | |
|---------------|--|---|
| 下記以外の 中期計画 | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 15 | 各教育課程の FD (Faculty Development) を学生の授業評価等を踏まえて定期的 to 実施し、教育内容の充実と質の向上改善に努める。 | 全ての学部において、教授会の前後に開催する FD 活動が充実して継続されている他、平成 21 年度に第 1 回の「全学 FD の日」が開催され、3 方針に基づく教学経営体系の確認・再構築の方針が示され、それに基づき、各学科等で教育プログラムシラバス、カリキュラムツリー、(教科の)シラバス等の見直し・整理・構築に向けた活動が日常化した。 また、教育学部や農学部の一部学科では、全教員参加による全教員対象の授業の相互評価が実施された。(別添資料 1-2-13, p18) |

| | | |
|-----|------------------|--|
| 中項目 | 3 教育の実施体制等に関する目標 | |
|-----|------------------|--|

| 小項目番号 | 小項目 1 | 小項目 | 教育目標を達成するために、教職員を適切に配置する。 |
|---------------|------------------------|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 16-1 | 教育の充実のために、教職員を適切に配置する。 | | <p>共通教育英語の改革に基づく共通教育英語プログラム“EPUU”を実施するにあたり、英語圏で TESOL 資格を習得した教員と Native 教員（合計で 3 専任教員及び特定科目担当教員 6 名）からなる教員団を新たに採用し、共通教育センターに配置した。</p> <p>また、「里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム（文部科学省科学技術振興調整費）」に対応する教員 3 名と技術職員 1 名を始め、「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム（文部科学省平成 21 年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム）」に教員と事務職員を 1 名ずつ、多文化公共圏センターの課題に対応するため教員 1 名とコーディネータ 3 名を配置するなど、時代と社会の要請に合わせた教育の充実のため特任教職員を配置した。</p> <p>（別添資料 1-3-1, p19）</p> |

| 小項目番号 | 小項目 2 | 小項目 | 教育のための施設・設備を整備充実させる。 |
|---------------|---------------------------|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 17-1 | 学生の教務等情報のファイリングシステムを整備する。 | | <p>CIO, CSO と教育・学生担当理事の連携のもとに、学生サービスの向上と教育環境の充実に向け、学生各自による履修登録及び教員からのシラバス登録等の Web 化を自主開発し、利用者の意見を踏まえて柔軟な変更が可能となるシステムを構築した。これにより、教務等情報の収集・活用に関して、学生及び教員の利便性が向上した。また、新型インフルエンザ対策関係の適時情報提供のために、全学生向け携帯 Web を緊急整備した。引き続き成績登録・確認の Web 化等の自主開発</p> |

| | | |
|---------|--|--|
| | | <p>が進行中であり、学生個人のポータルサイトとして集約する予定である。 (別添資料 1-3-2, p20)</p> |
| 計画 17-3 | <p>既設の CANS (Campus Advanced Network System) を中心にした教育情報基盤を整備し、充実させる。</p> | <p>CANS が学生や教職員の要望に十分応えられないことを受け、CIO, CSO, 教育・学生担当の各理事の連携のもとに、利用者の意見を踏まえて柔軟な変更が可能となる新たな教務情報システムを自主開発することが決まった。平成 21 年度までのところ、緊急情報発信のための全学生向け携帯 Web サイト、教員情報 DB、履修登録、シラバス登録等の入力・閲覧の Web 化までが終了した。 (別添資料 1-3-2, p20)</p> |
| 計画 17-4 | <p>実践的教育（実験、演習、実技、実習等）のための施設設備を充実させる。</p> | <p>平成 21 年度に実践的教育のための施設設備を充実させるという学長方針の下で、概算要求経費により「幼小中の連携強化及び一貫教育研究推進システム（教育学部）」、「生殖工学技術者育成システム（農学部）」、補正予算により「環境・エネルギー診断評価システム（工学部）」、「天体観測・共用システム（教育学部）」及び学内補正予算により「最先端林業機械技術者育成システム（農学部）」等を整備し大幅な教育設備の充実を図った。さらに、CALL 教室、DVD ラボ、リーディングラボ、英語シアター、EPUU クリニック & ラーニングコモنزなど全学共通英語教育に関し学生の自学自習を促す様々な施設を整備した。 (別添資料 1-3-3, p21)</p> |
| 計画 17-5 | <p>教室などの学内共同利用施設の有効利用に努めるとともに、学習に適した環境の整備と機能の充実を図る。</p> | <p>学生からの要望に応え、陽東キャンパスにラーニングコモنزとして 32 台のコンピュータを備えた学生メディアルームを整備し、休日や深夜での利用も可能な 24 時間開放の環境を提供した。 さらに、峰キャンパスにおいては、従前から活発に活用されてきた農学部ラーニングコモنز（パソコン 20 台設置 24 時間開放）を補完する形でキャリア形成に向けたラーニングコモنزであるキャリアカフェ、EPUU クリニック & ラーニングコモنزが新設され学生のアクティブラーニング環境を整備した。 (別添資料 1-3-4, p22)</p> |
| 計画 17-6 | <p>課外活動を一層促すために、施設・設備を充実させる。</p> | <p>学生からの要望に応え、また安全・安心の確保及び課外活動の活性化のため、平成 21 年度に課外活動施設の充実を図ることとし、前年比 3.6 倍の経費を投入した。主な整備は、グラウンド全面の暗渠排水設置、テニスコート改修、体育館等の整備などである。 (別添資料 1-3-5, p23)</p> |

| | | | |
|-------|-------|-----|--|
| 小項目番号 | 小項目 3 | 小項目 | <p>大学が教育の責任を果たす観点から、教育の質の改善を図るための学内組織を整備するとともに、開かれた大学として、社会の要望を反映する。</p> |
|-------|-------|-----|--|

| 計画番号 | 中期計画 | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
|---------------|--|---|
| 下記以外の 中期計画 | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 18-1 | 教育研究評議会のもとに設置した教育企画会議において、本学における教育の基本方針を策定し、効果的に運営する。 | <p>学長による教育改革の基本方針の下、骨子案作成にあたる教育改革推進チーム（教育・学生担当理事、学長特別補佐、学長補佐、事務系職員）と教育企画会議が有機的に結びつき、教育研究評議会の了承の下で、3 方針一貫の教育改革の具体案、共通教育改革の骨子が定められ、教育改革が進められている。</p> <p>また、初めての「全学 FD の日」を起点とした教育プログラム単位レベルでの教育改革・改善の推進、「教育改革・改善支援経費 2010」による教育予算の配分提案など、教育企画会議が効果的に機能している。（別添資料 1-3-6, p24）</p> |
| 計画 18-4 | 教員相互の教育評価を含めた FD を段階的かつ継続的に推進する。 | <p>教育企画会議の主導により、全学的に教員同士の授業参観を実施した。特に、農学部の一部学科では担当教員を決めた授業参観とその後の面談により相互に教育評価を行い、教育改善に努めるとともに、教育学部で、全教員参加による全教員対象の授業の相互評価が実施され、教育力の向上に努めた。</p> <p>また、全ての学部において、教授会の前後に開催する FD 活動が充実して継続されている他、平成 21 年度に第 1 回の「全学 FD の日」が開催され、3 方針に基づく教学経営体系の確認・再構築の方針が示され、それに基づき、各学科等で教育プログラムシラバス、カリキュラムツリー、(教科の)シラバス等の見直し・整理・構築に向けた活動が日常化した。（別添資料 1-2-13, p18）</p> |
| 計画 18-5 | 学生が積極的に関与する授業評価を継続的に実施し、教育の質の改善に役立てる。 | 教育企画会議の主導により、学期末の授業評価アンケートとは別に、平成 20 年度から学期途中で自由記述方式の中間アンケートを全学で実施し、学生への回答も踏まえ、学生の意向が即座に授業に反映されるようにした。（別添資料 1-3-7, p25） |
| 計画 18-6 | 全学共通教育については、総合教育研究開発センター（仮称）、留学生センター及び全学教務委員会が連携して内容の充実に努める。 | 全学共通教育については、共通教育センターのリードにより教育企画会議、教務委員会等と連携しながら英語教育改革を推進した。また、学長の下に教育・学生担当理事を中心に発足させた教育改革推進チームと教育企画会議、全学教務委員会が連携して共通教育の内容の明確化と実施体制の整備に関する“あらたな「共通教育」”の骨子を作成した。（別添資料 1-1-1, p1） |

| 小項目番号 | 小項目 4 | 小項目 | 国内外の高等教育機関と教育面での連携を強化し、本学の教育の充実に役立てる。 |
|---------------|---|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 19-1 | 近隣の大学等を中心に、高等教育の連携組織を整備し、単位互換やカリキュラム開発研究などを通じて、教育の質的、量的充実に努める。特に栃木県内にあつては、高等教育連絡協議会を充実し、一層の連携強化を図る。 | | 宇都宮大学が中心となり、地域の経済団体および私立大学等による「キャリア形成支援推進協議会」を設置し、産官学一体となり地域ぐるみでキャリア形成をサポートするシステムを構築し、キャリア教育の質的、量的充実に努めた（平成 22 年度から実施）。（別添資料 1-2-4, p9） |

| 小項目番号 | 小項目 5 | 小項目 | 学部・研究科の特色を発展させるため、その充実に努める。 |
|---------------|--|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 20-1 | 国際学部・国際学研究科は、APSIA の理念と目的である、政府・民間・非営利の三部門における国際的高度専門職業人養成に向けて、新設の「国際交流研究専攻」を中心に、特に市民レベルの国際交流・国際貢献に関わる教育研究体制を整備し、この分野の実践的教育を充実させる。 | | 平成 20 年度に、グローバル化に関わる実際の諸課題を解決することを目的として開設された国際学部多文化公共圏センターでは、教育学部と連携して外国人児童生徒教育問題に対応できる人材養成を手始めに、多文化公共圏形成に向けた課題解決のための教育・研究活動を進めた（平成 22 年度から文部科学省特別経費プロジェクト「グローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献」を実施）。 また、平成 21 年度に「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム（文部科学省平成 21 年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム）」を立て、地域の大学・産業界と連携して国際的専門知識、外国語運用能力、国際的実務能力を身につける実践的な国際キャリア教育を実施し、地域企業や自治体の国際化ニーズに応える人材の育成を始めた。 （別添資料 1-3-8, p26） |

| | | |
|---------|---|--|
| 計画 20-3 | 工学部附属「ものづくり創成工学センター」を中核にして、工学部におけるものづくり創造性教育を一層充実させる。なお、工学研究科の特色である副専門研修制度の一層の充実を図る。 | 平成 20 年度に工学研究科の部局化・専攻再編を実施し、柔軟性で社会状況に敏速に対応できる体制に整えた結果、学際先端システム学専攻のような融合領域での新専攻に加え、分野横断的なコースワークが生み出された。具体的には、ものづくりに関する PBL 教育である「創成工学プロジェクト」（特別講義として実施）や実践的コミュニケーション技術の習得を目指した「共創コーティング特論」が 20 年度から博士前期課程に新設され、狭い専門分野の知識を超えた創造的なものづくり力の養成を図った。（別添資料 1-3-9, p27） |
| 計画 20-4 | 農学部・農学研究科は、建学以来の実践的・体験的農業教育の伝統を受け継ぎ「現場から発想し、現場に貢献する農学の創造」をモットーに教育を一層充実させるとともに、博士課程については東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程を維持し、一大学では期待しがたい分野、特に、生物資源に関わる諸分野を中心に創造的に活躍できる実践的な高度専門職業人及び研究者を育成する。 | 農学部の教育理念の下、里山をフィールドとする学部横断的な教育・研究・社会活動を推進するため、平成 21 年 7 月に農学部附属里山科学センターを設立し、フィールドにおける Project Base あるいは Problem Base の学際的な PBL 教育を推進させ、地域の関係者とともに問題発掘・解決能力を養った。（別添資料 1-3-10, p28） |

| | | | |
|-----|----------------|--|--|
| 中項目 | 4 学生への支援に関する目標 | | |
|-----|----------------|--|--|

| | | | |
|-------|-------|-----|---------------------------------|
| 小項目番号 | 小項目 1 | 小項目 | 学生の特性に応じた、きめ細かな学習支援体制を構築し、実践する。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| | | | |
|---------------|---|-----|---|
| 小項目番号 | 小項目 2 | 小項目 | 学生の生活に関する事案に応じた、きめ細かな支援体制を構築し、実践する。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 22-1 | 教職員が一体となって、学生の生活、心身の健康、対人関係、アカデミックハラスメント、セクシュアルハラスメント等の問題に対処する支援体制と、課外活動の組織及び施設・設備等を整備して、学生の自主的活動を積極的に支援する。 | | <p>近年増加する心のトラブルに対応するため、平成20年度に保健管理センターに臨床心理士のカウンセラーを1名増員して4名とし、精神科医である保健管理センター教授や臨床心理学を専門とする教員が連携したカウンセリング体制を充実させた。また、学生相談員連絡会（全学の教職員30名）の研修会や全教職員対象のFD/SD講演会等を積極的に開催し、学生に見られる心のトラブルへの対応について研修・周知した。</p> <p>また、宇大就活応援団（JUST）（平成 20 年度から）や宇大環境改善学生サポーター（ECHO）（平成 21 年度から）など学生が主体的に活動する参加型学生支援の組織化を促し、学務部内に専用のワークスペースや機材を提供するとともに、定期的な意見交換を行い、協働して学生支援活動に当たった。（別添資料 1-4-1, p29）</p> |
| 計画 22-2 | 留学生センターを中心に留学生の生活支援体制を整備し、充実させるとともに、経済的支援を充実させる。 | | <p>留学生・国際交流課を設置し事務体制を整備し留学生への支援の充実を図ることとした。また留学生への経済支援を目的に、外部に対して基金への協力依頼を積極的に行った。（別添資料 1-4-2, p30）</p> |

| | | |
|---------|--|---|
| 計画 22-4 | 各種奨学金を開拓するとともに本学独自の奨学金制度の可能性を検討し、その実現を目指す。 | 独自の奨学金給付を可能にするため、外部に対して基金への協力依頼を積極的に行った。 (別添資料 1-4-2, p30) |
|---------|--|---|

| 小項目番号 | 小項目 3 | 小項目 | 学生の就職支援体制と支援業務を充実させる。 |
|---------------|--|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 23-1 | 職員の再配置を含めて、支援業務を充実させる。 | | <p>キャリア教育・就職支援センターの機能を充実させるため、従来のセミナー等の充実に加え、独自の就職支援システム UU Career Navi の構築、学生が馴染みやすいキャリア教育・就職支援センター事務室への改装、キャリア形成に向けたラーニングコモンズであるキャリアカフェや多目的ルーム、キャリア相談室などあらたな環境の整備、さらにキャリアアドバイザーの増員（2名から3名に）や職員の資格取得（キャリアコンサルタント）によるカウンセリング・支援力の強化などを進め、就職支援体制・支援業務を大幅に充実させた。</p> <p>また、留学生の就職をサポートするため、新たに留学生対象のインターンシップを宇都宮市商工会議所及び宇都宮市内の企業と連携して実施したほか、宇都宮大学が中心となり、地域の経済団体や私立大学と連携して「キャリア形成支援推進協議会」の設置を決め、地域ぐるみでインターンシップも含むキャリア教育及び就職活動をサポートするシステムを構築した（平成 22 年度から実施）。 (別添資料 1-4-3, p31)</p> |
| 計画 23-2 | 適性と能力に合った職業選択の目を養うためのキャリア教育を導入し、継続的に充実させる。 | | <p>共通教育から専門教育まで 4 年一貫のキャリア教育という全学方針のもとでキャリア教育・就職支援センターを効果的に機能させ、全学的なキャリア教育の基盤としての「キャリアデザインノート」の作成、各学部における OB や OG と連携したキャリア関連科目の積極的開講にあたった。また、独自の就職支援システム UU Career Navi の構築、キャリア形成に向けたラーニングコモンズであるキャリアカフェなど環境の整備、キャリアアドバイザーの充実などを図り就職支援体制を充実した。こうした大学全体のキャリア教育重視の方針を受け、学生の意識も高まり、例えば学生による宇大就活応援団 (JUST) の設置などの積極的な動きに繋がった。</p> |

| | | |
|---------|-------------------------------------|--|
| | | <p>また、「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム（文部科学省平成 21 年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム）」や、宇都宮大学が中心となり、地域の経済団体および私立大学と連携して設立が決まった「キャリア形成支援推進協議会」による地域ぐるみでキャリア教育など、独自のキャリア教育が始まった。（別添資料 1-1-2, p2）</p> |
| 計画 23-3 | <p>インターンシップ制度を活用し、就職支援体制を充実させる。</p> | <p>日本国内での就職を希望する留学生をサポートするため、新たに留学生対象のインターンシップを宇都宮市商工会議所及び宇都宮市内の企業と連携して実施したほか、東京外国人雇用サービスセンターとも連携してインターンシップの拡充並びに充実を図った。（別添資料 1-2-4, p9）</p> |
| 計画 23-4 | <p>就職情報の提供などの就職支援活動を充実・強化する。</p> | <p>独自の就職支援システム UU Career Navi の構築、就職情報や情報機器が完備したキャリアカフェ、学生による宇大就活応援団（JUST）の組織化など、様々なレベルでの就職情報の提供が充実し、キャリアアドバイザー増員やキャリア教育係設置などによりキャリア教育・就職支援センター組織が充実した。その結果、新たに、模擬面接の充実、就活バスツアー、内定者フォローセミナー、未内定者に対する就職支援相談会、留学生のための就職ガイダンスなどの就職支援活動が強化された。（別添資料 1-1-2, p2）</p> |

2 研究に関する目標の達成状況

| | |
|-----|----------------------|
| 中項目 | 1 研究水準及び研究の成果等に関する目標 |
|-----|----------------------|

| 小項目番号 | 小項目 1 | 小項目 | |
|---------------|--|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 1 - 1 | 持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、国際学、教育学、工学、農学の各分野において、個性的で発展性のある研究を積極的に支援する。 | | オプティクス教育研究センター（平成 19 年度開設）と工学研究科を中心とした光学研究の世界的拠点の形成促進に向け、キヤノンと連携して全学的支援を行った。この結果、平成 21 年 10 月に文部科学省概算要求によるオプティクス教育研究センター棟が竣工し、同年 12 月に地域産学官連携拠点整備事業の中での光融合技術イノベーションセンター（設備総額 5 億円）設置の提案が採択され、建物・設備両面から拠点整備を著しく進展させた。また、センター長を代表者とする戦略的イノベーション創出事業による年間約 1 億円の研究費（平成 21 年度から最長 10 年）の獲得等、研究体制の強化を達成した。農学部においては、平成 21 年度に科学技術振興調整費（地域再生人材創出拠点の形成）採択に伴う里山科学センターの設置、工学部と連携して申請した農林水産省の実用技術開発事業採択によるイチゴの流通システムの研究開発などを実施して地域に根差した教育研究拠点の形成を大きく進展させた。（別添資料 2 - 1 - 1, p32） |

| 小項目番号 | 小項目 2 | 小項目 | |
|---------------|---|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 2 - 1 | 教育研究評議会のもとに設置した研究企画会議において、研究に関する基本的事項を審議するほか、重点 | | 平成 16 年度から開始した重点研究プロジェクトに関して、平成 21 年度にはその顕著な成果を 2 件得ることができた。1 件目は、「外国籍の子どもたちの教育・生活環境をめぐる問題」に関する研究であり、本研究を行って来た国際学部が教育学部と連携して文部科学省概算要求を行い「グ |

| | | |
|--|--|---|
| | <p>研究プロジェクトの選定と評価を行い、必要に応じ研究推進のための支援体制を構築する。</p> | <p>ローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献」が特別経費によるプロジェクトとして認められた。2件目は、「バイオクラスターの形成と技術開発」に関する研究であり、地域共同研究開発センターとバイオサイエンス教育研究センター及び知的財産センターが連携して概算要求を行い、『首都圏近郊の農業と環境保全に貢献する「しもつけバイオクラスター」の形成』が特別経費によるプロジェクトとして認められた。</p> <p>いずれも暫定評価期間に開始した重点研究プロジェクトの成果が平成 20-21 年度において実を結び、学内の異なる部局がそれぞれの持ち味を生かしながら連携して地域貢献を柱とする特別経費の獲得に至ったものである。(別添資料 2-1-2, p33)</p> |
|--|--|---|

| 小項目番号 | 小項目 3 | 小項目 | 研究成果を広く社会に公表するとともに、効果的に還元する。 |
|---------------|---|-----|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 3-1 | 研究成果を迅速かつ効果的に社会に公表するために、教員の研究情報ファイリングシステムを社会のニーズに合わせて一層充実させる。 | | <p>平成 20 年度に「第 2 回宇都宮大学企業交流会」を開催した他、産学官連携推進会議やイノベーションジャパン等で研究成果の発表や企業相談会等、活発な情報交換を行い、研究成果の社会還元を推進した。また、首都圏北部 4 大学連合（宇都宮大、群馬大、茨城大、埼玉大から成る。以下「4U」と略す）の研究シーズ集第 2 巻及び宇都宮大学版の研究シーズ集を発行し、社会への公表に努めた。さらに、平成 21 年度には「第 3 回宇都宮大学企業交流会」を開催し、産業界・自治体等から約 400 人もの多数の参加者があった。本学の研究シーズを 4U 新技術説明会や JST 新技術説明会で紹介するとともに、産学官連携推進会議、イノベーションジャパン、彩の国ビジネスアリーナに出展し普及に努めた。また、4U 活動の一環として「宇都宮大学研究室紹介集」及び 4 大学の「産学官連携事例集」を作成した他、本学独自の「研究シーズ集」を作成し HP に掲載して、広く社会に公表した。</p> <p>これらの取組み内容は、質量ともに著しく進展・向上している。(別添資料 2-1-3, p34)</p> |
| 計画 3-2 | 産業界等のニーズを的確に把握・整理して学内に周知することに | | <p>平成 20 年度は、産業界等から 150 件の技術相談に応じ、産学官連携事業の一層の推進を図った。平成 21 年度には、栃木県商工会連合会と「社会連携に係る協定」を締結し、同会職員を非常勤</p> |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>より、地域共同研究センター等の学内センターと産官との連携を強化し、研究成果の社会還元を積極的に展開する。</p> | <p>コーディネータに委嘱するとともに、県内 39 ヶ所に亘る商工会に本学の技術相談窓口を設置して、地域のもつ課題を相談しやすい体制を整えた。この本学独自の取組みにより、研究成果の社会還元が平成 20-21 年度の 2 年間で大きく進展した。さらに、全国的にも例の少ない取組みとして、地域銀行の行員を非常勤コーディネータに委嘱して、地域産業界の技術課題発掘に努めた。</p> <p>これらの成果により、本学は、日経グローバルによる全国国公立大学の地域貢献度総合ランキングにおいて平成 20 年度発表で 2 位、平成 21 年度発表で 8 位と高位を保ち、国立の総合大学として常に 1 位を確保している。</p> <p>また、京都府農林水産技術センター、(株)微生物科学研究所と本学との産学官連携によって行った「キュウリのウィルス病のワクチン開発」による業績が認められ、本学教授の産学官連携功労者表彰・農林水産大臣賞受賞が決定したこともこの 2 年間の顕著な成果である (H22. 6. 5 受賞)。</p> <p>(別添資料 2-1-4, p35)</p> |
|--|---|--|

| | | | |
|-------|-------|-----|--|
| 小項目番号 | 小項目 4 | 小項目 | 社会及び地域の学術、文化、産業及び生涯教育を支援する中核としての機能を担う。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| | | | |
|-------|-------|-----|--------------------------------|
| 小項目番号 | 小項目 5 | 小項目 | 「組織的に研究の水準・成果を把握し、研究の推進に努める。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| | | | |
|-----|--------------------|--|--|
| 中項目 | 2 研究実施体制等の整備に関する目標 | | |
|-----|--------------------|--|--|

| | | | |
|-------|-------|-----|--|
| 小項目番号 | 小項目 1 | 小項目 | 策定した重点研究プロジェクトについては、研究者・研究支援者の配置，研究費の配分及び施設・設備の利用に関して特段の配慮をする。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| | | | |
|---------------|---|-----|---|
| 小項目番号 | 小項目 2 | 小項目 | 従来の個人的研究に加えて，複数の教員及び学外者からなる共同研究プロジェクトを積極的に推進する。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 7-3 | 科学研究費補助金及び受託研究費や奨学寄付金等の外部資金の積極的導入を督励し，その成果（申請，採択等）を教員の研究費配分並びに人事評価に反映させる。 | | 学長のリーダーシップのもとに，戦略的な外部資金獲得支援のあり方の検討及び学内の研究シーズとのマッチングや外部資金獲得を中心とした研究の活性化を図ることを目的として，平成 21 年 11 月に競争的資金獲得のための学長補佐チーム（研究・国際交流担当理事をリーダーに，4 学部，2 センターの教員及び研究国際課長，財務課長により構成）を立ち上げた。本チームでは，他大学の実態や各種外部資金の調査，教員基礎情報を用いた学内シーズの調査などを精力的に行うとともに，科学研究費補助金をはじめとする受託研究費や奨学寄付金等の各種外部資金導入に向けた戦略の企画立案，学部を超えた研究プロジェクトの構築による申請・採択の方策を具体化した。（別添資料 2-2-1，p36） |

| | | | |
|-------|-------|-----|---------------------------------|
| 小項目番号 | 小項目 3 | 小項目 | 特色ある研究を支援するための共同利用可能な研究環境を整備する。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| 小項目番号 | 小項目 4 | 小項目 | 研究支援のための学術情報資料の整備・充実を図る。 |
|---------------|--|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 9 - 1 | 研究活動の成果を知的財産として管理する体制の強化を図るために、知的財産本部の設置を目指し、知的財産の創出、特許出願件数の増加を含めた知的財産の確保の強化とその活用の促進並びに知的財産を育む教育研究の充実に努める。 | | 平成 20-21 年度における取組みとして、学内の特別支援事業により配置した発明発掘コーディネータ（非常勤）、JST により採択となった 4U 事業により採用した特任教授、JST 派遣のコーディネータが、研究室を回訪して、質の高い研究成果の権利化とともに知財活用の意識高揚を図った。 この結果、出願件数が平成 19 年度の 35 件から平成 21 年度には 41 件と大きな伸びを示すとともに、本学初の新品種育成者権「ゆうだい 21（イネ）」の登録という大きな成果を得た。「ゆうだい 21」は、本学教授が開発したイネの新品種であり、いもち病に強く、倒伏しにくく、食味もコシヒカりに肩を並べるなどの優れた特徴を有している。農家への種籾頒布も行い、新品種の拡大展開を図った。特許の出願件数の大きな伸び、コシヒカ리를凌ぐイネの新品種登録により、本学の知的財産に大きな進展をもたらした。（別添資料 2 - 2 - 2, p37） |

3 社会との連携, 国際交流等に関する目標の達成状況

| | | | |
|---------------|--|-----|--|
| 中項目 | 1 社会との連携, 国際交流等に関する目標 | | |
| 小項目番号 | 小項目 1 | 小項目 | 現代社会が抱える生活・教育・文化・産業・行政・環境等の諸課題に取り組むために, 広く社会と教育研究面での交流を積極的に展開する。 |
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 1-1 | 産学官連携プロジェクトを効果的に推進するため, 地域共同研究センターをはじめとする関係部局の機能を拡充強化する。 | | <p>平成 20 年 7 月、文部科学省産学官連携戦略展開事業へ本学からの提案事業「首都圏北部 4 大学連携による広域的産学官連携活動の展開」が認められ「戦略展開プログラム」に採択された。</p> <p>この事業によりコーディネータ及び特任教授を配置し, 産学連携活動を一層強化した結果, 本学及び小山工業高等専門学校との連携による「屋上防水・断熱・通気」等の商品開発支援が経済産業省の「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金」に採択され, 製品化推進のための体制を構築できた。</p> <p>また, 産学官連携プロジェクトの体制強化及びインキュベーション機能を強化するため, 平成 21 年度末に地域共生研究開発センターの大学院 VBL 部門にインキュベーション推進室を新設することを決定し, 大学の研究成果を加速的に応用・実用化できる新体制を整備し, 基礎研究から実用化・製品化までの流れを構築した。</p> <p>産学官連携推進のための外部資金獲得、その資金の活用による連携への取組み及び成果, またそのための学内組織整備は, 著しく進展・向上した。 (別添資料 3-1-1, p38)</p> |
| 計画 1-2 | 近隣の各種教育研究機関や企業等と連携した研究プロジェクトを推進するため, 地域の研究ネットワークを構築する。 | | 全国的にも例の少ない取組みとして, 地域銀行, 商工会議所の職員等を非常勤コーディネータとして配置し, 産学官連携活動を強化した他, 4U(4 大学連携)による県域を越えた活動を展開し, 共同研究, 県域を超えた研究会(食と安全と健康)を複数件立ち上げたことは, 地域の研究ネットワークおよび産学官連携の強化の観点から, 顕著な取組みである。さらに, 計画 2-1 に記載の通り, 地域共生研究開発センターとバイオサイエンス教育研究センター及び知的財産センタ |

| | | |
|-------|----------------------------|---|
| | | <p>ーが連携して文部科学省概算要求を行い、『首都圏近郊の農業と環境保全に貢献する「しもつけバイオクラスター」の形成』が特別経費によるプロジェクトとして認められた。この「しもつけバイオクラスターの形成」は、地域におけるバイオ関連の産学官連携ネットワーク形成と地域のバイオ拠点形成に大きく資するものである。（別添資料3-1-2, p39）</p> |
| 計画1-3 | <p>学内共同利用施設の社会開放を拡大する。</p> | <p>本学地域共生研究開発センターの機器を広く学外者の活用に資するため、平成22年3月に学外者の利用に関する規程を定め、利用料金、利用条件、秘密の保持等、実施に当たっての必要事項を明記した。</p> <p>これにより、学-学の相互利用に限定せず、広く社会一般、特に地域産業界へ機器利用を促すとともに、本学のモットーである「地域に学び、地域に返す。地域と大学の支え合い」を実践し、機器共同利用の観点から地域貢献を著しく高めることとなった。これは全国的にあまり例を見ない取り組みである。（別添資料3-1-3, p40）</p> |

| 小項目番号 | 小項目2 | 小項目 | 地域貢献の本学の理念「地域に学び、地域に返す、地域と大学の支え合い」を基本に地域連携を積極的に推進する。 |
|-----------|--|--|--|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成20年度及び21年度における実施状況 |
| 下記以外の中期計画 | | | 平成19年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画2-6 | <p>光学技術を維持し、強化するため、光学技術者育成と光学研究を担う教育研究拠点として、民間企業と連携して本学にオプティクス教育研究センターを開設する。</p> | <p>オプティクス教育研究センターは平成19年4月に開設されたが、平成20-21年度において、教育研究拠点として次のような著しい進展があった。まず、光学技術者育成の観点からは、工学研究科・学際先端システム学専攻（定員58名）にオプティクスコースを平成20年度に設置し、平成21年度に42名もの第1期生が修了している。また、19, 20年度はオプティクス教育指定科目修了者に「オプティクス教育指定科目修了証」を授与しており、19年度1名、20年度36名であった。光学研究の観点からは、文部科学省概算要求（研究推進）とキヤノンからの寄付金により、特任准教授1名と特任研究員9名を採用した。また、概算要求（施設整備）によるオプティクス教育研究センター棟の竣工、「地域産学官連携拠点整備事業」（代表者 栃木県）の採択による本学敷地内への光融合技術イノベーションセンターの立上げ、オプティクス教育研究センター長を代表者とした戦略的イノベーション創出事業への応募・採択による最長10年間、年間約1億円の研</p> | |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>究費の獲得など、総合的に見て光学分野における教育研究拠点として顕著な進展があった。 (別添資料 3-1-4, p41)</p> |
|--|--|--|

| 小項目番号 | 小項目 3 | 小項目 | 教育研究活動の国際交流を積極的に推進する。 |
|-------|-------|-----|--------------------------------|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 全中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |

| 小項目番号 | 小項目 4 | 小項目 | 地域社会の国際化や国際交流に積極的に貢献する。 |
|---------------|--|-----|---|
| 計画番号 | 中期計画 | | 平成 20 年度及び 21 年度における実施状況 |
| 下記以外の 中期計画 | | | 平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。 |
| 計画 4-1 | <p>国際交流センター（仮称）の設置に努めるとともに、それを中核として、地域社会の国際化・国際交流を積極的に支援する。</p> | | <p>「国際学部多文化公共圏センター」（平成 20 年 4 月設置）は地域の国際化やグローバルな諸問題に対する調査研究や実践的活動を担っている。第一に、シンポジウムや市民講座などを通して、先端的な研究成果を広く社会に対して発信した。第二に、多文化共生の地域づくりをテーマとする調査を宇都宮市と共同事業として行った。本学と地域との連携をベースとした、多文化共生に関する大規模調査は本県では過去に例がない。第三に、より広く学生と社会の要請に応えるために、教育学部と協力して「グローバル化に対応する人材養成と地域貢献」に関する研究計画を策定した。この結果、国際学部と教育学部が連携した計画案が、3年間の文部科学省の特別経費プロジェクトとして採択され、新規授業科目「グローバル化と外国人児童生徒教育」の開設も決定していることを踏まえると社会との連携がこの2年間において大きく進展・向上している。 (資料番号 3-1-5, p42)</p> |
| 計画 4-2 | <p>国際的な NGO (Non-Governmental Organization) , NPO (Nonprofit Organization) 活動に関する教育研究を拡充するとともに、その機会や成果を広く社会にも公開する。</p> | | <p>宇都宮大学と近隣の私立大学が共同で実施してきた「国際キャリア合宿セミナー」の実績を踏まえ、大学連携の強化と地域産業界の人的資源の有効かつ効率的活用を図り、学生に国際的学術分野の専門性を身につけさせ、地域企業や自治体の国際化ニーズに応える教育プログラム「地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム」が文部科学省平成 21 年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択され、学生の国際キャリア形成に著しく貢献している。 (別添資料 3-1-6, p43)</p> |

Ⅱ. 「改善を要する点」についての改善状況

| 改善を要する点 | 改善状況 |
|--|---|
| <p>【教育】</p> <p>○ 中期計画「教育の成果を検証するために、同窓会や広く社会の識者を含めた評価を行う」について、同窓会関係以外の識者を加えた評価に関する取組が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。</p> <p>○ 中期計画「外国語による授業を拡大する」について、外国語による授業拡大についての自己分析がなされておらず、中期計画の進捗状況が認められないことから、改善することが望まれる。</p> | <p>○ 国際学部・国際学研究科では、栃木県経済界、市民活動グループ、APSIA 関係等、国内外の大学教員を委員に委嘱して平成 21 年度に外部評価を実施した。工学部・工学研究科では、群馬大学工学部・工学研究科との間で、相互外部評価を行うこととし、平成 21 年度は本学応用化学科・物質環境化学専攻の外部評価を実施し、貴重な提言を得た。農学部・農学研究科では、里山を対象にした学部横断的な教育活動について、「農学部顧問会議」、「とちぎ食・環境・農のネットワーク」など、外部からの積極的な評価を受けて農学部附属里山科学センターを平成 21 年 7 月に設立した。</p> <p>キャリア教育・就職支援センターでは、平成 21 年度に学生の就職先へのアンケートを実施して OB や OG の就職後の状況を把握するとともに、平成 20、21 年度に実施したキャリアフェスティバルの際に、パネルディスカッションの講師を努めた企業人事担当責任者から卒業生の評価をインタビューし、就職活動支援の参考に供した。また、平成 21 年 11 月に創立 60 周年記念シンポジウム「宇都宮大学ブランドを考える」を開催し、同窓生を含む著名な外部講師 5 名から今後の宇都宮大学の教育活動に対する貴重な提言を受けた。</p> <p>(別添資料 1-1-4, p4) (別添資料 1-1-5, p5)</p> <p>○ 国際学研究科を中心に、大学院での英語による授業の拡大が進められ、平成 19 年度で 4 科目であったものが 21 科目にまで増加した。一方で、全学教務委員会において分析したところ、現段階での全学的な英語による授業の拡大が、授業内容の理解度を低下させる可能性が高いとの結論を得た。こうしたことを踏まえ、授業の拡大だけでなく、大学院での英語による講義に対応できるような英語力の上昇をめざし、共通教育英語の充実による学生の英語基礎力向上と</p> |

| | |
|--|---|
| <p>○ 中期計画「GPA を基本にした総合的達成度評価法を開発し、試行する」について、大学院では、現時点でもグレード・ポイント・アベレージ (GPA) 導入の可能性が検討段階であり、十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる。</p> | <p>学部教育における専門英語の充実を図ることとした。すなわち平成 21 年度の 1 年生向け共通教育英語では全ての授業を英語で実施した。また、共通教育センターによる英語学習強調週間では理系英語なども積極的に取り入れ、工学部、農学部の学生の英語力向上に努めた。また国際学部では、外国語授業科目として外国の大学が主催する授業を受講し単位に振り替える「外国語臨地演習」を開講し、現在オーストラリアのカーティン工科大学、台湾師範大学との間で実施するなど、実質的な外国語による講義の拡大を図った。 (別添資料 1-2-7, p12)</p> <p>○ 各研究科において大学院課程の GPA 制度導入について試行するとともに、全学教務委員会において試行結果の分析を行った。その結果、大学院課程では履修者数及び科目数が少ないことなどから、現段階では講義科目中心の GPA や GPT だけでは達成度の評価が困難であることが示唆された。その上で、総合的達成度を評価するには、学位論文の客観的評価、学会発表・投稿論文などの成果、TA や RA の活動、現地調査やインターンシップ活動なども点数化して加える必要があると判断され、そうした案の具体化を進めることとなった。</p> <p>(別添資料 1-2-12, p17)</p> |
|--|---|

正誤表「平成20、21年度中期目標の達成状況報告書」

宇都宮大学

| | 頁数 | 大項目・中項目・計画番号 | 該当欄・行数等 | 誤 | 正 |
|---|------------|-------------------------|---------------|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 | 報告書 6頁 | 教育・教育内容等に関する目標・計画8-2 | 実施状況欄上から2行目 | ディプロマポリシーの中に <u>揚</u> げられた | ディプロマポリシーの中に <u>掲</u> げられた |
| 2 | 報告書 14頁 | 教育・教育の実施体制に関する目標・計画20-1 | 実施状況欄上から1行目 | グローバル化に関わる <u>実</u> 際的諸課題 | グローバル化に関わる <u>実</u> 践的諸課題 |
| 3 | 報告書 15頁 | 教育・教育の実施体制に関する目標・計画20-3 | 実施状況欄上から1行目 | 専攻再編を実施し、 <u>柔</u> 軟性で | 専攻再編を実施し、 <u>柔</u> 軟で |
| 4 | 報告書 17頁 | 教育・教育の実施体制に関する目標・計画23-1 | 中期計画欄・上から1～2行 | 職員の再配置を含めて、 <u>支</u> 援業務を充実させる。 | 職員の再配置を含めて、 <u>就</u> 職支援体制を一層強化する。 |
| 5 | 報告書 28頁 | 「改善を要する点」についての改善状況 | 改善状況上から1行目 | 専門英語の充実を図 <u>こ</u> ととした。 | 専門英語の充実を図 <u>ら</u> ることとした。 |

平成20、21年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成22年6月
宇都宮大学

目 次

| | | |
|----------|------------------------------|----|
| 資料1-1-1 | 共通教育の改革 | 1 |
| 資料1-1-2 | キャリア教育・就職支援の充実 | 2 |
| 資料1-1-3 | 大学院教育課程の充実 | 3 |
| 資料1-1-4 | 博士後期課程に対する外部の評価 | 4 |
| 資料1-1-5 | 修士課程・博士前期課程に対する外部の評価 | 5 |
| 資料1-2-1 | あらたな「共通教育」の骨子(案)(抜粋) | 6 |
| 資料1-2-2 | 教育プログラムの見える化 | 7 |
| 資料1-2-3 | シラバスやカリキュラム整備による学習支援 | 8 |
| 資料1-2-4 | 実践的なキャリア教育の充実 | 9 |
| 資料1-2-5 | 学習・教育目標に対する達成度の総合的評価方法 | 10 |
| 資料1-2-6 | 創造性と課題解決能力を高めるPBL教育 | 11 |
| 資料1-2-7 | 英語による授業と英語基礎力の充実 | 12 |
| 資料1-2-8 | 学生にわかりやすい教務情報 | 13 |
| 資料1-2-9 | シンポジウムによる専門英語力の養成 | 14 |
| 資料1-2-10 | 国際的視点からのインターンシップの例 | 15 |
| 資料1-2-11 | 大学院シラバスの改善 | 16 |
| 資料1-2-12 | 大学院でのGPA評価 | 17 |
| 資料1-2-13 | 全学的FD活動 | 18 |
| 資料1-3-1 | 教育目標に対応した教員の適正な配置 | 19 |
| 資料1-3-2 | 利用者の目線に立った教務情報サービスネットワークの再構築 | 20 |
| 資料1-3-3 | 実践的教育のための新たな施設設備整備 | 21 |
| 資料1-3-4 | アクティブラーニング環境の整備 | 22 |
| 資料1-3-5 | 課外活動施設・設備の充実 | 23 |
| 資料1-3-6 | 教育企画会議による教育改善の推進 | 24 |
| 資料1-3-7 | 授業改善のための中間アンケート | 25 |
| 資料1-3-8 | 国際学研究科の特色ある取り組み | 26 |
| 資料1-3-9 | 工学研究科の特色ある講義 | 27 |
| 資料1-3-10 | 農学部の新たな特色ある教育 | 28 |
| 資料1-4-1 | きめ細かな学生支援1 | 29 |

| | | |
|---------|--------------------------------|----|
| 資料1-4-2 | 留学生に対する経済支援 | 30 |
| 資料1-4-3 | きめ細かな学生支援2 | 31 |
| 資料2-1-1 | 関連新聞記事 | 32 |
| 資料2-1-2 | 概算要求資料等 | 33 |
| 資料2-1-3 | 企業交流会開催のポスター | 34 |
| 資料2-1-4 | 日経グローバルによる地域貢献度ランキング等の新聞記事 | 35 |
| 資料2-2-1 | 競争的資金獲得チーム構成員名簿及び取組内容 | 36 |
| 資料2-2-2 | ゆうだい21（イネ）の新種登録された新聞記事 | 37 |
| 資料3-1-1 | ものづくり中小企業の開発等の新聞記事等 | 38 |
| 資料3-1-2 | 産学連携コーディネータ・4U活動の新聞記事等 | 39 |
| 資料3-1-3 | 宇都宮大学地域共生研究開発センター機器の学外利用に関する規程 | 40 |
| 資料3-1-4 | 光学技術者育成関連 | 41 |
| 資料3-1-5 | 地域社会との連携 | 42 |
| 資料3-1-6 | 国際キャリア合宿セミナー関連新聞記事 | 43 |

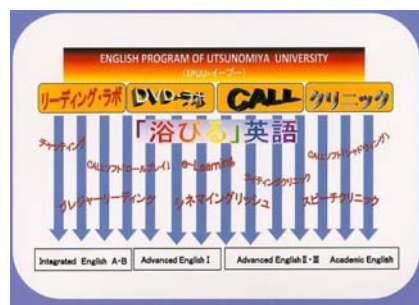
資料 1-1-1 共通教育の改革

平成20年度 第3回教育企画会議要録(抜粋)

日時：平成20年7月17日(木)16時10分
 場所：本部棟第2会議室
 出席者：理事 海野 孝(議長)
 国際学部 友松篤信、佐々木史郎
 教育学部 塚本 純、石野健二
 工学部 井本英夫、馬場敬信
 農学部 田坂聡明、関本 均

報告
1. 新共通教育英語教育への取組みの骨子について
 委員長より報告の後、以下のような意見があった。
 ・教育研究評議会前の6月開催教育企画会議に踏るべきであった。
 ・英語教育の改革は、共通教育全体に関わる理念について検討し、全体のあり方を見直す中で行われるべきである。
 ・共通教育センターを機能させるべきである。

以上終了 18時25分



改革後の英語教育の構成

共通教育英語改革に関する教育企画会議

English Program of Utsunomiya University (EPUU) - イブフー

○専任教員
 ○特定科目担当教員

担当教員

専任教員: 友松篤信 (国際学部), 佐々木史郎 (国際学部), 塚本純 (教育学部), 石野健二 (教育学部), 井本英夫 (工学部), 馬場敬信 (工学部), 田坂聡明 (農学部), 関本均 (農学部)

特定科目担当教員: 友松篤信 (国際学部), 佐々木史郎 (国際学部), 塚本純 (教育学部), 石野健二 (教育学部), 井本英夫 (工学部), 馬場敬信 (工学部), 田坂聡明 (農学部), 関本均 (農学部)

共通教育英語担当教員配置 (本学HPより抜粋)

資料1-1-1 英語リテラシー教育科目 学生評価一覧 (2009年10月26日)

| 年度 | 科目名 | 担当教員 | 履修者数 | 回答者数 | Q1 | Q2 | Q9 | Q10 | Q11 | Q12 | Q1~3 | Q4~12 |
|-----|----------------------|-------------------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| H17 | 英中Ⅰ | | 2,045 | 1,819 | 3.79 | 3.28 | 3.89 | 3.78 | 3.85 | 3.84 | 3.29 | 3.88 |
| | 英中Ⅱ | | 2,795 | 2,547 | 3.67 | 3.47 | 3.79 | 3.57 | 3.81 | 3.75 | 3.51 | 3.75 |
| H18 | 英中Ⅰ | | 2,107 | 1,891 | 3.95 | 3.68 | 3.97 | 3.79 | 3.96 | 3.98 | 3.61 | 3.95 |
| | 英中Ⅱ | | 3,144 | 2,790 | 3.84 | 3.70 | 3.83 | 3.68 | 3.85 | 3.83 | 3.65 | 3.84 |
| H19 | 英中Ⅰ | | 1,979 | 1,789 | 4.00 | 3.98 | 3.95 | 3.85 | 3.98 | 4.01 | 3.92 | 3.95 |
| | 英中Ⅱ | | 3,142 | 2,718 | 3.97 | 3.78 | 3.90 | 3.79 | 3.92 | 3.95 | 3.92 | 3.91 |
| H20 | 英中Ⅰ | | | | | | | | | | | |
| | 英中Ⅱ | | | | | | | | | | | |
| H21 | Integrated English A | 塚本 純 伊藤 幸夫 | 817 | 784 | 4.37 | 4.09 | 4.47 | 4.45 | 4.43 | 4.59 | 4.05 | 4.47 |
| | Integrated English B | 菅生 1 氏 伊藤 幸夫 氏 | 151 | 148 | 3.95 | 3.95 | 3.95 | 3.99 | 4.01 | 3.84 | 3.73 | 3.92 |
| | | | 437 | 411 | 4.01 | 3.94 | 4.08 | 4.16 | 4.20 | 4.41 | 4.04 | 4.53 |

アンケートの質問
 学生自身に対する質問
 1. この科目に意欲的に取り組んだ。
 2. 授業の準備や復習に心がけた。
 3. 質問紙や疑問点について質問した。
 教員に対する質問
 4. 受講してこの科目や関連分野に興味が増した。
 5. 教員は質問に適切に対応した。
 6. 教員は授業内容が明確であるように努力していた。
 7. 授業がクラスメイトの理解・目的と合致していた。
 8. 教員は熱意を持って授業をしていると感じた。
 9. 授業の進み具合は適切だった。
 10. 黒板や資料を効果的に使用していた。
 11. 教科書あるいは資料は適切であった。
 12. 総合的に判断してこの授業に満足している。

| 平均 | 最大 | 最小 | 標準偏差 |
|------|------|------|-------|
| 4.55 | 4.96 | 4.00 | 0.265 |
| 4.47 | 4.69 | 4.17 | 0.246 |

平成21年11月17日
 第7回 教育企画会議資料

「浴びる英語」による教育効果改善

平成21年度 第11回教育企画会議議事要録(抜粋)

日時：平成22年3月16日(火)9時00分から
 場所：本部棟第2会議室
 出席者：理事 石田 朋晴(議長)
 共通教育担当 深見 元宏
 国際学部 友松 篤信、佐々木 史郎
 教育学部 菅西 秀徳、石野 健二
 工学研究科 石井 清、池田 聖
 農学部 田坂 聡明、関本 均
 教育改革推進チーム 塚本 純

議事に先立ち、平成21年度第10回教育企画会議議事要録(案)を確認。

議題

4. 「共通教育科目」改革の素案について
 資料11-4: 「共通教育科目」改革の素案
 審議結果)
 教育改革推進チーム塚本教授から資料に基づき説明があった後、種々意見交換があった。
 なお、議長(理事)から今後の進め方については、当該意見等を踏まえ、素案を修正のうえ、各学部へ提示する旨説明があった。

共通教育に関する教育企画会議

あらたな「共通教育」の骨子(案) 抜粋
 2010.3 教育改革推進チーム

I. 基本的な認識と改善方向

「教養教育」は、学士力の基盤として専門教育と補完し合って学士課程教育を形成するものであり、宇都宮大学は、「宇都宮大学の理念と目標」と「教育目標」に、その重要性を掲げてきた。こうした認識の下、より良い「教養教育」の実施に向け、一歩ずつ改善に努めていくことが不可欠と考える。

宇都宮大学では、教養部廃止以降「教養教育」を「共通教育」とし、全学出動体制で取り組んで来た。しかし、「共通教育」に対する全学的認識は必ずしも統一されて居らず、特に近年は、教育内容や責任体制が不明確な状態になりつつある。さらに学内組織や教員の変化、教育予算・人的資源の削減の中で実施体制の弱体化が急速に進み、責任ある「共通教育」の維持が困難になりつつある。

そのような中で、「教養教育」を維持・改善する第一歩として、まず目的が明確となる「共通教育」枠組みの再構成と、継続的に実施が可能で実効性のある「共通教育」体制の構築が必要と考える。

宇都宮大学の理念と目標
 「宇都宮大学は、広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を推進し、人間の福祉の向上と世界の平和に貢献することを基本的な目標としています。」
 1. 幅広い高い教養と実効的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成します。
 2. 持続可能な社会の形成を促す研究を中心とし、高水準で専攻のある研究を推進します。
 3. 地域社会のみならず国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開します。
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/riken.html>

宇都宮大学の教育目標
 専攻に基く専門性を身につけ、高い視野とバランスのとれた知識を可能にする豊かな人間性を培った人材の育成をめざします。
 1. 幅広い社会に必要なリテラシー(読解)、幅広い高い教養と豊かな人間性身につけるための教養教育を行います。
 2. 実践的で専門的な知識を修得するための専門教育を行います。
 3. それらをもとに主体的に行動しつつ、第一歩教育により、未来を切り開く力と行動力を持ち、新しい時代に活躍できる人材を養成します。

1. 基本認識 *以下では骨子を簡潔に述べ、
 「教養教育」は学士力の基盤となり、専門教育と補完し合い学士課程教育を形成するものであり、宇都宮大学としては、より良い「教養教育」の維持・改善に努める。

2. 改善の方向
 *まず第一段階として、共通教育の枠組みの整理、実施体制の整備の二点を重点的に実施する。
 「初期導入科目」、「リテラシー科目」、「教養科目」等からなる共通教育の枠組みのコンセプトは、本来先進的なものであり、現在の他大学の例と比べても遜色あるものではない。しかし、度重なる枠組みの変更や追加により、分かりにくいものとなりつつある。また、高校までの教育内容の弱体化等に伴って必要となった(「理系基礎教育」に象徴される)リメディアル教育、あるいはキャリア教育など、以前にも増して必要性が増しつつある教育に対し、対応しにくい枠組みの構成になっている。
 また、責任ある「共通教育」を維持・改善するには、科目の担当体制に加え、科目群のコンセプトに基づき科目構成等の調整や改善を進める責任体制などが不可欠であり、こうした体制を再整備しておく必要があることは言うまでもない。加えて、どのような優れたカリキュラムができたとしても、その受講を保障するような体制、すなわち時間割が適切でなければ、「共通教育」の

あらたな「共通教育」の骨子(案)抜粋

資料1-1-2 キャリア教育・就職支援の充実



キャリアデザインノート

◎E棟1階入り口にあった「就職資料閲覧室」を共通教育D棟2階の既存のキャリア教育・就職支援センターの廊下を挟んだ向かい側に「キャリア・カフェ」として移転させました。ゆったりと快適な空間に充実した資料を取り揃えましたので、友達との就活の情報交換等に気軽に利用してください。



キャリアカフェ

JUST (宇大就活応援団)

～内定ももらった先輩が、幅広い就職活動・採用試験をサポートしています！～

- JUSTとは・・・
就職のために就職支援セミナー等を実施する内定者の団体です。
- 活動内容
・就職活動支援のためのセミナー等の企画及び実施
・必要に応じて、キャリア教育・就職支援センター主催事業の補助
- 目的
先輩に就職活動へのきっかけを与え、就職活動がスムーズに行えるようサポートすることを目的としています。
また、内定者自身も先輩の就職支援事業の企画・実施を通して実社会において必要とされる積極性、主体性、協調性、独創性、コミュニケーション能力などを養うことができます。
- 活動内容(第2期生)

☆メンバー数

| | | |
|---------|-----------|-----------|
| 企画・実施担当 | 国際学部 | 6名 |
| | 教育学部 | 2名 |
| | 工学部 | 2名 |
| | 農学部 | 5名 |
| | 工学研究科 | 2名 (計17名) |
| 協力者 | 学部・研究科内定者 | 30名 |



JUST(宇大就活応援団)

就職活動の味方

『UU Career Navi』のモバイル版が誕生

皆さんの就職活動をより充実したものにするために『UU Career Navi』のモバイル版ができました。
ホームページとモバイル版を使って、就職活動をより円滑に進めよう！

UU Career Navi モバイル版を使うメリット

POINT ①

宇都宮大学への採用意欲の高い企業に、エントリー、説明会予約がタイムリーにできる

POINT ②

宇都宮大学内で行われる就職支援ガイダンスに、いつでもどこでも予約できる

POINT ③

キャリア教育・就職支援センターで行われるキャリア相談予約がいつでもどこでも予約できる

UU Career Navi(キャリアナビ)

平成21年度 特別講義Ⅱ (キャリアデザイン) の報告(抜粋)

教育改善委員 大澤 (2010/1/5)

1. 講義スケジュールと学生評価

講義スケジュール

| | | |
|-----|------------------------------------|---------------|
| 第1回 | 10月8日(木): ガイダンス | 最も印象的だと感じた学生数 |
| 第2回 | 10月22日(木): 辻市 徹 先生(国家公務員・国際協力・農水省) | 5人 |
| 第3回 | 10月29日(木): 小山 正廣 先生(地方公務員・栃木県庁) | 2人 |
| 第4回 | 11月5日(水): 三角 光弘 先生(職業実践マナー・サンマー) | 4人 |
| 第5回 | 11月12日(木): 清水 太一 先生(コンサルタント・日本工業) | 4人 |
| 第6回 | 11月19日(木): 若杉 晃介 先生(研究者・農村工学研究所) | 12人 |
| 第7回 | 11月26日(木): 岡 元弘 先生(農薬) | 5人 |
| 第8回 | 12月3日(木): 大竹 真和 先生(教育者・農業高校教諭) | 7人 |

講義の満足度(5段階評価)・・・4.6点

学生の感想

| | |
|---------------------|-----|
| ・様々な職業に関する情報が得られた | 12人 |
| ・就職を躊躇するようになった | 7人 |
| ・講師の大学生活を聞いて参考になった | 3人 |
| ・研究職に興味を持つようになった | 3人 |
| ・公務員の話を聞いて良かった | 2人 |
| ・教員に会えた | 1人 |
| ・部活に関することができない話を聞いた | 1人 |
| ・講義資料が良かった | 1人 |
| ・農業という選択もあることを知った | 1人 |
| ・興味がある講義とそうでない講義がある | 1人 |

要望

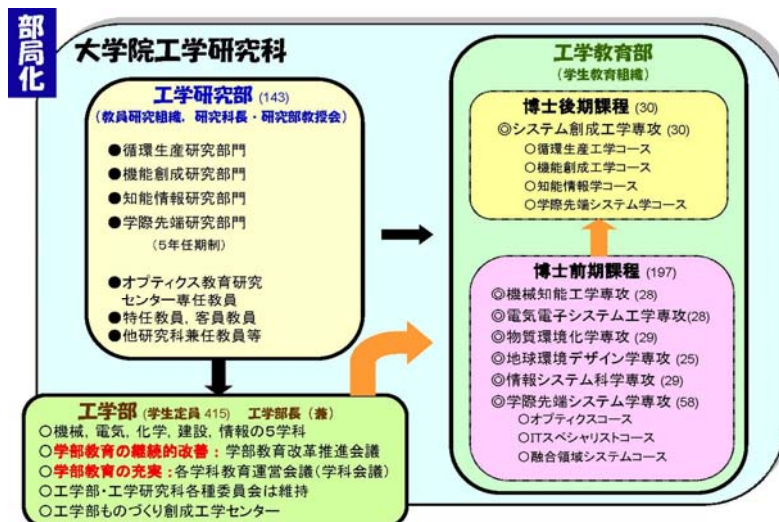
| | |
|-------------------------------|----|
| ・他の講義(農業工学以外)についても聞きたかった | 2人 |
| ・製造業(ものづくり)の話も聞きたかった | 1人 |
| ・毎年開講して欲しい | 1人 |
| ・早い時期の講義の方がよい | 1人 |
| ・年度の講師の講義はわかりづらい | 1人 |
| ・女性のキャリアも聞きたかった | 1人 |
| ・キャリアをどのようにデザインするかという説明が欠けていた | 1人 |

(1単位講義)

学部でのキャリア科目の例

国際キャリア合宿セミナー

資料 1 - 1 - 3 大学院教育課程の充実



大学院工学研究科部局化の概要

文部科学省科学技術振興調整費 地域再生人材拠点の形成
里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム

宇都宮大学 栃木県

文字サイズ変更 小 中 大

Menu

- トップページ
- プログラムの概要
- 実施体制
- カリキュラム
- スケジュール
- 募集要項**
- 行事案内
- 里山と野生鳥獣
- リンク集
- お問合せ

募集要項

文部科学省科学技術振興調整費
里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム

平成22年度 受講生募集要項

増加傾向にある野生鳥獣による農林業等への被害を防除するには、効果的な対策を地域が一体となって行うことが大切です。

このため国立大学法人宇都宮大学では、栃木県と連携して、効果的な鳥獣対策を行うために地域で指導的な役割を果たす専門的な知識・技術を有する人材を養成するプログラムを昨年度に引き続き開講することになりました。このプログラムは、地域の情報収集、問題点の解明、解決策の提案と実施計画の策定をトータルに行うことのできる「地域鳥獣管理プランナー養成コース」と、地域ぐるみで行う総合的な防除対策の指導を行うことのできる「地域鳥獣管理専門員養成コース」に分かれており、修了者は、その知識を活かして地域での活躍が期待されています。

1. 募集人員：平成22年度受講生（第二期生）15名程度
2. 受講対象者：
 - ・地域鳥獣管理プランナー養成コース:原則として大学院生または4年制大学卒業者
 - ・地域鳥獣管理専門員養成コース:一般社会人
3. 受講料：無料（平成25年までは無料の予定）
4. 受講期間：平成22年4月から1年間（履修科目数に応じて延長可能）
講義と演習科目は土曜日、実習科目は平日に開講します。
5. 受講場所：講義・演習は宇都宮大学農学部で、現地実習は栃木県内各地の鳥獣害の現場で行います。
6. 応募期限：平成22年3月11日から4月20日（消印有効）
7. 選考方法：書類審査の上、書面にて選考結果を通知します。
8. 提出書類：所定の様式による(1)受講申込書(2)履歴書(3)志望理由書
[Word形式](#) [PDF形式](#)（クリックしてダウンロードしてください）
9. 申し込み・資料請求・問い合わせ：
宇都宮大学農学部附属里山科学センター
里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム 申込係
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
Tel：028(649)8164 Fax：028(649)8165
Email：satoyama@cc.utsunomiya-u.ac.jp

所定の単位を取得し、修了審査に合格した方には、宇都宮大学からプログラム修了証が発行されます。また、120時間以上を履修した大学入学資格を有する方には、学校教育法に基づく履修証明証が発行されます。なお、修了生には「地域鳥獣管理士」の資格が授与される予定です。

Copyright © Satoyama Wildlife Management Training Program, Utsunomiya University All rights reserved.

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラムの概要(大学院生参加)

資料 1 - 1 - 4 博士後期課程に対する外部の評価

国際学部・研究科外部評価の実施について

日 時
平成22年2月4日(木)～5日(金)
平成22年2月18日(木)～19日(金)

外部評価委員名簿
奥田 宏 司 委員 (立命館大学国際関係学部教授)
徐 承 元 委員 (高麗大学校文科大学日語日文学科教授)
板橋 敏 雄 委員 (株式会社板通取締役会長)
佐久間 辰 雄 委員 (NPO日本成人病予防協会栃木県健康管理士会会長)

宇都宮大学・国際学部への「評価書」 (抜粋)

2010年3月10日
立命館大学・国際関係学部
教授・奥田 宏司

はじめに
評価者は、宇都宮大学・国際学部から郵送されてきた諸資料を検討するとともに、2010年2月4、5日には宇都宮大学・国際学部を訪れた。この両日には岡田三郎・学部長、高野澄雄・教授をはじめ6名の教員、事務長から詳しい説明を受けるとともに、諸施設の状況検分をおこなった。以下は、諸資料と訪問をもとに行なった「評価書」である。

I、学科制とカリキュラム
1) 学生定員と教員数
国際学部の学生定員は100名(学科ごと50名)、他方、教員が40名前後であり、教員の数に比べて学生定員が少なく、教員と学生が名前を相互に知りうる環境の下に大学教育が進められている。演習(ゼミ)における学生の数も、多いクラスで10名前後であり、クラス数が少ないゼミでは2～3名とのことで、丁寧な指導が行なわれているという印象をもった。卒業論文が必修科目になっていることは意義が大きいであろう。
また、各教員の研究室から廊下を挟んだ場所にそれぞれの演習室が設置されており、学生はいつでもほぼ自由に利用できる点など、施設面でも私立大学と比べて恵まれた環境にあると考えられる。
しかし、学生定員が100名にとどまっていることから生じている諸問題も予想されるところである。ゼミなど各クラスの人数が少なく、学生とおしのチームワークが作りにくいのではないだろうか。ゼミにおいて教員と個々の学生との「交流」が中心となり、学生相互の「交流」は進んでいるであろうか。学生は、教員による指導ばかりでなく学生相互の切磋琢磨によって育つ面があるからである。
以上の状況を補完する措置として、高学年と低学年の「学生交流」、高学年の学生の低学年の学生への「援助」などを学部教授会の方針として保持されてはどうかだろうか。
また、学生定員の若干の増員も検討されてはどうかだろうか。教員数が約40名であるから、40

国際学部・国際学研究科外部評価報告書

平成21年度宇都宮大学化学系外部評価結果 (抜粋)

群馬大学大学院工学研究科
外部評価委員

1. 実施日 平成22年3月11日(木) 13:45～17:00
2. 評価項目 (1) 学部共通教育
(2) 学部専門教育
(3) 大学院教育
(4) 入口の課題(入試、広報活動その他)
(5) 出口の課題(就職、大学院入学定員その他)
(6) その他
3. 評価内容

【評価できる点】
○学部共通教育
・学部初年時の共通専門基礎科目として導入された創成工学実践は、宇都宮大学工学部の特徴ある取り組みだと思います。NHKのロボコンにおいて多国籍の学生がチームを組んで課題に挑戦したことを思い出しました。コミュニケーションをとって一つの目標を達成するという大変すばらしい取り組みだと思います。
・英語に関しては多くの時間を割き、外国人教員やTESOLの資格を持つ教員が担当しており、実践的な英語教育がなされています。
・教養教育科目は幅広い教養を身に付けられるよう、取るべき分野、単位が適切に配置されています。
・学部初年次に「初期セミナーB」として、学科ガイダンスと各研究室への配属を含む少人数教育を実施している点は評価できます。初期セミナーにより、スムーズに大学生活に馴染むことができる工夫がなされています。今後ここでの共通カリキュラムを整備して行く事で、益々の効果が得られるものと思います。

工学研究科外部評価報告書

資料 1-1-5 修士課程、博士前期課程に対する外部の評価

宇都宮大学卒業・修了生状況調査 平成22年/月/日

貴社に就職しました。宇都宮大学卒業生及び大学院修了生について、ご記入願います。
*本件調査にて取得した個人情報、就職活動支援にのみ利用し、それ以外の目的には使用いたしません。

I 貴社の概要について

| | |
|-----|------------|
| 貴社名 | [REDACTED] |
| 所在地 | [REDACTED] |

II 宇都宮大学の卒業・修了生について

1. 宇都宮大学卒業・修了生の採用実績について、差し支えない範囲でお答え願います。
なお、貴社独自のリストを作成しておられる場合は、そのリストを提出いただいても結構です。

| 採用年月 | 氏名 | 役職等 | 備考 |
|--------|------------|------------|-----|
| 1978.4 | [REDACTED] | 読書教育課 地産 | |
| 1978.4 | [REDACTED] | 経理部 次長 | 土着院 |
| 1977.8 | [REDACTED] | 生産技術課 課長補佐 | |
| 1978.4 | [REDACTED] | 経営企画課 課長 | |
| 1988.4 | [REDACTED] | 情報技術課 課長補佐 | |
| 1981.4 | [REDACTED] | 高専総務課 主任 | |
| 2003.4 | [REDACTED] | 情報システム課 主任 | 研究室 |
| 2006.4 | [REDACTED] | * 主任 | |

2. 宇都宮大学卒業・修了生の採用時以降における印象について、記入するとともに評価もお答え願います。

| | | |
|---------------|---|---|
| (1) 基礎知識 | B | □の中には、次の記号を記入して下さい。 A—十分に備わっている B—やや備わっている C—どちらともいえない D—やや不十分である E—全く不十分である |
| (2) コミュニケーション | C | |
| (3) 協調性 | A | |
| (4) 主体性 | C | |
| (5) 責任感 | A | |
| (6) リーダーシップ | B | |
| (7) 積極性 | C | |
| (8) マナー | D | |
| (9) | | |
| (10) | | |

* (7)以降については、貴社での印象に該当する事項を記入の上、評価をお願いします。

3. 宇都宮大学及び本学学生に対して、ご意見・ご要望等ございましたら、ご記入下さい。

感想：協調性は優れているが積極性やマナーが多少不足している。
全体的に真面目で明るい学生と印象があります。

| | | | | |
|-----|----|------------|--------|------------|
| 担当者 | 所属 | 人事課 | 役職 | 氏名 |
| 連絡先 | 電話 | [REDACTED] | E-mail | [REDACTED] |

ご協力ありがとうございました。

就職先へのアンケート

農学部顧問会議資料 (平成21年1月21日)

I 組織

1. 宇都宮大学組織図 (DATA BOOK P.3) (農学部 GUIDE)
2. 農学部教員一覧 (資料 I-1)
3. 農学部及び農学研究科役職者 (資料 I-2)
4. 農学部事務系職員の配置 (資料 I-3)
5. 附属農場 (附属農場概要)
6. 附属演習林 (附属演習林概要)
7. 雑草科学研究センター (雑草科学研究センター概要)
8. オプティクス教育研究センター (オプティクス教育研究センター概要)
9. バイオサイエンス教育研究センター (バイオサイエンス教育研究センター概要)
10. 旧講堂 (資料 I-4)
11. 複合施設 (資料 I-5)

II 財政

1. 収入支出決算額 (DATA BOOK P.21)
2. 農学部歳出入算配分書 (資料 II-1)

III 農学部将来計画

1. 基本構想 (資料 III-1)
2. 新学長第二期中期目標・中期計画 (資料 III-2)

IV 学生

1. 農学部の入学状況 (DATA BOOK P.9)
2. 入学者選抜概況 (資料 IV-1)
3. 卒業・修了者の進路状況 (資料 IV-2)
4. 東京農工大学大学院連合農学研究科の現状 (連合農学研究科概要)
5. JABEE (資料 IV-3)

V その他

1. 里山科学教育研究プロジェクト (資料 V-1)
2. 企業交流会 (資料 V-2)
3. だいにんサミット (資料 V-3)
4. 国際シンポジウム (資料 V-4)
5. SPP 事業 (アグリカレッジ) (資料 V-5)
6. 法人評価・認証評価 (資料 V-6)
7. 農学部荣誉賞 (資料 V-7)
8. 農学部運営諮問会議 (資料 V-8)

「農学部顧問会議」資料



創立60周年記念シンポジウム

平成 22 年 2 月 吉日

同窓生の皆様
教職員 OB・OG の皆様

宇都宮大学長 進村 武男
国際学部 同窓会長 吉業 恭行
大学院国際学研究科同窓会長 土屋 伸夫
教育学部 同窓会長 小林 春雄
工学部 同窓会長 落合 信夫
農学部 峰ヶ丘 同窓会長 和賀井 睦夫

第 1 回宇都宮大学ホームカミングデーの開催について (ご案内)

拝啓

梅花の候 皆様方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、皆様方の常日頃の宇都宮大学に対するご支援・ご指導に衷心より感謝申し上げます。さて、宇都宮大学は、昭和 24 年に新制大学として発足して以来 60 周年を迎えました。この間、宇都宮大学の歴史と伝統を受け継ぐ同窓生は 5 万人を数えます。また本学のためにご尽力いただいた教職員の方々も多くを数えております。宇都宮大学は、これを機会に同窓生同士・教職員が皆共々旧交をあたためる語らいのひとときをお過ごしいただけますよう、第 1 回ホームカミングデーの開催を下記のように計画いたしました。

このホームカミングデーは、本学初の試みとなります。この折に本学の現状をご紹介させていただき、本学のさらなる発展に向けて、今後皆様方との協力関係を築くこととしたいと考えております。

つきましては、万障お繰り合わせの上、是非ともご参加くださいますようご案内申し上げます。

末筆ながら、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

敬具

記

日時 平成 22 年 4 月 29 日 (木) (祝日：昭和の日) 10:00 から
午前部：全学行事
午後部：学部行事

場所 宇都宮大学峰ヶ丘キャンパス・陽東キャンパス

内容 音楽会、美術展、サークル活動紹介など、盛りだくさんの企画をご用意しております。

詳細は、別添のお知らせ及びチラシまたは宇都宮大学ホームページ：
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/> から、ホームカミングデー専用ページ (2月22日(月)開設予定) をご覧ください。

※本案内は同窓生名簿を基に発送しておりますが、案内状が未達のご友友がいっぱいありましたら、お問い合わせくださいますよう併せてお願い申し上げます。

ホームカミングデー

資料 1-2-1 あらたな「共通教育」の骨子(案) <抜粋>

2010.3 教育改革推進チーム

II. 「共通教育」枠組みの整理

1. 「基盤科目」へ名称変更

- 「共通教育科目」から「基盤科目」へ名称変更する。
幅広い人間性や基礎的素養を養成する基盤的な教育であること、必ずしも全学で共通の内容ではないこと等を明示するため。

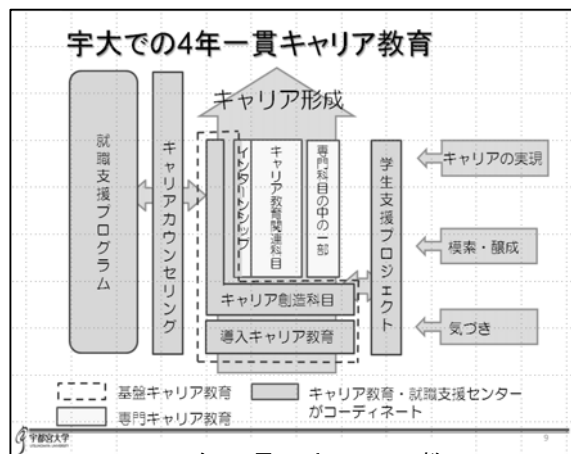
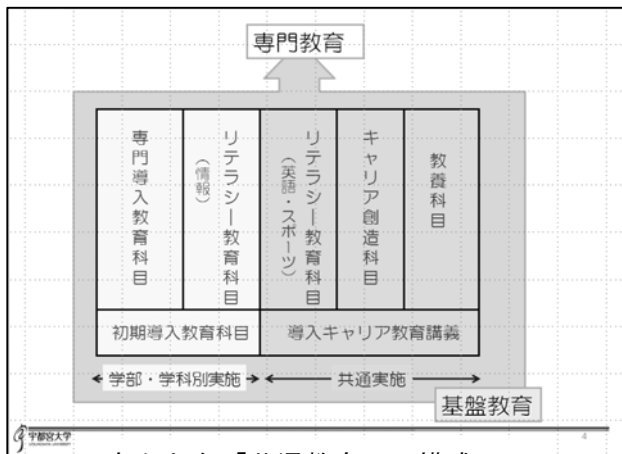
2. 科目区分の整理

- 「基盤科目」総単位数は34単位を維持し、科目区分を目的に対応させ整理する。
- 全学共通の内容で実施する科目と学部・学科等ごとの内容で実施する科目に分類する。
基盤教育の目的を明確化し、個別的内容がふさわしい科目は学部・学科等ごとの内容で実施する。

新たな「基盤科目」は、

- 「初期導入科目」(2単位：必修) —— 学部・学科等ごとの内容
* 大学教育全般への導入
- 「リテラシー科目」(12単位：必修)
* 基盤としてのリテラシー
(英語、スポーツ) —— 全学共通の内容
(情報) —— 学部・学科等ごとの内容
- 「教養科目」(12単位：選択) —— 全学共通の内容
* 幅広い人間性の養成、「世界」の理解
- 「基盤キャリア教育科目」 —— 全学共通の内容
* 社会的・職業的自立に向け、必要な知識、技能、態度の育成
(キャリア創造科目+導入キャリア教育)
- 「専門導入科目」(8単位：選択必修) —— 学部・学科等ごとの内容
* 専門教育へつながる基盤

あらたな「共通教育」の構成(1)



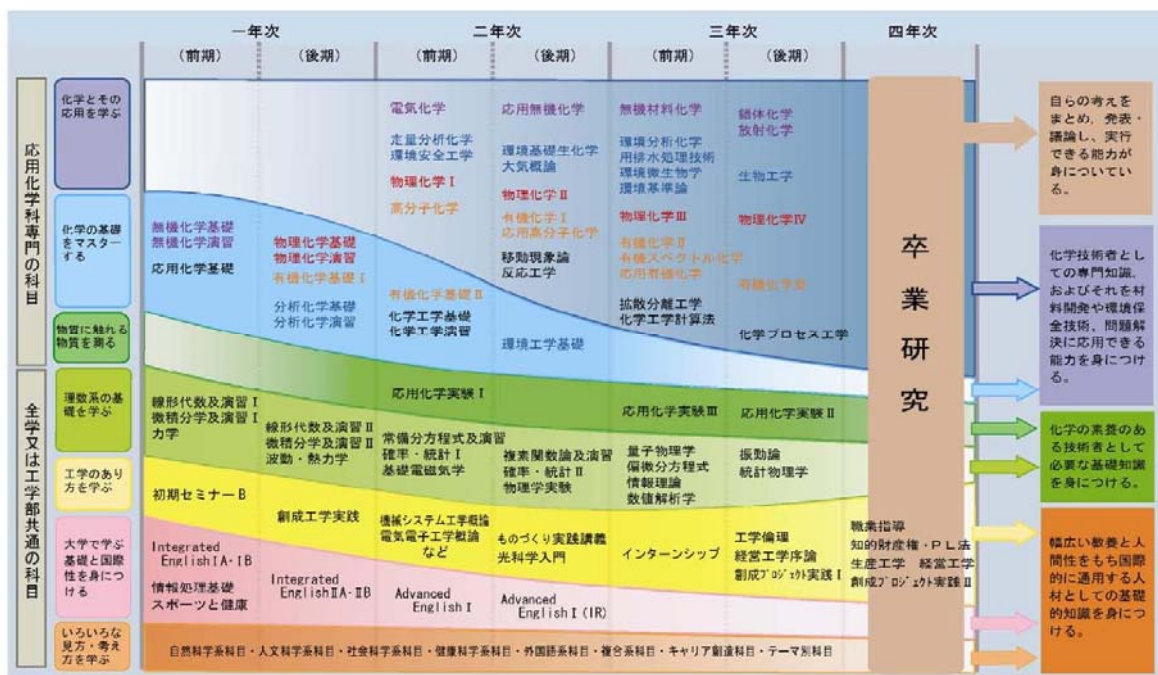
資料 1-2-2 教育プログラムの見える化

カリキュラム・シラバス (森林科学科)

| | |
|---------------------|--|
| カリキュラムの概要 | 森林科学科の特色は、森林の育成・管理から生産物の加工利用までの一連の流れを基軸とし、森林の持つ木材生産機能と環境保全機能を総合的に学習する点にある。本学科の教育目標は、自然科学系から社会科学系までの幅広い分野から構成されているが、特に演習林を主体とした実践的野外実習が重視されており、森林に関わる専門分野の基礎から応用している科目と、実習科目が有機的に組み合わせられたカリキュラムとなっている。 |
| 取得学位の名称 | 学士(農学) |
| 達成目標 | 森林科学科では、以下の(A)～(G)を学習・教育目標として定め、これらを到達目標としている。 (A)森林科学の学習を進める上で必要となる、語学、情報処理、専門基礎の知識と思考力を高め、地球的、地域的両面の視野から物事を判断、理解する能力を身につける。 (B)栃木県内に展開する林業生産現場や演習林を活用し、森林の育成・管理から、生産・加工利用にいたる一連の生産活動の流れと森林の持つ多面的な機能を理解する。さらに、森林における生産活動が社会及び自然環境に及ぼす影響を総合的に理解し、評価する能力を身につける。 (C)森林生態系及びその構成要素である生物に関する遺伝子レベルから生態系レベルまでの生物学的知識を習得し、生物多様性の保全、森林の育成・修復などの管理技術を身につける。 (D)森林資源の持続的利活用のために必要となる計測技術、管理計画、森林政策に関する知識を習得する。また、森林の社会的な役割、位置づけを理解し、森林に関する管理計画、政策を立案する能力を身につける。 (E)森林の保全と森林生産のための基盤整備に関する数学・物理学・工学的知識を習得する。また、森林生産に関する技術、環境への影響を理解し、作業システムをデザインできる能力を身につける。 (F)森林資源の利活用を行うための生物学、化学、物理学などの専門知識を習得し、木質資源などの利用のための新技術を開発・活用できる能力を身につける。 (G)森林科学全般の知識を基礎とし、森林資源の生産・利用現場からの要求に応える研究実行力、技術開発力、成果のまとめと公表が行える能力を身につける。また、研究・技術開発の成果が、社会及び生活環境に及ぼす影響を多面的な視点から理解する能力を身につける。 |
| 履修要件 | 森林科学科では、自然科学と社会科学の基礎学力を有し、持続可能な森林の育成、林業・林産業について実践的に学習しようとする人を求めています。 |
| 到達目標に達するためのカリキュラム方針 | 森林科学科では、授業の科目群を1)基礎科目(導入、総合)、2)専門基礎科目群および3)専門科目群(青林学、森林社会科学、森林工学、林産学の4教育分野)の3つに区分している。基礎科目(導入)は以後の学習をして行く上で不可欠な科目群であり、専門基礎科目は、各教育分野の専門科目を理解するのに必要と成る科目群である。また、専門科目は、森林科学の学生が必ず習得すべき学習領域が必修科目として設定されており、さらに各自が希望する専門選択科目を学習することによって森林、林業、林産業に対する専門知識を深めていく科目が設定されている。基礎科目(総合)は、森林科学の思想と技術を学習・習得した後、さらに専門化としての資質を高めるために設定された科目群である。これらの科目群について1～4年次に順次学習する。 1～2年次 基礎科目(導入)科目群を学ぶことにより、森林科学全般の流れを理解する。また、専門基礎科目群を履修することにより、森林技術者として必要な基礎知識・技術を学ぶ。さらに、語学、情報処理、社会科学および自然科学の共通教育科目を学ぶ。 2～3年次 1～2年次に引き続き、専門基礎科目群を履修し、基礎的な知識・技術を学ぶとともに、より発展的に森林科学を学ぶ上で必ず必要な学習領域を専門科目群より履修する。また、各自の希望する専門選択科目により、さらに森林科学の専門知識を高める。 4年次 3年次までに学習してきた森林科学の思想と技術を基に、さらに専門家としての資質を高めるため、基礎(総合)科目として森林科学総合実習や卒業論文などの、専門領域の体験学習や研究、実験、企画立案に取り組む。 |
| 修了認定の基準 | 修了認定の基準として、124単位を取得するとともに、学科独自の評価スコアを用いている。評価スコアとは、達成目標で挙げた(A)～(G)の項目ごとに、達成度評価対象となっている各科目の評定を秀及び優3点、良2点、可1点、不可0点として点数化し積算した点数である。項目ごとに評価スコアの最低基準が設けられており、この基準をクリアした場合のみ修了が認定される。 |
| カリキュラム・ツリー | 別添のとおり |

教育プログラムシラバス(森林科学科)

宇都宮大学工学部応用化学科 カリキュラムツリー



カリキュラムツリー(応用化学科)

資料 1-2-3 シラバスやカリキュラム整備による学習支援

| | | | | |
|---------|-----------------------------|--------|-----------------------------|-------------------|
| 授業科目名 | 応用数学 Applied Mathematics | | | |
| 開講時期 | 後期 | 曜日・時間 | 火・3-4 | 時間割コード A003075 |
| 学部・学科等 | 農学部 | 標準対象年次 | 1 | 必修・選択区分 必修 |
| 科目区分 | 専門教育科目 | 単位数 | 2 | 授業形態 講義 |
| 担当教員名 | 大澤 和敬 | | | |
| 電話番号 | 028-649-5488 | 電子メール | osawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp | |
| オフィスアワー | 木曜日 10:30-12:00 | | | |

【授業の内容】
農業環境工学が関連する分野では、いろいろな現象が数式によって表され有効に使われています。ここでは、その中で不可欠となる「常微分方程式」と「偏微分」の基礎的な部分学びます。なお、工学的に利用することを念頭に、厳密さは多少犠牲にしながらも感覚的に理解できるように説明します。

【授業の到達目標】
本講義の到達目標は、「常微分方程式」と「偏微分」の意味が理解でき、初歩的計算ができると共に、それらを利用して現象の定式化や解析の道具として使うことができるようになることです。また例題や課題で取り上げられる農業環境工学関連や身の回りの現象への適用を通じ、工学的手法の有用性を理解することも到達目標としています。

【カリキュラムの学習・教育目標との関連】
本講義は、農業環境工学科JABEEプログラムの必修科目で、学習・教育目標のC「高度な食料生産、快適な農村生活、豊かな自然生態系が調和し、持続する田園空間環境の実現を目指す、その創出・制御に関わる基礎として、数学・物理学系の工学的手法・アプローチを習得」に対応しています。

【前提とする知識、関連する科目等】
高校の数Ⅱ、数Ⅲ、数Ⅳの知識は不可欠です。自信のない人は、一年前期に農業環境工学科学生を対象として開かれる補習講義を受けてください。また農業環境工学科の必修科目「基礎物理学Ⅰ」の知識も必要です。

【授業の具体的な進め方】
常微分方程式の解法の部分はほぼ教科書にしたがって進めますが、常微分方程式による現象の定式化と偏微分の工学的応用については、教科書とともに予め配布された資料を使い説明します。予習では教科書やプリントに際を通し、復習ではその回の講義の内容確認と、課題のレポート作成により応用力を身につけて下さい。これらには、毎回の講義に対し2時間以上の時間が必要となります。

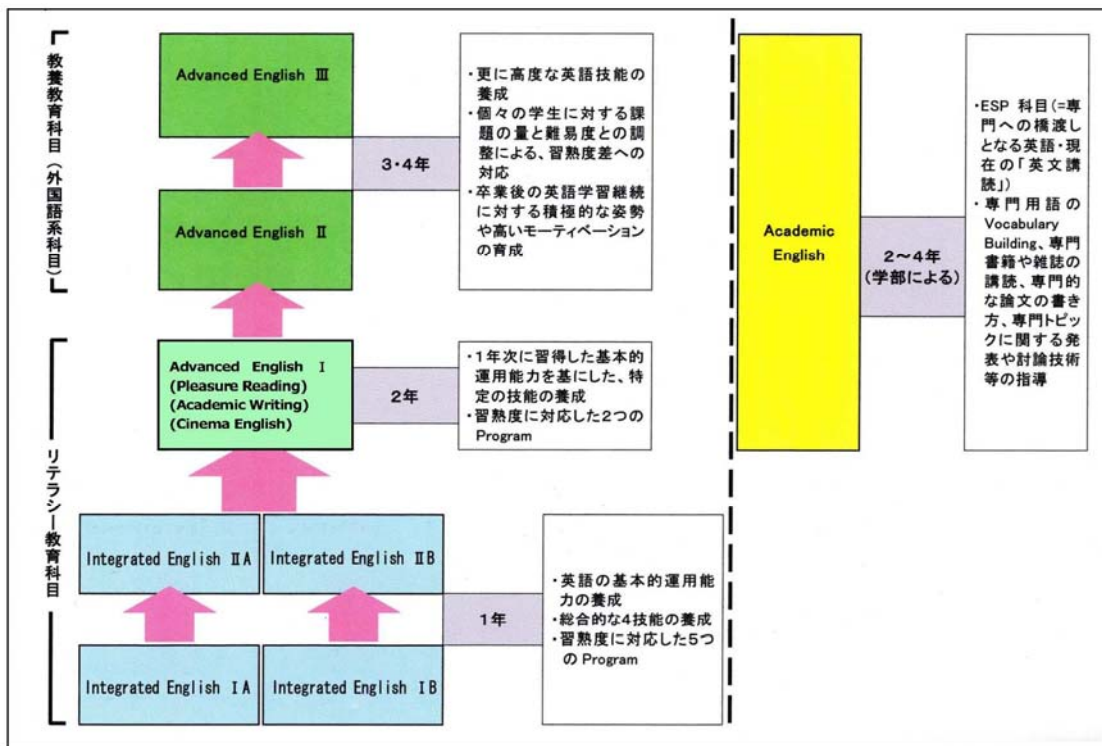
【授業計画】
第1週 微分方程式とは何か?
第2週 常微分方程式の解法(1)変数分離
第3週 常微分方程式による現象の定式化(1)運動方程式と自由落下
第4週 常微分方程式による現象の定式化(2)化学反応・温度平衡
第5週 常微分方程式による現象の定式化(3)年代測定、生態系
第6週 常微分方程式の解法(2)階次形
第7週 常微分方程式の解法(3)階形常微分方程式と定数化法
第8週 常微分方程式による現象の定式化(4)沈砂や雨溜の濃度
第9週 常微分方程式の解法(4)階形常微分方程式
第10週 常微分方程式による現象の定式化(5)減衰系の自由振動
第11週 常微分方程式による現象の定式化(6)生態系(競争系)
第12週 偏微分の直感的意味と計算方法
第13週 偏微分の工学的応用(1)最小二乗法
第14週 偏微分の工学的応用(2)全微分と誤差
第15週 偏微分の工学的応用(3)極値問題

【教科書・参考書・教材等】
教科書「工業基礎数学 partII実践教育研究会編 工業調査会」生協等で入手して下さい。
参考書「微分方程式で数学モデルを作ろう 福田・大町訳 日本評論社 図書館に所蔵されています。
さまざまな現象を定式化する例が豊富で、応用力を身につけるのに最適な本です。

【成績評価】
「回程度のレポートの成績(35%)と定期試験の成績(65%)を合計して評価する。

【学習上の助言】
数学は論理的思考の訓練に通じています。社会では、前例のない未知の問題への対応を迫られることも少なくはなく、そんな時には論理的に誰からかと思われたいと思われたい方法がありません(必ずなら直観的に...)。ということがあるかも知れません。数学が苦手でも、こうした観点で数学と向かい合ってみるのも面白いと思います。

シラバス(応用数学)



共通教育英語のカリキュラムツリー(「共通教育英語プログラム2009年4月」より)

資料 1-2-4 実践的なキャリア教育の充実

<キャリア教育・就職支援センター各学部協力教員あて周知>

21.10.1

外国人留学生のインターンシップ実施について

○宇都宮商工会議所所属企業によるインターンシップ

1. 実施期間：平成21年8～9月（10日間）
2. 実施企業
株式会社 スズテック
宇都宮市平出工業団地44-3
業種：農機具製造・販売
3. 参加学生：2名
氏名 [REDACTED]
国籍 ベトナム
専攻 機械システム工学科 学部3年 奈良崎道治（学年担任）
氏名 [REDACTED]
国籍 中国
専攻 機械知能工学専攻 M1 遠藤博（担任）

○東京外国人雇用サービスセンターによるインターンシップ

1. 実施期間：平成21年8月（5日間）
2. 実施企業
ビックカメラ 株式会社
東京都豊島区高田3-23-2
業種：販売
3. 参加学生：1名
氏名 [REDACTED]
国籍 中国
専攻 教育学部生涯教育 地域社会教育コース 4年 広瀬隆人（学年担任）
4. その他
1名 エントリーしたが通勤の関係で不許可、1名現在エントリー中

外国人留学生へのインターンシップ

<抜粋>

栃経協 IS 第16号
平成22年2月10日

インターンシップ推進協議会委員各位

社団法人 栃木県経営者協会
インターンシップ推進協議会
委員長 石田朋靖
(宇都宮大学理事・副学長)

第2回インターンシップ推進協議会の議事経過につき下記のとおりご報告いたします。

記

日時 平成22年2月9日 14:00～16:00
会場 チサンホテル宇都宮
出席者 委員30名（大学側14名、企業団体側11名、行政4名、経営者協会1名）、オブザーバー2名、事務局3名 合計35名

2.議題

また、事務局よりキャリア形成支援産学連携推進協議会の立ち上げ幹事会を3月に開催し、4月から本格的にスタートさせたいと具体案が出て、賛成多数で可決された。

尚、立ち上げ幹事会のメンバーについては、インターンシップ推進協議会の委員から選出し、人数・人選等については事務局に一任された。

3.閉会

閉会にあたり石田委員長より「本日をもってインターンシップ推進協議会を解散し、今後は産学連携による学生の人間力を含めたキャリア形成が出来る協議会として発展的に進めていきたい」旨の挨拶があった。

地域と一体となったキャリア教育組織

資料 1-2-5 学習・教育目標に対する達成度の総合的評価方法

5. 基準5：学習・教育目標の達成

(3) 学習・教育目標の各項目に対する達成度の総合的評価方法・評価基準の作成とそれに基づく評価の実施

(途中省略)

[自己点検結果]

すべての科目の単位取得状況をもとに学習・教育目標ごとの達成度を評価する方法とその評価基準を定め、学生に公開している。学生が達成度を自己点検できるように、計算シートを学生に配布している。プログラム修了時には、修了予定者全員に達成度の自己評価とその結果の提出を義務付け、教職員側でもチェックしている。

ただし、これまでの評価方法はプログラム修了時を想定したものであるため、途中年次で自己点検した場合、達成度を確認しにくい。そこで評価方法ならびに途中年次での自己点検を促す仕組みを改善する必要がある。

(途中省略)

(i) 学習・教育目標の各項目の達成度の評価方法と評価基準の設定

(途中省略)

b) 2010 年度以降の評価方法

2009 年度までの総合達成度の評価方法には前述のように種々の課題があった。また 2008 年度より全学的に GPT・GPA 制度が導入されて、ある種の総合的達成度が成績表に示されるようになった。そこで学習・教育目標別達成度に GPT・GPA に類似した評価手法を導入することで、学生にわかりやすく持続的に自己点検できる達成度指標に変更することにした。

学習・教育目標への科目の関与の度合いと重み付け

重み付けは 2009 年度以前と同様に、主要科目については 2 ポイント、準主要科目については 1 ポイント、その他の場合については 0 ポイントと定める。ただし、入学年度による区別はせず、2007 年度以降の学習・教育目標との関与度をもとに設定する (引 5-(3)-4)。

単位修得した科目の成績の数値化

単位を修得した科目の成績評価は「優」、「良」、「可」の評語で記述される (2008 年度入学生からは「優」の上に「秀」も導入された)。これらの評語と達成度との一般的な対応関係 (引 5-(3)-2) をもとに、

➤ 「秀」あるいは「優」= 3 「良」= 2 「可」= 1

のように数値化する。これに各学習・教育目標の重みを乗じたものを、その科目の学習・教育目標別の JP (JABEE Point) とする。

学習・教育目標別の総合達成度の算出

それぞれの学習・教育目標ごとに、単位を修得した科目の JP を合計したものを、その目標の JPT (JABEE Point Total) とする。これは、学習・教育目標ごとに修得したポイントの合計値を意味する。

それぞれの学習・教育目標ごとに、単位を修得した科目の JP の平均値を JPA (JABEE Point Average) とする。これは、学習・教育目標ごとに算出された JPT を、その学習・教育目標について単位を修得した科目の重みの合計で除したもので、目標ごとの総合的な達成の度合いを示す指標となる。

これらの計算を手際よく実行できるように、計算シートを学生の手引きに掲載している (引 5-(3)-4)。

学習・教育目標別の総合達成度の評価基準

JPA の値に応じて、

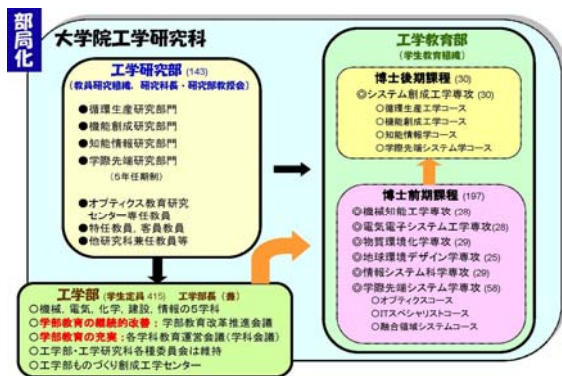
2.5 以上 = 「優」 1.5 以上 2.5 未満 = 「良」 1 以上 1.5 未満 = 「可」 1 未満 = 「不可」と評することにする (引 5-(3)-4)。単位修得した授業科目の範囲内での達成度の目安となる。

JPT については、JPA が同じ学生であっても、JPT が大きい方が、全体の学習量が多いということを示す指標になる。今後は、入学年度ごとの卒業要件を勘案して、各年次に対する JPT の標準的な値とその評価基準を設けるようにしたい。

(以下省略)

学習・教育目標に対する達成度の総合的評価方法の例
(工学部建設工学コース JABEE 委員会資料から一部抜粋)

資料 1-2-6 創造性と問題解決能力を高めるPBL教育



大学院工学研究科部局化の概要

| | | | | | |
|----------------------|---|--------|-----------------------------|---------|---------|
| 授業科目名 | 創成工学プロジェクト | | | | |
| 開講時期 | 前期 | 曜日・時間 | 火・7-8 | 時間割コード | Y100009 |
| 学部・学科等 | 工学研究科博士前期課程 | 標準対象年次 | M1 | 必修・選択区分 | 選択 |
| 科目区分 | 専門教育科目 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 演習 |
| 担当教員名 | 入江 晃 瓦 高水 淳二 渡邊 信一 他 | | | | |
| 電話番号 | 028-689-6096 | 電子メール | irica@cc.utsunomiya-u.ac.jp | | |
| オフィスアワー | 電話もしくはメールにて事前予約後、質問や相談に応じる。場所は予約時に設定する。 | | | | |
| 【授業の内容】 | 本授業では、受講生が様々な課題の解決を目的としたプロジェクトチームを結成し、学内および地域の課題、要望などを調査・発掘する。そして、それらの課題を、これまでに身につけた専門知識を活かしながら解決していく。 | | | | |
| 【授業の到達目標】 | PDCAサイクルをスパイラル状に繰り返すことで、1) 問題設定・解決能力、2) コミュニケーション能力、3) プレゼンテーション能力を身につけ、社会の多様な課題に柔軟に対応できる高度な専門性と問題解決能力をもった技術者を目標とする。 | | | | |
| 【カリキュラムの学習・教育目標との関連】 | 新選性、独創性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の修得に関連 | | | | |
| 【前提とする知識、関連する科目等】 | 特になし | | | | |
| 【授業の具体的な進め方】 | 課題の解決を目的としたプロジェクトチームを結成し、自ら学内および地域の課題、課題、要望などを調査・発掘し、課題解決に取り組み、大まかな手順は以下の通りである。 プロジェクトチームの結成 → 問題、課題、要望などの調査・発掘 → 対象決定 → 実施計画 → 実施 → 成果報告(報告書、および報告会) | | | | |
| 【授業計画】 | 第1週 オリエンテーション、プロジェクトチームの結成 第2週 問題、課題、要望などの調査・発掘 第3週 問題、課題、要望などの調査・発掘 第4週 問題、課題、要望などの調査・発掘 第5週 対象の決定 第6週 実施計画の立案 第7週 実施計画の立案 第8週 中間報告会 第9週 実施計画の再検討 第10週 実施計画の最終確認 第11週 計画の実施 第12週 計画の実施 第13週 計画の実施 第14週 報告会資料作成(注) 第15週 成果報告会、報告書提出(注) (注) 報告会資料作成、成果報告会、および報告書提出は、プロジェクト実施後に報告会を開催するため、後日実施することもある。 | | | | |
| 【教科書・参考書・教材等】 | 特になし | | | | |
| 【成績評価】 | 成果発表、報告書、グループでの活動状況を総合して判断する。出席回数が2/3に見えない者、成果発表を実施しなかった者は評価対象としない。 | | | | |
| 【学習上の助言】 | 受講生諸君には、自ら設定した課題をこれまで身につけた専門知識を駆使して解決していく過程を通して、技術者にとって必要な様々な能力を身につけていただきたい。なお、この授業の定員は60名である。定員を超える受講希望者がある場合には、抽選で受講者を決定する。 | | | | |

PBL教育の例(創成工学プロジェクト)

2009年度宇都宮大学重点推進研究による里山科学現地研究会
略称“宇都宮大学里山科学現地研究会”

那須烏山市大木須での教育・研究成果とその地域活用を考える

期 日: 2010年2月27日(土)
13:30~16:30

場 所: 那須烏山市大木須集会所

主 催: 混農林倶楽部(那須烏山市大木須下地区)
宇都宮大学農学部附属里山科学センター(宇都宮市)
協 力: 那須烏山市、栃木県東北森林管理事務所

趣 旨: 2009年度宇都宮大学重点推進研究「国際・地域連携による那珂川流域の里山生態系「サービスの評価」の地域貢献活動の一環として、那須烏山市大木須下地区において実施された宇都宮大学農学部・教育学研究科所属の学部学生・院生ならびに農学部附属里山科学センター協力教員らによる研究・教育・地域貢献活動の成果を現地大木須において住民に発表し意見交換ならびに互いの親睦をはかります。

プログラム

13:15: 開会
(混農林倶楽部会長、宇都宮大学農学部附属里山センター長、農学部部長、那須烏山市長)

13:30: 成果発表

- 大木須下地区における研究活動・生産活動(地域貢献活動)の意義と各研究グループの位置づけ: 平井・大久保
- 落葉堆肥の生産過程と水田投入量の定量的評価~中山間地域の農用林と落葉施用水田を例にして~: 野山(育林学研究室)
- 落葉施用水田米の生産再開にむけた農用林の利用変遷と林分構造の変化~那須烏山市の中山間地域を例にして~: 野山(育林学研究室)
- 冬水田んぼ~里山における環境保全型農業の実践~: 野山(育林学研究室)
- 里山水田における有機肥料と冬水による地力向上効果: 野山(農地・土壌工学研究室)
- 里山におけるクズ(*Pueraria lobata*)の地理的な分布と生業構造変化の関係: 野山(雑草科学センター)
- ビームライト調査によるイノシシの生息環境の解析: 野山(野生鳥獣管理研究室)
- 狩猟者の意識にみるイノシシや熊の現状課題~那珂川町イノシシ肉加工施設をめぐって~: 野山(森林政策学研究室)
- 家族の視点からみる持続可能な地域の創造~大木須地区に住まう家族を通して~: 野山(家政教育教室)
- 生態系の持続的管理を確実に行うための大学教育プログラムの開発~里山再生を事例として~: 平井、西尾

15:30: 休憩

15:40: 意見交換会

16:30: 閉会(混農林倶楽部事務局、宇都宮大学農学部附属里山センター)

17:00: 懇親会

= 以外は、すべて大学院生による成果の発表

地域と一体となったPBL教育(里山プロジェクト)

資料 1-2-7 英語による授業と英語基礎力の充実

| | | | |
|------------|--|-------------|------------------------------|
| 授業科目名 | 流域デザイン学特論 | | |
| 専攻等 | 地球環境デザイン学専攻 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択区分 | 選択 | 曜日 | 水曜日 |
| 授業形態 | 講義 | 時間 | 1・2時限 |
| 単位数 | 2単位 | 教室名 | 建設工学会議室 |
| 担当教員名 | 池田裕一 | | |
| 電話番号(代表者名) | 028-689-6215 (池田裕一) | e-mail アドレス | ikedae@cc.utsunomiya-u.ac.jp |
| オフィスアワー | 授業実施時やメール等で予約する。 | | |
| 授業の概要 | 【授業・研究指導の目的】 学部の水理学を発展させ、特に開水路に関する実務レベルの分析手法について講義する。 1. 開水路の1次元非定常流 2. 開水路の乱流 3. 開水路の2,3次元流れ 4. 開水路の流砂と河床形態 | | |
| | 【授業・研究指導の内容及び方法】 基本的には英語による講義を行い、それに関する課題レポートを課す。 | | |
| | 【授業・研究指導の計画】 第1週 ガイダンス 第2週 水流の支配方程式 第3週 不等流計算法(略) 第14週 橋生水理学 第15週 河床変動の計算(レポート課題の説明) | | |
| | 【教科書・参考書・教材】 関根正人、移動床流れの水理学、共立出版、3,300円(税別) | | |
| | 【成績評価法】 3つのレポート課題の内容による 【教員からのメッセージ】 英語による講義ですので、大変でしょうが、英語で教員に質問したり、レポートに取り組んだり、積極的な態度で臨むことにより、内容・英語ともに身につくようになんぼってください。 | | |

大学院における英語による講義の例

English Reading for Chemistry

2009

Contents

| | |
|--|-----|
| Lesson 1: Scientific Unit System | 3 |
| Lesson 2: Properties of Matter | 5 |
| Lesson 3: Chemistry & Chemical Reaction | 7 |
| Lesson 4: Water (l) — Its Physical Properties | 9 |
| Lesson 5: Molecular Structures of Six-Carbon Rings | 12 |
| (略) | |
| Lesson 24: Azo Dyes Syntheses | 84 |
| Lesson 25: Light and Molecules | 89 |
| Lesson 26: Fundamental Biochemistry | 93 |
| Lesson 27: Thermodynamics | 98 |
| Lesson 28: About a Scientific Paper | 102 |

独自開発した専門英語テキスト(応用化学科)

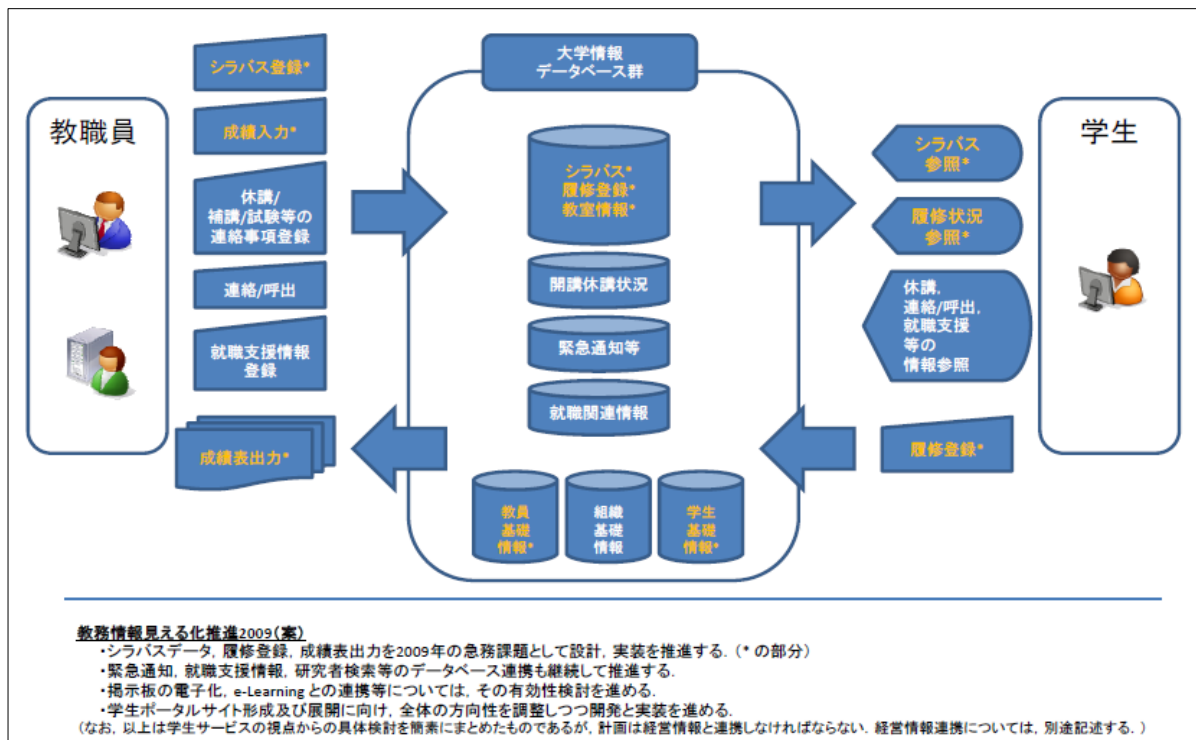
2009年度後期 英語学習強調週間(12月7日~12月11日)

| | | 7日(月) | 8日(火) | 9日(水) | 10日(木) | 11日(金) |
|--------------------|---------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1-2 period | TITLE | ENGLISH FOR MATHEMATICS | WRITING 1 | STUDY SKILLS: NOTE TAKING | ENGLISH FOR SCIENCE | ENGLISH FOR SCIENCE |
| | LECTURER | 藤井 | SAVAGE | 豊空 | 藤井 | 藤井 |
| | PLACE | 多目的ホール・大学会館 | 1122-B棟 | 1447-D棟 | 多目的ホール・大学会館 | 1122-B棟 |
| | CLASS | 4工(131名)+自由参加 | 6工(118名)+30名+自由参加 | 自由参加 | 3工(165名)+自由参加 | 8工(119名)+自由参加 |
| | CLASS | 4工(131名)+自由参加 | 6工(118名)+30名+自由参加 | 自由参加 | 3工(165名)+自由参加 | 8工(119名)+自由参加 |
| 3-4 period | TITLE | ENGLISH FOR MATHEMATICS | ENGLISH FOR MATHEMATICS | TOEFL | WRITING 2 | ENGLISH FOR SCIENCE |
| | LECTURER | 藤井 | 藤井 | 虎頭 | SAVAGE | 藤井 |
| | PLACE | 多目的ホール・大学会館 | 1122-B棟 | 1447-D棟 | 多目的ホール・大学会館 | 1122-B棟 |
| CLASS | 3工(165名)+自由参加 | 8工(119名)+自由参加 | 自由参加 | 2工(117名)+自由参加 | 7工(122名)+自由参加 | |
| 5-6 period | TITLE | MOVE (THE DEVIL WEARS PRADA) | MOVIE (JUNO) | STUDY SKILLS: NOTE TAKING | MOVIE (NIGHT AT THE MUSEUM) | MOVIE (SLUMDOG MILLIONAIRE) |
| | LECTURER | | | 吉田 | | |
| | PLACE | 1444-D棟(英語字幕) 1447-D棟(日本語字幕) | 1444-D棟(英語字幕) 1447-D棟(日本語字幕) | 1447-D棟 | 1444-D棟(英語字幕) 1447-D棟(日本語字幕) | 1444-D棟(英語字幕) 1447-D棟(日本語字幕) |
| | CLASS | 自由参加 | 自由参加 | 自由参加 | 自由参加 | 自由参加 |
| 7-8 period | TITLE | WRITING 1 | ENGLISH FOR MATHEMATICS | TOEIC | ENGLISH FOR SCIENCE | WRITING 2 |
| | LECTURER | SAVAGE | 藤井 | 仲川 | 藤井 | SAVAGE |
| | PLACE | 多目的ホール・大学会館 | 1122-B棟 | 1447-D棟 | 多目的ホール・大学会館 | 1122-B棟 |
| | CLASS | 1工(116名)+30名+自由参加 | 5工(130名)+自由参加 | 自由参加 | 4工(131名)+自由参加 | 6工(118名)+自由参加 |
| 9-10 period | TITLE | WRITING 1 | ENGLISH FOR MATHEMATICS | STUDY SKILLS: NOTE TAKING | WRITING 2 | ENGLISH FOR SCIENCE |
| | LECTURER | SAVAGE | 藤井 | 五十嵐 | SAVAGE | 藤井 |
| | PLACE | 多目的ホール・大学会館 | 1122-B棟 | 1447-D棟 | 多目的ホール・大学会館 | 1122-B棟 |
| | CLASS | 2工(117名)+30名+自由参加 | 7工(122名)+自由参加 | 自由参加 | 1工(116)+自由参加 | 5工(130名)+自由参加 |

- * English for Mathematics = How to do simple calculation, find areas, and use the Pythagorean theorem in English
- * English for Sciences = How to solve questions related to potential energy and kinetic energy, periodic table, and parabola in English
- * Writing 1 = How to write clear English sentences
- * Writing 2 = How to make connections in English writing

理系英語の基礎力をつける英語学習強調週間時間割

資料 1 - 2 - 8 学生にわかりやすい教務情報



教務情報サービスネットワークの全体像(平成21年6月30日 CIO、CSO、教育・学生担当理事等による教務情報システム再構築に関するキックオフミーティング資料)

Utsunomiya Univ. Syllabus

| | | | | |
|----------------------|--|--------|--------------------------------|----------------|
| 授業科目名 | ラテンアメリカ社会論 Latin American Societies | | | |
| 開講時期 | 前期 | 曜日・時限 | 火7-10 | 時間割コード K310019 |
| 学部・学科等 | 国際学研究科博士前期課程 | 標準対象年次 | M1,M2 | 必修・選択区分 選択 |
| 科目区分 | 専門教育科目 | 単位数 | 4 | 授業形態 演習 |
| 担当教員名 | スエヨシ アナ | | | |
| 電話番号 | 028-649-5175 | 電子メール | sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp | |
| オフィスアワー | 月曜日12:15~14:15 メールと電話であらかじめ連絡すれば、随時受け付けます。 | | | |
| 【授業の内容】 | The incapability of the government to cope with its functions in a market-led economy will serve as a framework to study the multiple responses and collective initiatives from the Latin American and Caribbean countries' nationals. | | | |
| 【授業の到達目標】 | This course will present poverty and inequality in Latin America as one of the major contemporary issues in the region. | | | |
| 【カリキュラムの学習・教育目標との関連】 | This course is suitable for students who are interested either on Latin American Studies, or on the role of the state in developing countries. | | | |
| 【前提とする知識、関連する科目等】 | There are no prerequisites for this course. | | | |
| 【授業の具体的な進め方】 | Each session two students will make a presentation based on readings assigned on a weekly basis. The rest of the class will participate in the discussion at the end of each presentation. | | | |
| 【授業計画】 | 1st week: Lecture guidelines. Latin America Economy: Historical Roots 2nd week: Major issues in Latin America Economy 3rd week: Measuring Poverty and Inequality 4th week: The State Coping with its Functions 5th week: Market Economy and Poverty 6th week: The Pacific Response: Migration 7th week: Informality 8th week: Civil Society 9th week: The Violent Response: Guerrilla and Terrorism 10th week: Drug trafficking and Revolution 11-13th week: Students' presentation 14th week: Final review | | | |
| 【教科書・参考書・教材等】 | The students will be provided with copies and handouts during class and with references for presentation and for the final paper. | | | |
| 【成績評価】 | Participation in class (10%) (Class participation is highly encouraged) Presentation and paper (50%) (Final examination) (40%) Grades are allocated as follows: Excellent = 80-100 %, good = 70-79.9 %, average = 60-69.9 %, failed = <60%. | | | |
| 【学習上の助言】 | Knowledge of Spanish is not required for this course. Although all readings are in English, class discussions, presentations and papers could be conducted either in English or in Japanese. | | | |

シラバス(ラテンアメリカ社会論)

Utsunomiya Univ. Syllabus

| | | | | |
|----------------------|--|--------|-------|----------------|
| 授業科目名 | 医用工学特論 | | | |
| 開講時期 | 前期 | 曜日・時限 | 月3-4 | 時間割コード Y110007 |
| 学部・学科等 | 工学研究科博士前期課程 | 標準対象年次 | M1,M2 | 必修・選択区分 選択 |
| 科目区分 | 初期導入教育科目 | 単位数 | 2 | 授業形態 講義 |
| 担当教員名 | 酒井 直隆 | | | |
| 電話番号 | | 電子メール | | |
| オフィスアワー | e-mailで予約すること | | | |
| 【授業の内容】 | 医用工学を中心に、工学と生物学とのかわりを教育する。 | | | |
| 【授業の到達目標】 | <ol style="list-style-type: none"> 医用工学における最先端の工学知識を身につけること。 授業計画に基づき自主的学習能力と学習習慣を身につけること。 研究方法の基礎と態度を身につけること。 産官学連携、複合領域に関する知識を身につけること。 | | | |
| 【カリキュラムの学習・教育目標との関連】 | 技術者倫理30%、専門知識と応用能力50%、自主的学習能力30% | | | |
| 【前提とする知識、関連する科目等】 | 学部のバイオテクノロジー、メディカルエンジニアリングを受講していることが望ましい。 | | | |
| 【授業の具体的な進め方】 | 授業の開始プリントを配布し、これを中心に講義を進める。まず講義内容をプリントと板書で解説し、次にパワーポイントで画像を交えて解説、さらにビデオ映像で具体的に解説するという、画像・映像を駆使した立体的な講義を展開する。 | | | |
| 【授業計画】 | 1. 医用工学/バイオメカニクス総論 2. 医療と福祉における工学応用 3. 人体の構造と機能 4. 生体計測I 動作解析の手法 5. 生体計測II 有限要素法 6. 生体計測III 感覚センサー 7. ロボットハンド義手の開発I 手の動作解析 8. ロボットハンド義手の開発II 骨格と駆動機構 9. ロボットハンド義手の開発III 感覚センサーと知覚機能 10. 近赤外線による生体の可視化 11. 近赤外線の医療福祉への応用 12. 骨格の構造と機能 13. 骨格モニターの開発 14. 障害者支援機器 15. まとめ | | | |
| 【教科書・参考書・教材等】 | 教科書に相当するプリントを授業の都度配布するので、教科書を準備する必要はない。参考書としては、木村雄治「医用工学入門」コロナ社がある。 | | | |
| 【成績評価】 | 成績評価の必要条件は、三分の二以上の講義に出席することである。期末試験の点数が60%以上を合格とし、80%以上を優、70%以上80%未満を良、60%以上70%未満を可と判定する。期末試験に代えて、レポート提出によって評価することがある。 | | | |
| 【学習上の助言】 | 勉強は復習中心でよい。医用工学およびバイオメカニクスの先端的考え方を知り、産官学連携を含む最近の研究方法を会得して、最先端の複合領域を理解してほしい。 | | | |

シラバス(医用工学特論)

資料1-2-9 シンポジウムによる専門英語力の養成

<国際シンポジウム>

～国際学研究科充足10周年及び多文化公共圏センター設立記念～

時間：2008年10月29日（水）10時30分～
場所：宇都宮大学大会館2F 多目的ホール

第一部：基調講演（英語・日本語の資料あり）

- ・Prof. Dr. Surichai Wungao (スリチャイ・ワンゲオ教授)
(タイ; チュラロンコン大学)
「アジアとグローバル化」
- ・Prof. Dr. Annette Treibel-Illian (アンネット・トライベル-イリアン教授)
(ドイツ; カールス・ルーエ教育大学)
「ドイツにおける移民について」

第二部：パネルディスカッション（日本語で行います）

コーディネーター：田巻松雄（宇都宮大学国際学部教授、多文化公共圏センター長）
スエヨシ・アナ（宇都宮大学国際学部講師）

パネリスト：スリチャイ・ワンゲオ（タイ; チュラロンコン大学）
アンネット・トライベル-イリアン（ドイツ; カールス・ルーエ教育大学）
岡部みどり（上智大学法学部准教授）
柄木田 康之（宇都宮大学国際学部教授）
マリー・ケオマノータム（宇都宮大学国際学部准教授）
清水 奈名子（宇都宮大学国際学部講師）

日本化学会
栃木地区講演会のお知らせ講演題目：
**Evaporation-Induced Self-Assembly:
Ordered Nanoscale Materials Made Easy**講師：Dr. Torsten Brezesinski
Justus Liebig University Giessen, Institute of
Physical Chemistry, Group Leader日時：2008年10月21日（火）10:30～12:00
会場：宇都宮大学工学部 陽東キャンパス
総合研究棟 212教室講演概要：さまざま材料分野へ応用が期待されている
無機系メノポラス材料、その新規作製法や構造制御
法、応用研究についてお話し予定です。

学部学生、院生の聴講大歓迎！

第8回オプティクス教育研究セミナー

The Optical Systems Needed To
Implement Optical State MachinesAlan Huang Ph.D., CEO/CTO
Terabit Corporation日時：2008年11月14日（金）
10:00-12:00State Machines are the basic building blocks for modern digital systems. Optical State
Machines have the potential of operating at speeds greater than 1 Tb/s. The power
consumption of optical state machines is independent of the clock rate. This is
fundamentally different from electronic state machines.

場所：専攻セミナー室Ⅱ

A State Machine consists of a set of logic equations. Each logic equation is associated with a
variable. Each logic equation consists of a set of midterms. Each midterm consists of a
combination of the variables.The optical state machine uses a multiple wavelength laser that generates a set of
optical signals that represent the midterms. A short pulse, high rep-rate laser that generates a
clock signal is used to gate the outputs of the midterms. The midterms are implemented using
Sagnac switches and fiber delay lines that are used to control the Sagnac's.講師：Alan Huang 氏
CEO/CTO Terabit CorporationThe Sagnac switches are optical, ultrafast, broadband, and optically controlled. They are
based on the Kerr effect (a c3 optical non-linearity). They are similar to a Sagnac fiber
gyro, but they use fiber delay lines, fiber splitters, and fiber delay lines to control the Sagnac's.演題：The optical system needed to
implement optical state machinesEach input Sagnac switch is controlled by a variable. Each multiple wavelength laser output
signal is associated with a midterm. Each optical signal is wavelength routed through the
Sagnac's controlled by the variables associated with the midterms. The midterms associated
with each logic equation are wired-ORed together. The wired-OR output controls an output
Sagnac switch that gates the clock laser output. The gated clock laser outputs associated with
the feedback variables are delayed by the fiber delay lines and used to control the associated
input Sagnac's.お問い合わせ：machines can be implemented via fiber or a combination of free-space and
fiber. The combination free-space and fiber implementation is less risky. The combination free-space
and fiber implementation is generally lower component cost, lower optical loss, and
higher operating capability.
028-689-7074

http://www.opt.utsunomiya-u.ac.jp/



「平成21年度VBL部門招聘外国人講演会」

演題：Present and future membranes
and membrane processes in Europe
(ヨーロッパにおける膜および膜プロセスの現状と将来)演者：Dr. Eng. Angelo Basile
Institute on Membrane Technology
of the Italian National Research Council
(イタリア国立膜技術研究所 元所長)日時：平成22年1月13日（水）
16:00～17:00

場所：工学部 3号館 322講義室

本件に関する連絡先：
地域共生研究開発センター VBL部門長
伊藤 直次(内線 6178)

資料 1-2-10 国際的視点に立ったインターンシップの例

<キャリア教育・就職支援センター各学部協力教員あて周知>

21. 10. 1

外国人留学生のインターンシップ実施について

○宇都宮商工会議所所属企業によるインターンシップ

1. 実施期間：平成21年8～9月（10日間）
2. 実施企業
株式会社 スズテック
宇都宮市平出工業団地4-4-3
業種：農機具製造・販売
3. 参加学生：2名
氏名 []
国籍 ベトナム
専攻 機械システム工学科 学部3年 奈良崎道治（学年担任）
氏名 []
国籍 中国
専攻 機械知能工学専攻 MI 遠藤博（担任）

○東京外国人雇用サービスセンターによるインターンシップ

1. 実施期間：平成21年8月（5日間）
2. 実施企業
ビックカメラ 株式会社
東京都豊島区高田3-23-2
業種：販売
3. 参加学生：1名
氏名 []
国籍 中国
専攻 教育学部生涯教育 地域社会教育コース 4年 広瀬隆人（学年担任）
4. その他
1名 エントリーしたが通勤の関係で不許可、1名現在エントリー中

<抜粋>

樹経協 IS 第16号
平成22年2月10日

インターンシップ推進協議会委員各位

社団法人 栃木県経営者協会
インターンシップ推進協議会
委員長 石田朋晴
(宇都宮大学理事・副学長)

第2回インターンシップ推進協議会の議事経過につき下記のとおりご報告いたします。

記

日時 平成22年2月9日 14:00～16:00
会場 チサンホテル宇都宮
出席者 委員30名（大学側14名、企業団体側11名、行政4名、経営者協会1名）、オブザーバー2名、事務局3名 合計35名

2.議題
また、事務局よりキャリア形成支援産学連携推進協議会の立ち上げ幹事会を3月に開催し、4月から本格的にスタートさせたいと具体案が出て、賛成多数で可決された。
尚、立ち上げ幹事会のメンバーについては、インターンシップ推進協議会の委員から選出し、人数・人選等については事務局に一任された。

3.閉会
閉会にあたり石田委員長より「本日をもってインターンシップ推進協議会を解散し、今後は産学連携による学生の人間力を含めたキャリア形成が出来る協議会として発展的に進めていきたい」旨の挨拶があった。

外国人留学生へのインターンシップ

地域と一体となったキャリア教育組織

平成21年度
文部科学省選定

**地域の大学連携による
学生の国際キャリア開発プログラム**

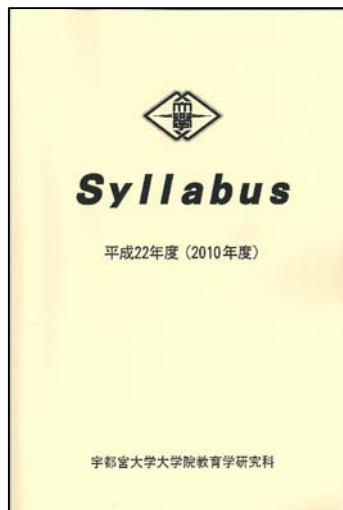
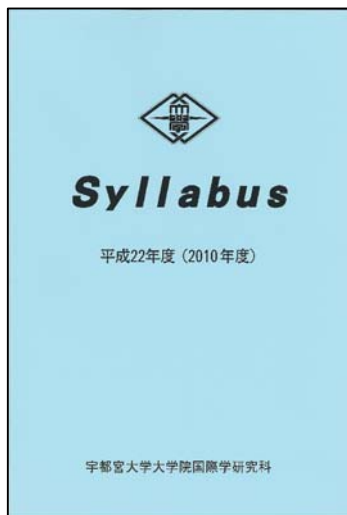
[大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム]

宇都宮大学 作新学院大学 白鷗大学

| | | | |
|------------|--|-------------|---|
| 授業科目名 | 国際キャリア実習 I | 大学名 | 宇都宮大学、作新学院大学、白鷗大学 |
| 科目区分 | VU連携講座 | 開講時期 | H22年度夏とH23年度春の長期休暇中の一定期間 |
| 学部・学科等 | 全学部・学科対象 | 曜日 | H22年度夏とH23年度春の長期休暇中の一定期間 |
| 必修・選択区分 | 選択科目 | 時間(実習時間) | 長期休暇中の最低80時間 |
| 標準対象年次 | 全学年 | 授業形態 | 実習 |
| 単位数 | 2単位 | 授業会場 | 各受け入れ先機関 |
| 担当教員名 | 米川正子(宇都宮大学:国際協力) 大野邦雄(作新学院大学:国際ビジネス/観光まちづくり) 眞貝沙羅(白鷗大学:国際理解) | | |
| 電話番号(代表者名) | 028-649-5180 028-667-0001(代)(月・水・木) 028-670-3702 眞貝沙羅(白鷗大学) 0285-22-9874 | e-mail アドレス | yonekawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp ohno@vmil.pala.or.jp shinkai@fc.hakuoh.ac.jp |
| オフィスアワー | e-mailや電話で質問や相談に応じる | | |
| 授業の概要 | <p><授業の目標及びねらい> 国際ビジネスや国際協力、国際交流活動・観光業などで活躍することを目指して、国内の企業・NGO・公的機関・地方自治体、国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。</p> <p><前提とする知識・経歴> 国際協力や国際交流、国際ビジネスなどに興味を持ち、国際的なキャリアを考えていること。「国際キャリア開発基礎」(国際キャリア合宿セミナー)を受講しており、「国際キャリア開発特論」「国際実務英語」を同時にあるいは将来受講することが望ましい。また、NGOでのボランティアやアルバイト経験者や企業、自治体等でのインターンシップ経験者であれば、高い学習効果が期待できます。</p> <p><授業内容と具体的な進め方> 国内で国際協力事業を実施しているNGOや市民団体、公的機関、在住外国人支援に関わる地方自治体、海外に事業所を持つ栃木県内の企業や観光業に関連した企業などをインターン先として、業務補佐などの実習を実施します(実習先として、国際協力機構、栃木県那須塩原市のアジア学院、福島県二本松の青年海外協力隊訓練所、栃木県国際交流協会、いっくら国際文化交流会、その他国際協力NGOに加え、地方自治体観光関係部門、国際コンクール企画や海外アーティストのアテンドなどを行う民間団体も考慮中)。H22年度夏またはH23年度春の長期休暇中の一定期間(最低80時間)を実習期間とし、事前指導を行い、希望の分野や機関に合わせて派遣します。インターンシップ終了後には、実習報告書を課題として課します。また、必要に応じて、事前研修を行います。</p> <p><授業計画> 1. 興味関心分野と受け入れ先機関とのマッチング 2. インターンシップに向けたオリエンテーション 3. インターン実習 4. 実習報告書提出</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 実習開始前に受け入れ機関や関連分野に関する資料を提示します。</p> <p><成績評価法> 受け入れ先機関からのインターンシップ修了証と、レポートを総合して評価します。</p> <p><教員からのメッセージ> 「百聞は一見にしかず」と言いますが、「百見は一触にしかず」です。実習を通して実務と理論の間のギャップを埋めてみませんか。</p> | | |

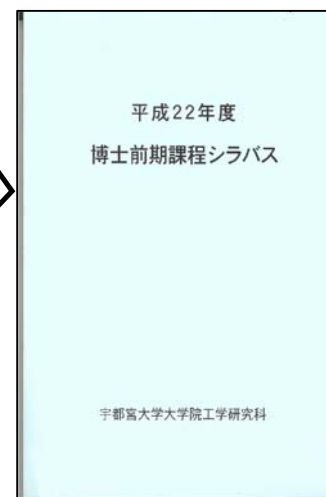
国際的視点に立ったインターンシップの例

資料 1-2-1 1 大学院シラバスの改善



Utsunomiya Univ. Syllabus

| | | | | | |
|---|---------------|--------|-------|---------|---------|
| 授業科目名 | 医用工学特論 | | | | |
| 開講時期 | 前期 | 曜日・時限 | 月3-4 | 時間割コード | Y110007 |
| 学部・学科等 | 工学研究科博士前期課程 | 標準対象年次 | M1,M2 | 必修・選択区分 | 選択 |
| 科目区分 | 初期導入教育科目 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義 |
| 担当教員名 | 酒井 直隆 | | | | |
| 電話番号 | | 電子メール | | | |
| オフィスアワー | e-mailで予約すること | | | | |
| 【授業の内容】 医用工学を中心に、工学と生物学とのかかわりを教育する。 | | | | | |
| 【授業の到達目標】 | | | | | |
| (1) 医用工学における最先端の工学知識を身につけること。 (2) 授業計画に基づき自主的学習能力と学習習慣を身につけること。 (3) 研究方法の基礎と態度を身につけること。 (4) 産官学連携、複合領域に関する知識を身につけること。 | | | | | |
| 【カリキュラムの学習・教育目標との関連】 技術者倫理20%、専門知識と応用能力50%、自主的学習能力30% | | | | | |
| 【前提とする知識、関連する科目等】 学部のバイオテクノロジー、メディカルエンジニアリングを受講していることが望ましい。 | | | | | |
| 【授業の具体的な進め方】 授業の際に毎回プリントを配布し、これを中心に講義を進める。まず講義内容をプリントと板書で解説し、次にパワーポイントで画像を交えて解説、さらにビデオ映像で具体的に解説するという、画像・映像を駆使した立体的な講義を展開する。 | | | | | |
| 【授業計画】 | | | | | |
| 1. 医用工学・バイオメカニクスの特論 2. 医療と福祉における工学応用 3. 人体の構造と機能 4. 生体計測 I 動作解析の手法 5. 生体計測 II 有限要素法 6. 生体計測 III 感圧センサー 7. ロボットハンド義手の開発 I 手の動作解析 8. ロボットハンド義手の開発 II 骨格と駆動機構 9. ロボットハンド義手の開発 III 表面素材と知覚機能 10. 近赤外光による生体の可視化 11. 近赤外光の医療福祉への応用 12. 骨折の病態と治療 13. 骨折モニターの開発 14. 障害者支援機器 15. まとめ | | | | | |
| 【教科書・参考書・教材等】 教科書に相当するプリントを授業の都度配布するので、教科書を準備する必要はない。 参考書としては、木村雄治「医用工学入門」コロナ社がある。 | | | | | |
| 【成績評価】 成績評価の必要条件是、三分の二以上の講義に出席することである。 期末試験の点数が60%以上を合格とし、80%以上を優、70%以上80%未満を良、60%以上70%未満を可と判定する。 期末試験に代えて、レポート提出によって評価することがある。 | | | | | |
| 【学習上の助言】 勉強は復習中心でよい。医用工学およびバイオメカニクスの先端的考え方を知り、産官学連携を含む最近の研究方法を会得して、最先端の複合領域を理解してほしい。 | | | | | |



資料1-2-12 大学院でのGPA評価

大学院GPA制度の試行結果報告
工学研究科物質環境化学専攻

物質環境化学専攻では、2009年度前期において、大学院博士前期課程開講講義の一部において、大学院GPA制度の試行を行なうこととした。

参加した開講科目は、物質環境化学総合特論I、および、量子物性材料特論の2科目とした。

物質環境化学総合特論Iは、物質環境化学専攻における必修講義であり、全員が履修すること、また、学際先端システム学専攻の化学系学生の多くも履修することから、試行に適した科目である。

一方、他の開講科目は、特別演習、特別研修、特別実験を除き、全て選択必修科目であるため、各科目の履修者が不定である。その中で、教員の協力を得られた、量子物性材料特論について、試行に加えた。

成績結果および解析は、以下の通りである。

両科目履修者のGPA値一覧
物質環境化学専攻（6名）
2.0、4.0、3.0、0.5、2.5、2.0
学際先端システム学専攻（5名）
2.5、2.5、3.0、2.0、1.5

わずか2科目であり、また、総計11名分のデータであるので、細かな解析は不可能であるが、以下、問題点を挙げる。

とりあえず、各個人のGPAをそれぞれに算出することは可能ではある。しかしながら、本格的に導入した場合、学部への適応に際しても論議されてきたが、各科目間の成績評価の統一化が、大学院科目において可能なかどうか、より一層の検討が必要と思われる。大学院における講義の内容は、より専門的であり、成績評価もそれぞれの分野でかなり異なっている。ペーパー試験による評価に重点を置いている科目もあれば、プレゼン、報告などに重点を置いている科目など、多様である。このことから、統一化にはクリアしなければならない問題が多いと思われる。また、これらの科目を、全ての学生が均一に受講しているわけではなく、各自の専門に応じて、履修科目の選択も実に多岐である（開講20科目中5科目の履修で卒業可能である）ことから、方式の統一化がより難しくなることが予想される。

また、いわゆる「秀」の比率を学部においては10%程度と定めている。物質環境化学総合特論Iにおいては、3回の試験の総合評価により評価を行なっているが、今回、90点以上を獲得した学生が18%を越えた。なお、例年、このような結果となっているが、本科目は、学部レベルの復習も兼ねており、その性格上、当然の結果でもある。いわゆる「秀」の%規程をどのように定めるか、専攻の独自性が認められる必要があると思われる。

以上

大学院でのGPA試行結

平成21年度 第2回教務委員会議事要旨(抜粋)

日時：平成21年7月16日(木) 16時10分～17時50分
場所：本部第2会議室(3F)

議題
4 大学院GPAの試行について。
根拠・前提
【資料2-4-1】大学院GPA制度の試行実施予定専攻等一覧。
【資料2-4-2】学院GPA制度導入による試行依頼について(各研究科回答一覧)。
提案
資料2-4-1,2に基づき、試行の協力ができる専攻等に対して実施依頼をする。
審議結果
一覧表どおり実施をお願いすることとした。

平成21年度 第6回教務委員会議事要旨(抜粋)

日時：平成21年12月22日(火) 10時00分～12時02分
場所：本部第2会議室(3F)

議題
(略)

報告
2 大学院GPA制度導入による試行結果について。
【資料6-7】
資料6-7に基づき、試行した研究科より報告があり、審議の結果、現段階ではGPAやGPTだけでは達成度の評価が困難であるとされた。また、総合的に達成度を評価するには、学位論文のより客観的評価、学会発表・投稿論文などの成果、TAやRAの活動、現地調査やインターンシップ活動なども加味する必要があり、今後、その具体化を図ることが必要である事が確認された。

終了 12:02

教務委員会資料(抜粋)

宇都宮大学大学院農業環境工学専攻
修士論文「研究最終発表」審査表
(主指導教員に提出)

発表会日時：2010年 月 日() 13:00～17:40
学生氏名： _____ (年入学)
研究題目： _____

審査項目および評価 [S:秀, A:優, B:良, C:可, D:不可]

1. 研究内容
(1) 全体構成：目的・方法・結果・考察などが良く構成されているか？ []
(2) 論理構成：結果・考察・結論がよく整理されているか？ []
(3) 位置付け：研究史の総括、研究の位置づけがよくなされているか？ []
(4) 貢献度：社会的貢献・学術進歩において意義ある研究か？ []
(5) 独創性：対象・手法などにオリジナリティがあるか？ []
(6) 実験・調査等の遂行：目的に合致した実験や調査が計画・遂行されたか？ []

2. 修士論文・要旨
(1) 要旨：研究内容を簡潔・的確に、かつ論理的に記述しているか？ []
(2) 修士論文：適切な構成・体裁のもとに論理的記述がなされているか？ []

3. 知識・理解度、研究方法
(1) 基礎知識：関連する基礎知識を十分もっているか？ []
(2) 手法の修得：研究方法が十分修得されているか？ []
(3) データの正確な解析：データを正確に解析しているか？ []
(4) 論理的考察：データに基づき、論理的な考察がなされているか？ []

4. 研究姿勢・進捗度
(1) 研究姿勢：真面目にかつ自主的に研究活動に取り組んできたか？ []
(2) 進捗状況：研究は予定どおり完了したか？ []

5. 発表・表現
(1) 図表：図表はわかりやすく作られているか？ []
(2) 説明：説得力のある説明がなされたか？ []
(3) 質疑応答：質問に対して的確な対応がなされたか？ []

6. 付帯的意見
[]

7. 総合評価
[]

審査者氏名： (主/副) 指導教員 _____

論文審査の客観性を高める工夫

資料1-2-13 全学的FD活動

**平成21年度 宇都宮大学
全学FDの日**

1. 日 時 平成21年9月29日(火) 10時00分から

2. 場 所 大学会館2階 多目的ホール
(工学部アカデミアホールに映像配信)

3. 日 程

【全学FDシンポジウム】
 10:00 挨拶(学長 進村 武男)
 10:10 説明「宇都宮大学における学士課程教育のグランドデザイン」
 (理事(教育・学生担当) 石田 朋晴)
 10:30 事例発表「教育改革の方法と適用例」
 (1) 教育認定プログラム - 技術者教育認定プログラムの場合 -
 農学部 後藤 章 教授
 (2) 出口での総合評価 - 教職実践演習を例として -
 教育学部 佐々木和也 准教授
 11:30 総合討論

【個別FD活動】
 13:30 午前のシンポジウムの内容を踏まえ、各学科・コース等のカリキュラム単位で、以下の内容等について意見交換を進め、今後の議論の進め方も含めて検討する。

1. 共通教育の位置づけを踏まえた“3方針”の明確化・確認
2. カリキュラムシラバス作成作業の進捗状況の確認
3. 教育改善のためのPDCAシステムの構築
4. 今後の検討予定と体制の確認
5. その他

目 次

説明「宇都宮大学における学士課程教育のグランドデザイン」
 (理事(教育・学生担当) 石田 朋晴) 1

事例発表「教育改革の方法と適用例」
 (1) 教育認定プログラム - 技術者教育認定プログラムの場合 -
 農学部 後藤 章 教授 6
 (2) 出口での総合評価 - 教職実践演習を例として -
 教育学部 佐々木和也 准教授 17

「学士課程教育の構築に向けて」
 中央教育審議会答申の概要 24

用語解説 29

メモ 38

平成21年度 教員相互の授業参観実施状況報告書

学部・学科・コース等名 教育学部(文責・教務副委員長 鈴木啓子)

| | |
|--|---|
| <p>授業参観の実施方法</p> <p>授業の公開方法を簡潔に記載願います。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度の教授会決定に従い、「<u>教員各位は授業を1回以上公開し、1回以上参観する</u>」という方針で実施した。 2. 教育学部教務委員会に実施WGを設置し、7月教授会で具体的な実施方法を提案し、10月初旬に公開授業一覧表を作成して全教員に配信し、11月1日～11月30日に実施した。 3. 教員各位は、1週間前までに参観を希望する授業の担当者にメールもしくは口頭で参観希望を伝え、許可をとって参観を行った。 4. <u>参観者は、参観後できるだけ速やかに(1週間以内)に授業参観シートを授業者宛に添付メールで送信する方法</u>を採用した。参観シートは教員各自が保存。 5. 終了後、教員各位は参観者数と意見・感想を総務担当者に報告し、参観者数一箇に集約した。 6. 一覧表に集計された参観状況を、教務委員会(1月13日、2月10日)および教授会(2月24日)で報告し、意見・感想を募った。 |
| <p>そ の 他</p> <p>どのようなところが授業改善に役立ったか、どのような自己点検を行ったかなど、授業参観を実施し、お気づきの点があれば自由に記載願います。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学部90名の教員中、産休教員を除く88名の教員のうち、85名の教員により129授業が公開され、教員52名の60授業に対して、延人数88名の教員による授業参観が行われた。 2. 参観者数0名の授業が69授業、授業公開を行ったにもかかわらず参観者数が0名であった教員が33名いた。時間割や科目内容の関係であろうが、次年度にむけて実施方法の改善の検討を要する。 3. 授業公開・参観後のコメントとして、①意欲的な授業が行われていると感じた、②学生の視点を実感できた、③学生の受講態度を第三者的視点で観察できた良かった、④同業者の視点での評価と的確なアドバイスももらえて有意義だった、⑤専門の異なる教員から深い関心を示され、今後のやる気になった、⑥講義をビデオなどに撮って自分で反省する機会をもちたい、⑦教員相互の理解とコミュニケーションを深める好機となった、⑧FDとして十分機能する活動だと思ふ、等々が寄せられた。 4. 実施方法に関しては、「参観日程を設定し、詳細については希望者と相談して決めるようなシステムがよかった」という意見と、「手続きが煩雑な割には生産的でなかった」という、賛否両論があった。 |

教員相互の授業参観実施状況報告書の例(教育学部)

全学FD活動の資料

平成21年度 国際学部FD研究会 開催実績

実施場所: 国際学部大会議室
実施時間: 13時20分～14時20分

| 実施日 | 話 題 | 話題提供者(敬称略) |
|----------------|---------------------------|---|
| 平成21年4月22日(水) | 多文化公共圏センターの一年と今後 | 多文化公共圏センター長 田巻松雄 |
| 平成21年7月22日(水) | 宇都宮大学キャリア教育について | キャリア教育・就職支援センター副センター長 末廣啓子 |
| 平成21年9月24日(木) | 国際学部をとりまく状況について | 理事(企画・広報担当) 渡邊直樹 |
| 平成21年10月21日(水) | 「国際学部の教育改革～学部再編に向けての現状」 | 教務委員 米山正文、清水奈名子 |
| 平成21年11月18日(水) | 「宇都宮大学の学士教育改革～石田理事をお迎えして」 | 理事(教育・学生担当) 石田朋晴 |
| 平成21年12月16日(水) | 「共通教育改革について」 | 松金公正 |
| 平成22年1月27日(水) | 国際学部の3ポリシーについて | DP: 伊藤一彦(教務委員長)、CP: 米山正文(教務委員)、AP: 高野澄雄(入試委員長)、APコメンテーター: 柄木田康之(教務副委員長) |
| 平成22年3月23日(火) | 学生のキャンパスライフ適応について | 保健管理センター所長 吉野啓子、学生支援課長補佐 森島武美、修学支援課専門職員 大橋和宏 |

学部レベルでのFD活動の例(国際学部)

資料 1-3-1 教育目標に対応した教員の適正な配置

English Program of Utsumomiya University (EPUU = イープー)
担当教員

○ = 専任教員

□ = 特定科目教員(英語)

| 氏名 | 所属大学 | 資格 |
|-------------|-----------------------------------|--------------------|
| 五十嵐 香 | ニューヨーク州立大学 (アメリカ) | TESOL 修士 |
| 江川 美知子 | 州立南イリノイ大学 (アメリカ) | TESOL 修士・高等教育学博士 |
| 鬼頭 和也 | 州立テンプル大学 (アメリカ) | TESOL 修士 |
| トーマス・ウィリアムズ | 州立南イリノイ大学 (アメリカ) | TESOL 修士 |
| ジム・チェンバーズ | 州立テンプル大学 (アメリカ) 州立ハワイ大学 (アメリカ) | TESOL 修士 アジア学修士 |
| 藤井 拓哉 | オハイオ州立大学 (アメリカ) | TESOL 修士・日本語教育学修士 |
| 恒安 眞佐 | 州立ユタ大学 (アメリカ) | TESOL 修士 |
| ランズ・サヴィジ | モンテレー国聖大学 (アメリカ) | TESOL 修士 |
| 吉田 守利 | 州立アイダホ大学 (アメリカ) | TESOL 修士 |
| バイロン・ベナーズ | 州立イリノイ大学 (アメリカ) | 農学修士 |
| マックス・ベッカーボス | 延世大学 (大韓民国) | 国際学修士・朝鮮学修士 |
| 仲川 浩世 | 州立カールトン大学 (カナダ) | TESOL 修士 |

(特定科目担当教員 1名は平成22年度より採用)

共通教育英語担当教員配置(本学HPより抜粋)

農学部附属里山科学センター

宇都宮大学
専任教員3名
技術職員1名
協力教員20名

市町
農林課等

講義・演習

外部講師
東京大学
早稲田大学
独立行政法人
財団法人・NPO
栃木県猟友会

栃木県
環境森林部
農政部

現地実習

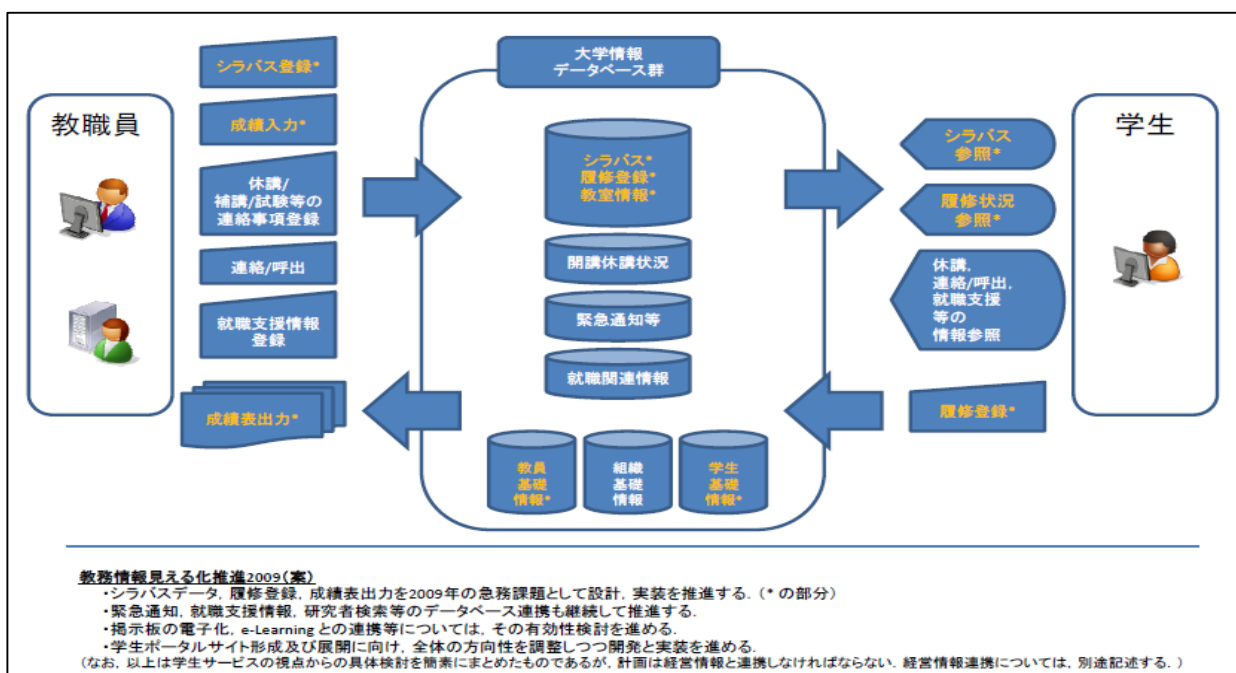
インターンシップ

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム

総括監理 **事業運営委員会** (学長・農学部長・栃木県・NPO・株式会社等)

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム担当教員配置(本学HPより抜粋)

資料 1-3-2 利用者の目線に立った教務情報サービスネットワークの再構築



教務情報サービスネットワークの全体像

(平成21年6月30日 CIO、CSO、教育・学生担当理事等による教務情報システム再構築に関するキックオフミーティング資料)

「新型インフルエンザ」について（注意喚起6）

新型インフルエンザの本学の対応については、随時ホームページ等でお知らせしていますが、後期授業開始に伴いあらためて感染拡大防止のため内容を集約しましたのでお知らせします。

また、引き続き文部科学省を始め、栃木県、宇都宮市等の行政機関とともに状況に応じた措置を講じていきますので、大学からの連絡を掲示及びホームページで必ず確認してください。

大学公式ホームページ

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp>

インフルエンザによる大学休講情報サイト（随時更新）

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/flu/>



全学生向け携帯Webサイトの構

資料 1 - 3 - 3 実践的教育のための新たな施設設備



生殖工学技術者育成システム(農学部)



最先端林業機械技術者育成システム(農学部)

シアター (37席)

第3CALL 教室 (48席)

第2CALL 教室 (48席)

第1CALL 教室 (36席)

書籍情報共同研究室

第1&第2 テューティング ラウンジ

普通教室(可動式机・椅子)

リレーングラボ

専任教員研究室

共通教育センター
センター長室・事務室

共通教育センター会議室

EPUIケニク
&ラーニングコモンズルーム

DVDラボ (32席)

共通教育英語の様々な教育設備

共通教育英語の様々な教育設備

資料 1-3-4 アクティブラーニング環境の整備



工学部学生メディアルーム



EPUUクリニック&ラーニングコモンズルーム



キャリアカフェ

資料 1-3-5 課外活動施設・設備の充実

| 20 年度 | | 21 年度 | |
|---------------|--------|----------|--------|
| 項 目 | 金額(千円) | 項 目 | 金額(千円) |
| サッカー・ラグビー場等改修 | 2,249 | グラウンド改修 | 33,296 |
| 大学会館トイレ改修 | 12,475 | テニスコート改修 | 21,315 |
| 弓道場等改修 | 2,691 | 武道場等改修 | 3,767 |
| | | 体育館等修繕 | 4,337 |
| 合 計 | 17,415 | 合 計 | 62,715 |

(学務部修学支援課調べ 22年3月)

前年比3.6倍の経費投入



グラウンド改修工事

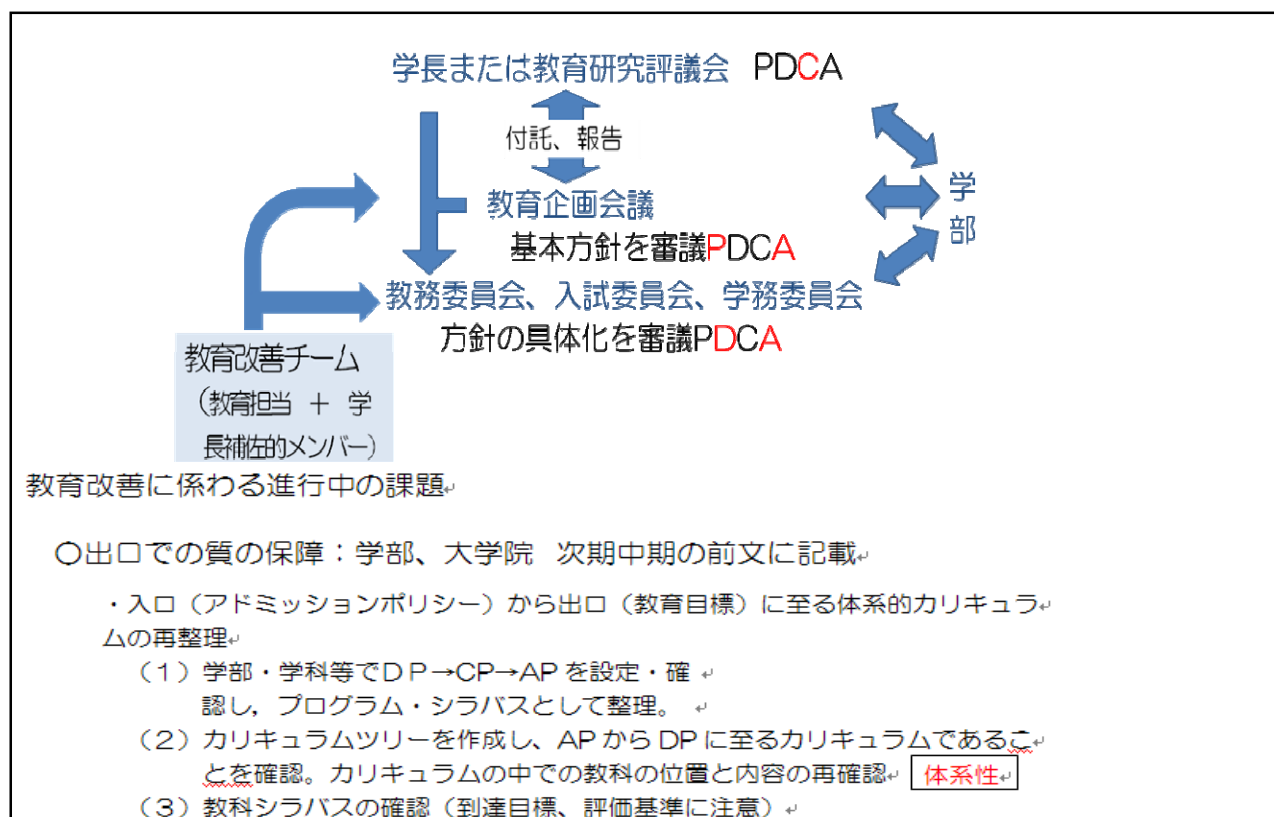


テニスコート 改修前



テニスコート 改修後

資料 1-3-6 教育企画会議による教育改善の推進



教育改善の推進組織

(21年度 第8回 教育企画会議資料)

宇大教育充実・改善支援2010

理事・副学長（教育・学生担当） 石田 朋晴

宇都宮大学では、より良い教育を行うことが最も重要な機能であり、第2期中期目標・中期計画においても、構成員が協働して教育の質向上を図る方向が示されております。

こうした点を踏まえ、平成22年度においては教育の充実・改善を支援するための経費を倍増させ、皆さんの教育改善の努力を後押しすることを予定しています。以下に今年度の支援内容の概略を示します。どの支援についても必ずしも“新しい”内容である必要はなく、今まで皆さんが実施してきた改善内容を更に充実させるためのサポートとお考え頂いても結構です。

公募によるものも含まれますので、どうか個人、グループ、組織でご準備頂きますようお願いいたします。

予算総額：2010万円

- 宇大教育個性化プロジェクト（学内GP）総額1,010万円（5月頃に審査会の予定）
 - ・3方針に則った学部としての教育改善の総体を（前年度までの改善内容と今年度の改善計画）を学部長のプレゼンテーションによって審査。
 - ・各学部とも最低150万円は保証。残り410万円を審査結果により配分。
 - ・審査は役員（監事含む）と外部委員
 - ・予算は学部としての教育改善に使うものとするが使用内訳は学部長の自由裁量とする
 - ・次年度は、前年度の報告も踏まえ新たな改善計画のプレゼンテーションを行い審査
- 教育プログラム支援（1件25万円以内）総額300万円程度（4月に公募の予定）
 - ・個々の教員や教員グループ、学科などでの教育改善活動の経費

あらたな教育・充実経費の支援

(21年度 第10回 教育企画会議資料抜粋)

資料 1-3-7 授業改善のための中間アンケート

授業改善のための「中間アンケート」の実施方針について

平成 21 年 2 月 18 日 教育企画会議決定

1. 目的

本学の中期計画「学生が積極的に関与する授業評価を継続的に実施し、教育の質の改善に役立てる。」に基づき、中間アンケートを実施する。これは、学期末の授業評価がマークシート式の事後評価であるのに対して、授業の改善点を早期に把握して現行の授業の改善に役立てる自由記述式の中間アンケートである。

2. 実施方法

- ・ 全教員に、中間アンケートを実施することを周知し、実施を依頼する。
- ・ 実施は全授業科目とするが、実技、演習、少人数授業など中間アンケート実施には馴染まない授業は除いてもよいものとする。
- ・ アンケートは、あてはまる・あてはまらないというマーク式ではなく、学生の自由記述とする。
- ・ 各教員の判断によって、例示した質問内容（別紙 1）を適宜使用するか、または、各教員が個別に考えた質問を用意して、実施する。
- ・ 各教員は、そのアンケート結果に基づき、授業の改善を図るとともに、中間アンケートの成果について報告する。（別紙 2）

3. 実施時期

平成 21 年度から、6 月上旬及び 11 月上旬に実施する。

| 中間授業評価に対する回答(2009 後期) | | | | | | | | | |
|---|--|-----------|-----------|----------|--|-----------|-----------|---|-----------|
| 講義名 | | 担当教員名 | | | | | | | |
| 評価実施日 | 11 月 12 日 | 結果送付日 | 11 月 17 日 | | | | | | |
| 回答日 | 11 月 19 日 | 評価者人数 | 33 人 | | | | | | |
| 授業の良い点 | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明がわかりやすい(12) ・ スライドが見やすい(8) ・ 課題が理解しやすい(4) ・ 内容がおもしろい(4) ・ 資料が詳しくまとめられている(3) ・ 講義の最初に前回の復習がある ・ 日常の例を出してくれるから考えやすい ・ 進度が適切である ・ 声が聞き取りやすい | | | | | | | | | |
| (回答) | | | | | | | | | |
| <p>難しい内容でもできるだけ分かり易く説明したいというのが私の講義方針です。説明に時間がかけられるよう、すべて資料と板書だったものを、昨年度から講義ノート+資料とパワーポイントに変えました。これが本当に効果的なのかどうかは、もう少ししばらく観察したいと思います。今後とも、時給 1800 円以上の皆さんの授業料に見合うよう、今後とも分かりやすい講義に努めたいと思います。</p> <p>また、内容自体に興味を抱いて頂いた方もいらっしゃいますが、今後はこの数をもっと増えるように努力したいと思います。</p> | | | | | | | | | |
| 授業の不満な点、及び改善点など | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 時々どこをやっているのか分からなくなる。 <ul style="list-style-type: none"> → どこをやっているのか時々教えてほしい (2) ・ 資料に書かれていないスライドがある <ul style="list-style-type: none"> → ここは書いていないなどの明確な説明がほしい (2) ・ 書き込むところが分からない → 資料を穴埋めにする ・ パワーポイントが見にくい → もっとわかりやすく ・ 資料にもっと余白がほしい → 板書や話の書き込みができるように | | | | | | | | | |
| (回答) | | | | | | | | | |
| <p>どこをやっているのか分からなくなる：時々、脱線した話をしたりするのが原因かも知れません。注意して話すようにします。</p> <p>資料にないスライド：了解しました。できるだけ指示するように努めます。</p> <p>ただし、資料にない画面や話を自分なりに余白に書き入れたりするのも、皆さんが養わなければならない能力です。この講義以外ですが、板書されたものしかノートに取らない方も見聞きします。しかし、話だけで板書をほとんどしない先生もいますし、社会に出ればそのようなことも少なくありません。聞いた話の要点を記録する能力は、とても大切です。</p> <p>書き込むところが分からない：この講義では、絶対に欠かせないところは資料に書いてあります。板書は皆さんの理解を深めるためのものとしております。上に書いた、聞いた話の要点を記録する能力とも関わります。ぜひともそんな努力もしてみてください。なお、穴埋め資料は、重要用語を覚えて頂くには良いのですが、概念の理解には必ずしも適切ではないと考えています。</p> <p>パワーポイントが見にくい：文字が小さい？一枚の中に内容を詰めすぎている？いろいろなケースが考えられます。私としても気をつけますが、より具体的に指摘して頂けると幸いです。・・・資料の余白：君たちの後輩のために改善します。</p> | | | | | | | | | |
| 授業の点数評価 | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td>1. 授業満足度</td> <td>1: 0 人, 2: 0 人, 3: 3 人, 4: 20 人, 5: 10 人</td> <td>(平均: 4.2)</td> </tr> <tr> <td>2. 授業への意欲</td> <td>1: 0 人, 2: 1 人, 3: 3 人, 4: 20 人, 5: 9 人</td> <td>(平均: 4.1)</td> </tr> </table> | | | | 1. 授業満足度 | 1: 0 人, 2: 0 人, 3: 3 人, 4: 20 人, 5: 10 人 | (平均: 4.2) | 2. 授業への意欲 | 1: 0 人, 2: 1 人, 3: 3 人, 4: 20 人, 5: 9 人 | (平均: 4.1) |
| 1. 授業満足度 | 1: 0 人, 2: 0 人, 3: 3 人, 4: 20 人, 5: 10 人 | (平均: 4.2) | | | | | | | |
| 2. 授業への意欲 | 1: 0 人, 2: 1 人, 3: 3 人, 4: 20 人, 5: 9 人 | (平均: 4.1) | | | | | | | |
| <p>1. 例年より 0.2 以上低い、少し準備がたりないかも知れません。気をつけます。</p> <p>2. これは例年くらいかな？</p> | | | | | | | | | |

中間授業評価に対する回答の例

資料 1-3-8 国際学研究科の特色ある取組

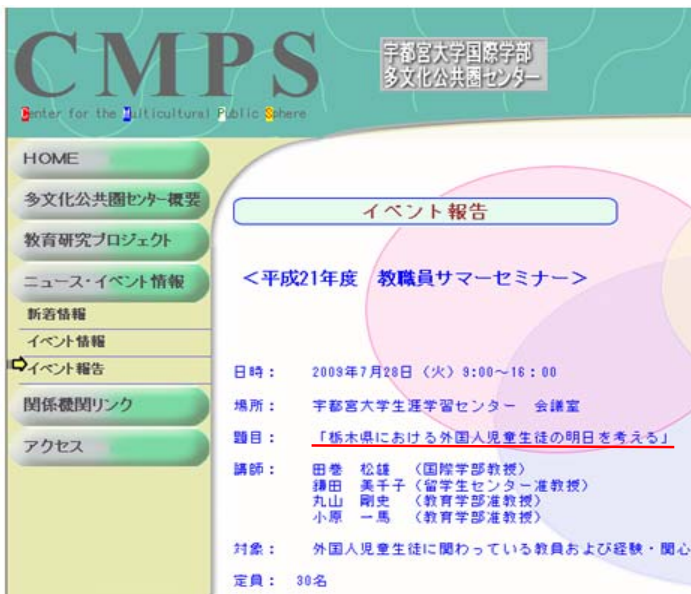
**<多文化公共圏センター開設記念>
オープニングセレモニー**

去る、7月16日(水)大学会館において、宇都宮大学国際学部「多文化公共圏センター」のオープニングセレモニーが開催されました。平日の午後にもかかわらず、研究者・学生・一般市民合わせて、170名ほど方にご参加いただきました。セレモニーは、まず北島国際学部長・田巻センター長の挨拶で幕を開けました。



特に田巻センター長のあいさつでは、多文化公共圏センターの第一の役割として、「国内外を問わず様々な問題の解決策について多様な立場の人が議論する『拠点』となる」ことを挙げていました。

多文化公共圏センター開設記念オープニングセレモニー



CMPS Center for the Multicultural Public Sphere
宇都宮大学国際学部 多文化公共圏センター

HOME
多文化公共圏センター概要
教育研究プロジェクト
ニュース・イベント情報
新着情報
イベント情報
イベント報告
関係機関リンク
アクセス

イベント報告

<平成21年度 教職員サマーセミナー>

日時： 2009年7月20日(火) 9:00~16:00
場所： 宇都宮大学生涯学習センター 会議室
題目： 『栃木県における外国人児童生徒の明日を考える』
講師： 田巻 松雄 (国際学部教授)
鎌田 美千子 (留学生センター准教授)
丸山 剛史 (教育学部准教授)
小原 一馬 (教育学部准教授)
対象： 外国人児童生徒に関わっている教員および経験・関心のある教員
定員： 30名

多文化公共圏センターによる
外国人児童生徒教育のセミナー



国際キャリア合宿セミナー2009
～国際舞台で活躍を目指す若者たちへ～

国際的な企業に求められる知識や能力、これからの仕事に必要となるキャリアパスを学ぶ機会が得られます。国際キャリア合宿セミナーに主体的に参加して、これが50のキャリアを導くヒントや指針を得よう。本学の大学生や社会人など多様な参加者から、大活躍の機会が生まれます!

2009年9月19日(土)～21日(月)

主催：宇都宮大学、大学コンソーシアムとちぎ
協力大学：群馬大学、群馬県立女子大学、作楽学院大学
幹事：(株)国際キャリアセンター、JICA国際協力センター
後援：栃木県、(株)国際キャリアセンター、(株)国際キャリアセンター、(株)国際キャリアセンター、(株)国際キャリアセンター

参加費：18,000円
定員：110名(先着順)
問合せ先：宇都宮大学国際学部国際課(TEL:028-649-5186)
申込み先：下記メールアドレス(申込用紙を添付)
kakuo@miye.jm.utsunomiya-u.ac.jp
申込期間：2009年7月1日(水)～7月24日(金)

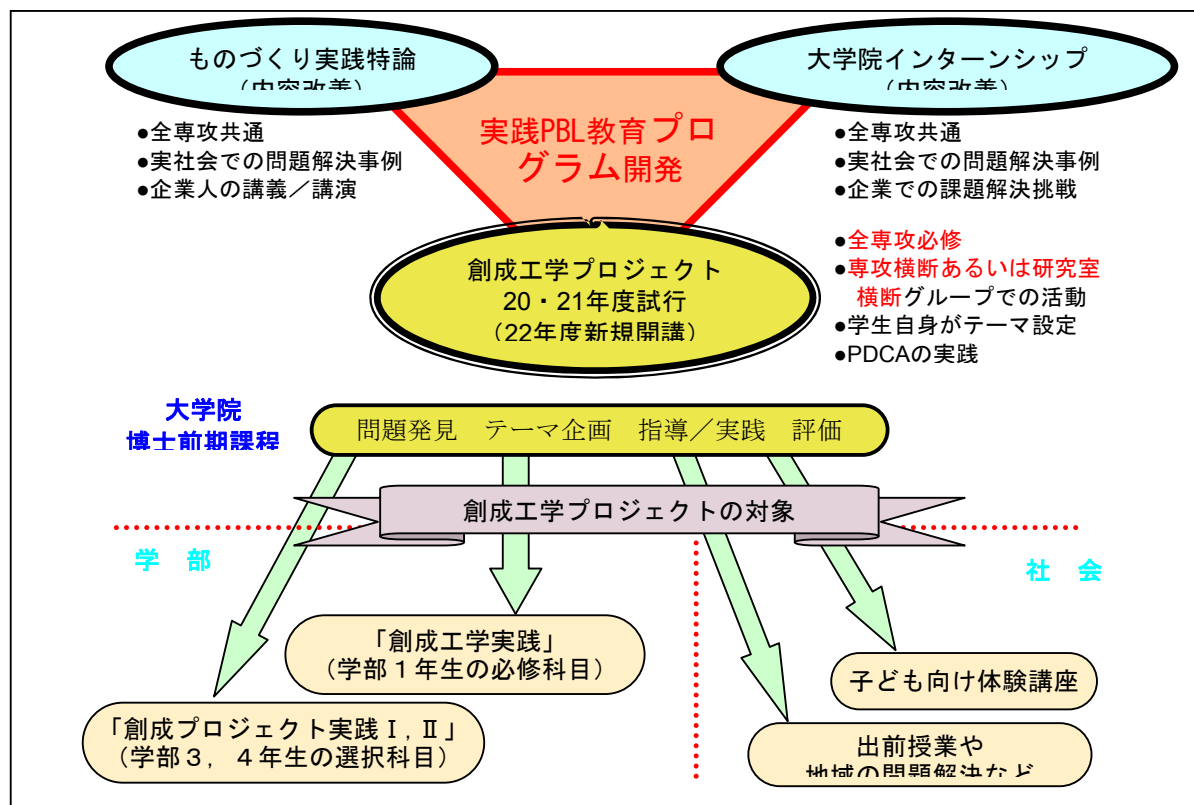
会場・宿泊：栃木県那須野上原(コンセーレ)
URL: <http://www2.uonue.jp/Ocnoers/>
交通：JR宇都宮線 鹿沼駅下車
「作新学院校舎」(5の目のB200F)
東中丸バス停下車(コンセーレ側)

主催と監修委員
国際キャリアセンター 執行役員 小澤 真一 氏
日本国際キャリアセンター 職員 佐伯 美穂 氏
EBC国際キャリアセンター 職員 藤野 良博 氏
国際キャリアセンター 職員 佐々木 敏行 氏
国際キャリアセンター 職員 石井 肇之 氏
国際キャリアセンター コーディネーター 金田 勇一 氏
国際キャリアセンター 職員 澤田 幸司 氏
国際キャリアセンター 職員 新海 真穂 氏

ファシリテーター(分科会進行役)募集!!
ファシリテーターとは、分科会を司会進行し、参加者の発言を促し、議論の方向性を導く役割を担います。1日1回の研修を受け、自分自身の経験や知識を活かして、分科会の進行役として活躍してください。1800円程度の研修費がかかります。興味のある方は、国際キャリアセンター(CMPS)までお問い合わせください。

国際キャリア合宿セミナー

資料 1-3-9 工学研究科の特色ある講義



創成工学プロジェクトの例 (21年6月作成・22年度概算要求資料を一部訂正)

Self-check sheet

学籍番号 _____ 名前 _____

<振り返り>
今の気持ち (焦り、やる気、困惑、前向きなど)

| | |
|-------------|--------------|
| やっける感 (自主性) | やらされ感 (不本意感) |
| /100 | /100 |

= 100

<ここまでの達成度>

| | |
|---------------|-----------------|
| 身に付いたこと・嬉しいこと | もっと知りたいこと・悔しいこと |
|---------------|-----------------|

<ゴールイメージ> この授業の内容について、前期終了時には理解度何%になっていたい? あなたにとって、具体的に何がどういう状態になったら、目標を達成したと言えるだろうか。

<自分の強み> わからぬことがあるとき、困ったとき、あなたはどんな対策をとることができますか? (先生・友達・先輩・図書館・卒仲強・考え取く etc.)

<次の行動はどこから?> たとえば、「課題点の具体的なリストアップ」、「目標までの段階的段階を小さくする」、「優先順位をつけなおす」、「〇〇だけ完璧にする」、「質問する」 などなど。

| | | | | | |
|----------------------|---|--------|-------------------------------------|---------|---------|
| 授業科目名 | 特別講義Ⅳ(共創コーチング特論) Coaching for Co-creation | | | | |
| 開講時期 | 前期 | 曜日・時間 | 未定 | 時間割コード | Y100013 |
| 学部・学科等 | 工学研究科博士前期課程 | 標準対象年次 | 全学年対象 | 必修・選択区分 | 選択 |
| 科目区分 | 専門教育科目 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義・演習 |
| 担当教員名 | 稲垣 友仁 | | | | |
| 紹介教員 | 大庭 亨 | | | | |
| 電話番号 | 028-689-6147(大庭) | 電子メール | toh_p206@cc.utsunomiya-u.ac.jp (大庭) | | |
| オフィスアワー | 授業で指示する | | | | |
| 【授業の内容】 | 本講義は、コーチングを解説し、「コーチング・マインド」を醸成することが目的です。次のような内容の講義と実習を含みます: ①コーチングとは何か、②コーチングの進め方、③コーチングスキル(傾聴・承認・質問)、④セルフコーチング、⑤研究開発現場でのコーチングの活用、⑥就職活動やキャリア教育などにも広く用いられています。そこで、本講義では、社会の様々な場面で「共創」を実現する人材の育成を最終目標として、その基礎となる「コーチング・マインド」を醸成することを目的とします。 | | | | |
| 【カリキュラムの学習・教育目標との関連】 | | | | | |
| 【前提とする知識・関連する科目等】 | 特になし | | | | |
| 【授業の具体的な進め方】 | 集中講義で行います。日程は指示などで連絡しますが、主な計画は次のようです。 第1日目「セルフコーチングしよう」(自分の強みを見出す/目標を設定する/「わかっちゃいるけど、できないとき」への対処法など) 第2日目「コミュニケーションスキルを磨こう」(コーチングとは/積極的傾聴/承認のスキル/質問のスキル など) 第3日目「コーチングを現場に活用しよう」(3年後の自分イメージする/目標達成のコツ/強みを生かす など) | | | | |
| 【授業計画】 | 1. オリエンテーション 2. セルフコーチングしよう、セルフコーチングとは 3. 自分の強みを見出す 4. 目標を設定する 5. 「わかっちゃいるけど、できないとき」への対処法など 6. コミュニケーションスキルを磨こう 7. コーチングとは、セルフコーチングとの違い 8. 積極的傾聴 9. 質問のスキル 10. 共に高めあうコミュニケーション術など 11. コーチングを現場に活用しよう 12. 自分の強みを見よう 13. ビジョンや目標の設定 14. コミュニケーションスキルの活用 15. コーチングのまとめ | | | | |
| 【教科書・参考書・教材等】 | 授業で指示します(主として配布プリントを用います) | | | | |
| 【成績評価】 | 課題と授業への取り組みを総合して評価します。 | | | | |
| 【学習上の助言】 | コーチングとセルフコーチングは、研究や学習を進めるためだけでなく、就職活動や、社会人としての生活(職業・家庭・社会)の中で、みなさんが存分に力を発揮するために必ず役立つ知恵です。講義と実習に取り組むうちに、きっと何か気づくことと思います。 なお、本講義の単位を取得した場合、本学大学院工学研究科共通科目特別講義Ⅳ(共創コーチング特論)は履修出来ません。 | | | | |

授業(共創コーチング特論)で用いた資料

シラバス(共創コーチング特論)

資料 1-3-10 農学部の新たな特色ある教育

下野新聞(H21.7.4)

地球と暮らす

宇都宮大里山科学センター

7月1日設置。里山の生態系や伝統知識を「里山科学」として科学的に再評価し、地域に還元することを目的としている。センター長は宇都宮基幹部農学部長。3人の専任教員と2人の研究員が所属する。問い合わせは同センター→0228・643・5393。

鳥獣害解消へ 専門家を養成

宇都宮大、里山科学センター設置

里山は自然の恵みを受け、人々の生活を支えている。しかし、近年は鳥獣害が増加し、農林業に大きな被害を与えている。宇都宮大学は、鳥獣害の解消に向けて、専門家を養成することを目的として、里山科学センターを設置する。センターには、鳥獣害の発生メカニズムや被害の軽減方法に関する研究を行う専任教員と研究員が所属する。また、地域住民への啓発活動や、鳥獣害被害者の支援活動にも取り組む予定だ。

大学先生対象のプランナーは20人。市町職員や農林業者などが対象の専門員は40人を養成する。

里山野生鳥獣管理技術者養成プログラム

鳥獣害対策のスペシャリストへ

宇都宮大学農学部附属里山科学センター

毎日新聞(H21.8.10)

里山をベースにした分野横断的PBL教育

2009年度宇都宮大学重点推進研究による里山科学現地研究会
略称「宇都宮大学里山科学現地研究会」

**那須烏山市大木須での教育・研究
成果とその地域活用を考える**

期 日：2010年2月27日(土)
13:30~16:30

場 所：那須烏山市大木須集会所

主 催：混農林倶楽部(那須烏山市大木須下地区)
宇都宮大学農学部附属里山科学センター(宇都宮市)

協 力：那須烏山市、栃木県東北森林管理事務所

趣 旨：2009年度宇都宮大学重点推進研究「国際・地域連携による那須川流域の里山生態系、サービスの評価」の地域貢献活動の一環として、那須烏山市大木須下地区において実施された宇都宮大学農学部・教育学研究科所属の学部学生・院生ならびに農学部附属里山科学センター協力教員らによる研究・教育・地域貢献活動の成果を現地大木須において住民に発表し意見交換ならびに互いの親睦をはかります。

プログラム

13:15：開会
(混農林倶楽部会長、宇都宮大学農学部附属里山センター長、農学部長、那須烏山市長)

13:30：成果発表

- 大木須下地区における研究活動・生産活動(地域貢献活動)の意義と各研究グループの位置づけ：平井・大久保
- 落葉堆肥の生産過程と水田投入量の定量的評価～中山間地域の農用林と落葉施用水田を例にして～：[](育林学研究室)
- 落葉施用水田米の生産再開にむけた農用林の利用変遷と林分構造の変化～那須烏山市の中山間地域を例にして～：[](育林学研究室)
- 冬水田んぼ～里山における環境保全型農業の実践～：[](土壌学研究室)
- 里山水田における有機肥料と冬水による地力向上効果：[](農地・土壌工学研究室)
- 里山におけるクス(*Pueraria lobata*)の地理的な分布と生業構造変化の関係：[](雑草科学研究センター)
- ビームライト調査によるイノシシの生息環境の解析：[](野生鳥獣管理学研究室)
- 狩猟者の意識にみるイノシシの現状課題～那須川町イノシシ肉加工施設をめぐる～：[](森林政策学研究室)
- 家族の視点からみる持続可能な地域の創造～大木須地区に住まう家族を通して～：[](家政教育教室)
- 生態系の持続的管理を確実に行うための大学教育プログラムの開発～里山再生を事例として～：平井、西尾

15:30：休憩

15:40：意見交換会

16:30：閉会(混農林倶楽部事務局、宇都宮大学農学部附属里山センター)

17:00：懇親会

専攻とは異なる柔軟なPBL教育

資料 1 - 4 - 1 きめ細かな学生支援 1

学生相談に関する研修会

1. 日時 平成21年2月20日(金) 10:00~
2. 場所 図書館会議室(3階)
3. 内容
 - (1) カウンセリングについて
臨床心理士 坂寄 和弘氏
(本学非常勤職員 カウンセラー)
 - (2) 事例研修
 - (3) その他
 - ① 学生相談対応マニュアル(案)について
 - ② 平成20年度「学生相談インターカースミナー」報告

学生相談員連絡会研修会資料

平成21年度宇都宮大学FD・SD講演会

発達障害について学ぼう

コミュニケーションや対人交流が苦手で「ちょっと変わった人」として見られている方がまわりにいませんか?
生来のハンディをもつために、修学や研究・就職等に困難をきたしている学生がいることを認識し、彼らのサポートを学びましょう。多数の参加を期待しています。

日時 平成22年3月9日(火)
13:30~16:00

場所 国際学部E棟1階 1151教室

講師 梅永 雄二 (本学教育学部特別支援教育教授)
渡邊 昭彦 先生 (本学非常勤カウンセラー・精神医学)
(川村学園女子大学文学部教授)

定員 50名程度

対象 本学教職員及び学生
特に、指導教員、学生相談員、学生支援担当職員の方の参加をおまちしています。

問い合わせ先: 学務部学生支援課(内線:5097)
保健管理センター(内線:5123)

平成21年度宇都宮大学FD・SD講演会ポスター

JUST (宇大就活応援団)

~内定ももらた先輩が、後輩の就職活動・採用試験をサポートしています!~

○JUSTとは・・・
後輩のために就職支援セミナー等を企画・実施する内定者の団体です。


○活動内容
・就職活動生支援のためのセミナー等の企画及び実施
・必要に応じて、キャリア教育・就職支援センター主催事業の補助

○目的
後輩に就職活動へのきっかけを与え、就職活動がスムーズに行えるようサポートすることを目的としています。
また、内定者自身も後輩の就職支援事業の企画・実施を通して実社会において必要とされる積極性、主体性、協調性、独創性、コミュニケーション能力などを養うことができます。

○活動内容(第2期生)

★メンバー★

| | | |
|---------|-----------|----------|
| 企画・実施担当 | 国際学部 | 6名 |
| | 教育学部 | 2名 |
| | 工学部 | 2名 |
| | 農学部 | 5名 |
| | 工学研究科 | 2名(計17名) |
| 協力者 | 学務・研究科内定者 | 30名 |



★活動内容★

JUST

学生による就職支援

★活動内容★

- 就職ガイダンス
- 企業説明会
- 模擬面接
- 企業訪問
- 企業説明会
- 企業説明会
- 企業説明会

★今後も各種イベントの実施や体験型の配布などをを行います!

第1回

就職サポートフォーラム

10月18日(金) 18:15~18:30


★参加費 無料

★参加人数 約50名

★参加企業 約10社

★参加企業: 株式会社コリス、株式会社コリス、株式会社コリス、株式会社コリス、株式会社コリス、株式会社コリス、株式会社コリス、株式会社コリス、株式会社コリス、株式会社コリス

JUST 25名、就活生55名が参加し、大盛況でした。



学生による就活支援(JUST広報資料より)

宇都宮

学生向けにエコ小冊子 宇都宮大生有志が配布

(4月16日 05:00)



【宇都宮】宇都宮大の学生有志でつくる「環境改善学生サポーターECHO(エコ)」と同大は、環境配慮型生活を送るポイントを集めた小冊子を作成、今月から学生に配布している。市の資源ごみ収集細分化を受け、ごみの出し方も詳しく紹介。財布に入れやすい名刺サイズで、「エコ意識の携帯」を目指す。

ECHOは昨年11月に発足。同大学務部と提携し、現在は約20人が学内の環境改善にかかわる活動を幅広く行っている。

小冊子の作製は、学生に環境意識を高めてもらうことを目的に企画。身近でありながら学生たちが意外と知らない情報を中心に盛り込み、「ECO STYLE(エコスタイル)2010」と名付けた。

家庭ごみの出し方、大学周辺のごみ収集日一覧を掲載。学内で実施しているリサイクル弁当容器の回収方法、数ページ分を1ページに集約して印刷する方法なども図入りで紹介している。

バスの時刻表やキャンパス内マップ、自分で記入できる時間割表など、学生生活に便利なページも。代表の農学部3年仲田由香里さんは「環境意識の向上に役立ててもらえたらうれしい」と話す。

ECHOはこのほかにも、環境改善のためのさまざまな活動を予定。アドバイザーを務める国際学部の高橋若菜准教授は「学生発の意義ある活動。この仕掛けを生かしていきたい」としている。

—平成21年4月16日下野新聞及びオンラインニュー学生による自主的な環境改善サポート

感謝状

殿

貴殿は本学の業務運営に深い理解を示されこの度「宇都宮大学基金」に多額のご寄付をくださいました。本学では今後も地域と時代の要請に応え高度な人材の育成に励みお志に沿えるよう努めて参ります。この度の貴殿のご厚意に対しここに深甚なる感謝の意を表します。

平成二十二年一月二十七日

国立大学法人宇都宮大学長 進村武男 印

(寄付者への感謝状)

資料 1-4-3 きめ細かな学生支援 2

◎E棟1階入り口にあった「就職資料閲覧室」を共通教育D棟2階の既存のキャリア教育・就職支援センターの廊下を挟んだ向かい側に「キャリア・カフェ」として移転させました。ゆったりと快適な空間に充実した資料を取り揃えましたので、友達との就活の情報交換等に気軽に利用してください。



キャリアカフェ

就職活動の味方 『UU Career Navi』のモバイル版が誕生

皆さんの就職活動をより充実したものにするために『UU Career Navi』のモバイル版ができました。ホームページとモバイル版を使って、就職活動をより円滑に進めよう！

UU Career Navi モバイル版を使うメリット

- POINT ①** 宇都宮大学への採用意欲の高い企業に、エントリー、説明会予約がタイムリーにできる
- POINT ②** 宇都宮大学内で行われる就職支援ガイダンスに、いつでもどこでも予約できる
- POINT ③** キャリア教育・就職支援センターで行われるキャリア相談予約がいつでもどこでも予約できる

UU Career Navi(キャリアナビ)

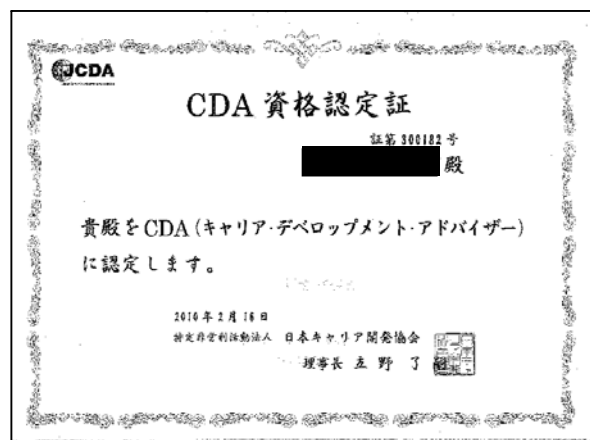
■平成22年度進路相談について

下記のように進路相談日を設定、皆様のご利用をお待ちしています。
相談希望の方は、「UU Career Navi」又はキャリア教育・就職支援センターにて予約をしてください。
※相談日及び開設時間は、変更になる場合もあります。
※相談時間は、原則として一人50分以内となります。

1名増員

| 担当者 | 相談日 | 開設時間 | 場所 |
|-----------------------|---------|-------------|---|
| 川崎 節子 (キャリアアドバイザー) | 毎週月曜日 | 12:00~17:00 | キャリア教育・就職支援センター 隣東キャンパス石井会館2階 (月ごとに変わります) |
| 熊持 勝 (キャリアアドバイザー) | 毎週火曜日 | 10:20~16:10 | キャリア教育・就職支援センター 隣東キャンパス石井会館2階 (月ごとに変わります) |
| 斎藤 幸江 (キャリアアドバイザー) | 毎週金曜日 | 11:00~17:00 | キャリア教育・就職支援センター 隣東キャンパス石井会館2階 (月ごとに変わります) |
| 末廣 啓子 (副センター長) | 随時調整 | 随時調整 | キャリア教育・就職支援センター |
| 末廣 啓子 (ジョブカフェより派遣) | 毎月第3月曜日 | 10:20~17:00 | キャリア教育・就職支援センター |

キャリアアカウンセラーの増員



CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)資格認定証

<キャリア教育・就職支援センター各学部協力教員あて周知>

21. 10. 1

外国人留学生のインターンシップ実施について

○宇都宮商工会議所所属企業によるインターンシップ

- 実施期間：平成21年8~9月(10日間)
- 実施企業
株式会社 スズテック
宇都宮市平出工業団地4-4-3
業種：農機具製造・販売
- 参加学生：2名
氏名 [redacted]
国籍 ベトナム
専攻 機械システム工学科 学部3年 奈良崎道治(学年担任)
氏名 [redacted]
国籍 中国
専攻 機械知能工学専攻 MI 遠藤博(担任)

○東京外国人雇用サービスセンターによるインターンシップ

- 実施期間：平成21年8月(5日間)
- 実施企業
ビックカメラ 株式会社
東京都豊島区高田3-2-3-2
業種：販売
- 参加学生：1名
氏名 [redacted]
国籍 中国
専攻 教育学部生涯教育 地域社会教育コース 4年 広瀬潮人(学年担任)
- その他
1名 エントリーしたが通勤の関係で不許可、1名現在エントリー中

外国人留学生へのインターンシップ

柳経協 IS 第16号
平成22年2月10日

インターンシップ推進協議会委員各位

社団法人 栃木県経営者協会
インターンシップ推進協議会
委員長 石田朋靖
(宇都宮大学理事・副学長)

第2回インターンシップ推進協議会の議事経過につき下記のとおりご報告いたします。

記

日時 平成22年2月9日 14:00~16:00
会場 チサンホテル宇都宮
出席者 委員30名(大学側14名、企業団体側11名、行政4名、経営者協会1名)、オブザーバー2名、事務局3名 合計35名

2.議題
また、事務局よりキャリア形成支援産学連携推進協議会の立ち上げ幹事会を3月に開催し、4月から本格的にスタートさせたいと具体案が出て、賛成多数で可決された。
尚、立ち上げ幹事会のメンバーについては、インターンシップ推進協議会の委員から選出し、人数・人選等については事務局に一任された。

3.閉会
閉会にあたり石田委員長より「本日をもってインターンシップ推進協議会を解散し、今後は産学連携による学生の人間力を含めたキャリア形成が出来る協議会として発展的に進めていきたい」旨の挨拶があった。

地域と一体となったキャリア教育組織

資料 2-1-1 関連新聞記事

**宇都宮大は1日、高性能カラ
や3D(立体)テレビ、網膜治療
に役立つ検査機などへの応用が期
待されている基礎光学分野の研究
拠点「オプトン教育研究セン
ター」が、今春の落成式を行
った。**

建物北正面約2000平方
メートル、延床面積約4000平方
メートル、4階建て。進研理工学
部長は「基礎光学分野の基礎技術
を継承し、先端技術産業の基礎研
究を推進する」という光学センタ
ーを自指し「たい」とあいさつし、
同センターは、基礎光学の教育
・研究拠点を自ら、3年前に設
立された国内の大学で唯一の組
織。大量のデータを高速で記録
できる技術の研究、科学技術振

宇大に光学研究の新拠点

研究セン
ターの
様子

新拠点の「魅力的イノベーション」
創出推進事業に採択され、年間
約1億円(最長10年)の補助を受
けることが決まっている。

読売新聞 H22/2/20

**宇大に計画の「光」産学官拠点
整備事業に正式決定
補正見直し機器のみ採択**

宇都宮大学は1日、産学官連携事業「光」産学官拠点整備事業に正式決定した。補正見直し機器のみが採択された。宇都宮大学は1日、産学官連携事業「光」産学官拠点整備事業に正式決定した。補正見直し機器のみが採択された。

**政策の
とちぎ**

宇都宮大学は1日、産学官連携事業「光」産学官拠点整備事業に正式決定した。補正見直し機器のみが採択された。

下野新聞 H21/12/5

**市販ブルーレイの60倍
宇大オプティクスセンターなど
大容量記録素材開発へ**

「JST」推進事業に採択
宇都宮大学は1日、JST(日本科学技術振興機構)の推進事業「大容量記録素材の開発」に採択された。宇都宮大学は1日、JST(日本科学技術振興機構)の推進事業「大容量記録素材の開発」に採択された。

市販のブルーレイディスクは、1枚あたり約25GB(ギガバイト)の容量を持つが、宇都宮大学の研究チームが開発している大容量記録素材は、その容量の60倍に達する。これは、従来のブルーレイディスクよりも、約60倍の容量を持つことができる。これは、従来のブルーレイディスクよりも、約60倍の容量を持つことができる。

下野新聞 H22/2/5

**物産
産破
農鳥**

**専門家を育成
宇大と県、独自資格創設**

宇都宮大学は1日、県と連携して「地産地消推進士」の資格を創設する。宇都宮大学は1日、県と連携して「地産地消推進士」の資格を創設する。

宇都宮大学は1日、県と連携して「地産地消推進士」の資格を創設する。宇都宮大学は1日、県と連携して「地産地消推進士」の資格を創設する。

日経新聞 地方版 H21/7/4

**宇都宮大
イチゴの甘さ、光で測定**

9団体と品質保ち輸送可能に
共同研究で品質保ち輸送可能に
宇都宮大学は1日、9団体と共同研究でイチゴの品質を保ち輸送可能にする技術を開発した。宇都宮大学は1日、9団体と共同研究でイチゴの品質を保ち輸送可能にする技術を開発した。

宇都宮大学は1日、9団体と共同研究でイチゴの品質を保ち輸送可能にする技術を開発した。宇都宮大学は1日、9団体と共同研究でイチゴの品質を保ち輸送可能にする技術を開発した。

日経新聞 地方版 H21/7/9

**宇大が「バイオクラスター」
食農環境で産学官連携
14日に始動フォーラム**

本県産品の「クラスター」が、宇都宮大学は1日、食農環境で産学官連携のフォーラムを開催した。宇都宮大学は1日、食農環境で産学官連携のフォーラムを開催した。

宇都宮大学は1日、食農環境で産学官連携のフォーラムを開催した。宇都宮大学は1日、食農環境で産学官連携のフォーラムを開催した。

下野新聞 H22/6/1

資料 2-1-3 企業交流会開催のポスター

第2回 宇都宮大学企業交流会のご案内

宇都宮大学では、大学の研究内容を地域企業の皆様幅広く知っていただくとともに、交流を深めることを目的に、ポスターセッション主体の交流会を開催いたします。

この交流会が、宇都宮大学と地域企業の皆様とのより深い交流を達成し、地域企業との共同研究や産学官連携活動のきっかけとなるように、多数の方々のご参加をお願い申し上げます。また、当日、会場にて技術相談も受け付けています。

ポスターセッション終了後に懇談会も行いますのであわせてご参加下さい。

1 日 時 平成20年9月26日(金) 15:30~19:00

2 会 場 宇都宮大学キャンパス大学会館2F
※会場案内(裏頁)をご覧ください(駐車場有りです)

3 プログラム
15:30~17:30 受付
(懇談会のみに参加される方は、直接懇談会場まで受付して下さい)
15:30~17:30 ポスターセッション
(内容については次ページをご覧ください)
17:30~19:00 懇談会(同会館内)

4 参加費 無料(懇談会は3,000円)

5 申込み方法 別紙の申込書に必要事項を記入の上、FAXまたはE-MAILにて、お送り下さい。(申込みはできるだけ9月16日(火)までをお願いします)

6 申込み・問合せ先 宇都宮大学地域共生研究開発センター
TEL 028-689-6316 FAX 028-689-6320
E-mail:chiki@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

■主催：宇都宮大学、宇都宮大学地域共生研究開発センター
■後援：宇都宮大学工学部、宇都宮大学農学部、
宇都宮大学アグリ支援機構
宇都宮大学地域共生研究開発センター産学交流振興会

第3回 宇都宮大学企業交流会のご案内

宇都宮大学では、大学の研究内容を地域企業の皆様幅広く知っていただくとともに、交流を深めることを目的に、ポスターセッション主体の交流会を開催いたします。

本年度は、栃木県農政部および栃木県産業技術センターから特別参加していただき、発表していただくことになっています。

この交流会が、宇都宮大学と地域企業の皆様とのより深い交流を達成し、地域企業との共同研究や産学官連携活動のきっかけとなるように、多数の方々のご参加をお願い申し上げます。また、当日、会場にて技術相談も受け付けています。

ポスターセッションは時間内で自由な時間にご参加いただけます。
また、終了後に懇談会も行いますのであわせてご参加下さい。

1 日 時 平成21年9月4日(金) 15:30~19:00

2 会 場 宇都宮大学キャンパス大学会館2F
※会場案内(裏頁)をご覧ください(駐車場有りです)

3 プログラム
15:30~17:30 受付
(懇談会のみに参加される方は、直接懇談会場まで受付して下さい)
15:30~17:30 ポスターセッション
(内容については次ページをご覧ください)

4 参加費 無料(懇談会は3,000円)

5 申込み方法 別紙の申込書に必要事項を記入の上、FAXまたはE-MAILにて、お送り下さい。(申込みはできるだけ8月25日(火)までをお願いします)

6 申込み・問合せ先 宇都宮大学地域共生研究開発センター
TEL 028-689-6316 FAX 028-689-6320
E-mail:chiki@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

■主催：宇都宮大学、宇都宮大学地域共生研究開発センター
■後援：宇都宮大学工学部、宇都宮大学農学部
宇都宮大学アグリ支援機構、宇都宮大学工学部同窓会
宇都宮大学地域共生研究開発センター産学交流振興会

資料2-1-4 日経グローバルによる地域貢献度ランキング等の新聞記事

2009年(平成21年)5月21日(木曜日)

産学連携で農商工連と宇大 協定調印、事業推進へ

中核(農商工連)と宇都宮大学(宇大)が、産学連携推進事業の協定調印式を5月21日、宇都宮市内の農商工連会館で開いた。協定調印式には、農商工連の代表者として、中核の代表者として、宇都宮大学の代表者として、協定調印式に出席した。協定調印式には、農商工連の代表者として、中核の代表者として、宇都宮大学の代表者として、協定調印式に出席した。

協定調印式には、農商工連の代表者として、中核の代表者として、宇都宮大学の代表者として、協定調印式に出席した。

協定調印式には、農商工連の代表者として、中核の代表者として、宇都宮大学の代表者として、協定調印式に出席した。

2010年(平成22年)5月22日(土曜日)

産学連携し農業開発

宇都宮大学と宇都宮市が、産学連携推進事業の協定調印式を5月22日、宇都宮市内の農商工連会館で開いた。協定調印式には、農商工連の代表者として、中核の代表者として、宇都宮大学の代表者として、協定調印式に出席した。

協定調印式には、農商工連の代表者として、中核の代表者として、宇都宮大学の代表者として、協定調印式に出席した。

協定調印式には、農商工連の代表者として、中核の代表者として、宇都宮大学の代表者として、協定調印式に出席した。

2008年(平成20年)10月20日(月曜日)

View ショーカル

地域貢献、公立大が存在感

地域貢献度ランキングベスト20

| 順位 | 大学名 | 国立/私立 | 本部所在地 | 総合得点 |
|----|---------|-------|--------|------|
| 1 | 北九州国立大 | 国立 | 北九州市 | 93 |
| 2 | 北九州工業大 | 国立 | 北九州市 | 82 |
| 3 | 松本大 | 国立 | 長野県松本市 | 81 |
| 4 | 九州工業大 | 国立 | 北九州市 | 80 |
| 4 | 大阪府立大 | 国立 | 堺市 | 80 |
| 6 | 福光学院大 | 私立 | 山口県下関市 | 78 |
| 7 | 宮城工業大 | 国立 | 北海道釧路市 | 77 |
| 8 | 宇都宮大 | 国立 | 宇都宮市 | 76 |
| 9 | 東北公益文科大 | 私立 | 山形県酒田市 | 75 |
| 10 | 長岡大 | 国立 | 新潟県長岡市 | 74 |
| 11 | 岩手大 | 国立 | 盛岡市 | 73 |
| 11 | 熊本大 | 国立 | 熊本市 | 73 |
| 11 | 横濱国立大 | 国立 | 横濱市 | 73 |
| 14 | 茨城大 | 国立 | 水戸市 | 72 |
| 14 | 長岡技術科学大 | 国立 | 新潟県長岡市 | 72 |
| 14 | 三重大 | 国立 | 津市 | 72 |
| 14 | 京都府立大 | 国立 | 京都市 | 72 |
| 14 | 鹿児島大 | 国立 | 鹿児島市 | 72 |
| 19 | 横濱国立大 | 国立 | 横濱市 | 70 |
| 19 | 立命館大 | 私立 | 京都市 | 70 |
| 19 | 神戸女子大 | 私立 | 神戸市 | 70 |

地域貢献度ランキングベスト20 (カッコ内は前回順位、総合得点は100点満点)

地域貢献度ランキングベスト20 (カッコ内は前回順位、総合得点は100点満点)

2009年(平成21年)11月16日(月曜日)

View ショーカル

地域貢献、公立大が躍進

地域貢献度ランキングベスト20

| 順位 | 大学名 | 国立/私立 | 本部所在地 | 総合得点 |
|----|---------|-------|--------|------|
| 1 | 熊本県立大 | 国立 | 熊本市 | 83 |
| 2 | 北九州国立大 | 国立 | 北九州市 | 82 |
| 3 | 松本大 | 国立 | 長野県松本市 | 81 |
| 4 | 九州工業大 | 国立 | 北九州市 | 80 |
| 4 | 大阪府立大 | 国立 | 堺市 | 80 |
| 6 | 福光学院大 | 私立 | 山口県下関市 | 78 |
| 7 | 宮城工業大 | 国立 | 北海道釧路市 | 77 |
| 8 | 宇都宮大 | 国立 | 宇都宮市 | 76 |
| 9 | 東北公益文科大 | 私立 | 山形県酒田市 | 75 |
| 10 | 長岡大 | 国立 | 新潟県長岡市 | 74 |
| 11 | 岩手大 | 国立 | 盛岡市 | 73 |
| 11 | 熊本大 | 国立 | 熊本市 | 73 |
| 11 | 横濱国立大 | 国立 | 横濱市 | 73 |
| 14 | 茨城大 | 国立 | 水戸市 | 72 |
| 14 | 長岡技術科学大 | 国立 | 新潟県長岡市 | 72 |
| 14 | 三重大 | 国立 | 津市 | 72 |
| 14 | 京都府立大 | 国立 | 京都市 | 72 |
| 14 | 鹿児島大 | 国立 | 鹿児島市 | 72 |
| 19 | 横濱国立大 | 国立 | 横濱市 | 70 |
| 19 | 立命館大 | 私立 | 京都市 | 70 |
| 19 | 神戸女子大 | 私立 | 神戸市 | 70 |

地域貢献度ランキングベスト20 (カッコ内は前回順位、総合得点は100点満点)

地域貢献度ランキングベスト20 (カッコ内は前回順位、総合得点は100点満点)

資料 2-2-1 競争的資金獲得チーム構成員名簿及び取組内容

| 競争的資金獲得チーム構成員名簿 | | | 平成21年11月現在 | |
|-----------------|-------|------|------------|-----|
| 学 部 等 | 氏 名 | 内線番号 | メールアドレス | 備 考 |
| 理 事 | 馬場敬信 | | | |
| 国際学部 | 清水奈名子 | | | |
| 教育学部 | 牧原成征 | | | |
| 工学研究科 (工学部) | 入江晃亘 | | | |
| 農学部 | 羽生直人 | | | |
| 地共センター | 荘司弘樹 | | | |
| バイオセンター | 松田 勝 | | | |
| 研究国際課長 | 市川清治 | | | |
| 財務課長 | 川田耕二 | | | |

取組内容

- 全学的な視野に立って大型外部資金導入のための研究プロジェクトに関する企画戦略立案を行う。
- 社会的な状況・学内の研究状況を把握し、大型外部資金と学内シーズとのマッチングを図る。
- 大型外部資金獲得に向けた学内プロジェクトの構築を学長に提言する。

資料 2-2-2 ゆうだい21 (イネ) の新品種登録された新聞記事

2010年(平成22年) 1月18日(月曜日)

宇都宮大学が初めて「ゆうだい21」を開発し、新品種登録された。米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。

「ゆうだい21」味はコシヒカリ級

宇大開発 コメ品種登録

宇都宮大学が初めて「ゆうだい21」を開発し、新品種登録された。米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。

「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。

「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。

2010年(平成22年) 1月20日(水曜日)

宇都宮大学が初めて「ゆうだい21」を開発し、新品種登録された。米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。

宇大がコメ新品種

「ゆうだい21」登録

宇都宮大学が初めて「ゆうだい21」を開発し、新品種登録された。米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。

「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。

「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。2009年(平成21年)に品種登録された「ゆうだい21」は、米の味、粘り、コシヒカリに匹敵する。

日本経済新聞 平成21年12月23日

多様化する連携形態とコーディネーターの役割

共同研究

共同研究

共同研究

中小企業が行うニッチ製品の開発

キーワード：中小企業・ニッチ製品・モックアップ・特許・脱気筒

現場ニーズから生まれた排気ファン付脱気筒

【要約】
屋上にある建物は遠地輸送の上に防水層があり、建物のコンクリート劣化を防いでいる。しかし、主に経済的側面から、10年ごとの補修工事は実施されず防水層が切れたままになっていることが多い。その結果、躯体と防水層の間に水分が溜まりコンクリート躯体の強度を著しく落とす。この様な状況を改善する方法として、(株)アイ・レックからソーラー発電と排気ファン付き脱気筒を新たに開発したい旨の相談があった。コーディネーターは、太陽光発電と電子制御に詳しい小山高等科教員と協同して必要な流体解析で実績のある宇都宮大学の教員に協力を要請し、宇都宮大学・小山高等科・(株)アイ・レックによる共同研究として製品開発に着手した。

【きっかけ】
●現場の悩みから始まった
(株)アイ・レックは建物の防水工事が本業で、すでに宇都宮大学教員と共同研究で開発中だったため、たびたび宇都宮大学地域共生研究開発センターを訪れてコーディネーターと協業にコミニケーションを行っていた。そのコーディネーターとの関係が深いことからソーラー発電ファン付き脱気筒開発のアイデアが生まれ、製品開発に繋がった。
●「アキ」の脱気筒
●「アキ」の脱気筒は、(株)アイ・レックと協業して開発した。これにより現場で手づくりによるイモモデル(モックアップ)を作った。以降、その脱気筒を見ながら製品の具体的な機能や仕様を検討していった。
●現場の悩みを解決
ソーラー排気ファン付き脱気筒は施工現場のニーズから生まれたテーマであるので、そのニーズに即応する機能の選定性・独自性・ビジネスとして採算が取れる特性を追求するため、ものづくりで実績のある各名の教員に協力を要請した。小山高等科・宇都宮大学と(株)アイ・レックは共同研究契約を締結し、独自に設計した電子回路の採用や流体の3次元解析を取り入れた筒形状の決定を経て最終の施工モデルを作り、風量などのデータ取得を行う予定である。

【成果・効果と活動後の展望】
開発の途中で、民間企業と地方自治体から大型の屋上防水工事の引き合いがあり、協賛からその現場でソーラーファン付き脱気筒を取り付けたい旨の依頼があった。そのために、最終モデル完成の前に試作モデルで試験施工をすることになった。左の写真(左)は、試作モデルの施工後の状況はきわめて良好で、施工主からも高い評価を受けたので、ニッチな市場でニーズは充分であると確信した。

脱気筒の施工イメージ

研究にいたる流れ

- 2009年6月 基本構想決定
- 2009年9月 補助金申請
- 2010年1月 サイトまじり
- 2010年4月 現場モデル生産開始予定

ビル屋上防水層の脱気筒

アイ・レック 太陽光パネルで発電

ファンは排気筒を回す

防水工事専門家のアイ・レック(東京都町田市)が、太陽光発電と排気ファンを組み合わせたビル屋上防水層の脱気筒を開発した。従来の脱気筒は、太陽光発電で発電した電力を消費してファンを回す必要があったが、この新製品は、太陽光発電で発電した電力を消費せずにファンを回すことができる。従来の脱気筒は、太陽光発電で発電した電力を消費してファンを回す必要があったが、この新製品は、太陽光発電で発電した電力を消費せずにファンを回すことができる。

ビル屋上防水層の脱気筒は、太陽光発電で発電した電力を消費してファンを回す必要があったが、この新製品は、太陽光発電で発電した電力を消費せずにファンを回すことができる。

ビル屋上防水層の脱気筒は、太陽光発電で発電した電力を消費してファンを回す必要があったが、この新製品は、太陽光発電で発電した電力を消費せずにファンを回すことができる。

ビル屋上防水層の脱気筒は、太陽光発電で発電した電力を消費してファンを回す必要があったが、この新製品は、太陽光発電で発電した電力を消費せずにファンを回すことができる。

2008年(平成20年)8月23日(土曜日)

知財活用、産業活性化へ

事業推進、水戸で初代会

宇都宮大学と水戸市が連携して、知財活用、産業活性化を推進する「知財活用、産業活性化」事業の推進、水戸で初代会が開かれた。

宇都宮大学は、知財活用、産業活性化を推進する「知財活用、産業活性化」事業の推進、水戸で初代会が開かれた。

宇都宮大学は、知財活用、産業活性化を推進する「知財活用、産業活性化」事業の推進、水戸で初代会が開かれた。

宇都宮大学は、知財活用、産業活性化を推進する「知財活用、産業活性化」事業の推進、水戸で初代会が開かれた。

2010年(平成22年)5月28日(金曜日)

LED電照で菊の栽培装置

消費電力10分の1に

LED電照で菊の栽培装置は、消費電力10分の1に削減された。従来の栽培装置は、消費電力が100W程度であったが、この新装置は、消費電力が10W程度に削減された。

LED電照で菊の栽培装置は、消費電力10分の1に削減された。従来の栽培装置は、消費電力が100W程度であったが、この新装置は、消費電力が10W程度に削減された。

LED電照で菊の栽培装置は、消費電力10分の1に削減された。従来の栽培装置は、消費電力が100W程度であったが、この新装置は、消費電力が10W程度に削減された。

LED電照で菊の栽培装置は、消費電力10分の1に削減された。従来の栽培装置は、消費電力が100W程度であったが、この新装置は、消費電力が10W程度に削減された。

資料3-1-2 産学連携コーディネータ・4U活動の新聞記事等

別紙(2) 7. (3) 具体的な成果事例

超音波を用いた鳥獣撃退装置の開発

大学等名：宇都宮大学
機関名称：株式会社モハラテクニカ

要約

株式会社モハラテクニカは、超音波により有害鳥獣を撃退する「ウルトラソニック」を開発した。一方、宇都宮大学農学部では、有害鳥獣に関する研究成果を多く持っている。第3回首都圏北部4大学新技術説明会で宇都宮大学が「カラスが嫌がる音声を創る」との発表をしたのをきっかけにモハラテクニカと宇都宮大学とは、共同研究を開始した。モハラテクニカは、ウルトラソニックを改良し、対象有害鳥獣の範囲の拡大に取り組み、宇都宮大学農学部は、超音波の有害鳥獣撃退メカニズムの解明と撃退効果の評価を担当する。この開発研究は、「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金」の交付対象となった。

鳥獣撃退装置（ウルトラソニック）



株式会社モハラテクニカが有限会社明産電子工業と共同開発した「ウルトラソニック」。超音波により鳥獣を撃退する。超音波出力は100デシベル以上であり、超音波を複雑に変化させるので、「馴れ」を生じない。このことから、学習能力の高い「カラス」などにも有効である。
AC100V、DC12V、AC/DC兼用の3種類がある。単価は約8,500円であり、持ち運び容易で、設置場所の変更も容易。
下草を刈ったり、忌避剤を散布する等が不要であり、年1度の清掃と耳での音の確認が必要だけであり、管理も容易である。

創出

整備

活用

産学官連携のきっかけ（マッチング）

第3回首都圏北部4大学新技術説明会で宇都宮大学が発表した「カラスが嫌がる音声を創る」を北関東産学官研究会のコーディネータが鳥獣撃退装置を開発しているモハラテクニカとの橋渡しを行い、共同研究が始まった。

知財管理（特許化、知財保護）

特許出願2006-186020「鳥獣撃退装置」（特開2008-11777）
特許出願2007-315994「カラス忌避装置」（特開2009-136214）

技術移転の概要

成果内容の事例

●市場への貢献
株式会社モハラテクニカは、平成21年3月にウルトラソニック事業部を立ち上げ、本格的な営業販売を始めた。平成21年の売上台数は約80台に達した。大手自動車会社のモータープールや鉄道会社へ設置され、カラスや動物による被害減少に貢献している。

●地域との連携
本社工場に隣接して鳥獣撃退装置を増設を決定し、平成22年秋完成させる。

●人材育成
株式会社モハラテクニカは、板金加工を主体とした会社であり、近年の景気悪化に伴い2名の減員をしなければならなかったところを、本鳥獣撃退装置の開発により5名増員し、結果として3名の増加となった。

共同研究

株式会社モハラテクニカウルトラソニックは、イノシシ、サル、カラス等の有害鳥獣に有効である。共同研究では、周波数を変えた数段階の超音波を試すことで、対象をハト、スズメ、ネズミといった有害鳥獣への展開の可能性及びその撃退効果の要因について検討している。

連携機関

- 宇都宮大学農学部 杉田昭彦教授、小金澤正昭教授
- 株式会社モハラテクニカ代表取締役社長 茂原利一
- 北関東産学官研究会 木澤恒文

受賞歴 ※

10

下野新聞 平成21年5月1日

大中小企業と連携強化

宇都宮大学地域共生ネットワーク初代会合

宇都宮大学地域共生ネットワーク会議の初代会合が、5月1日（土）午後2時から、同大の学生センター（右）を同大で開催された。初代会合には同大や商工会議所、県産業振興センター、足利銀行、石井井清センター長は、毎月一回の会合の中から十五人が出席。石井センター長は「大学と産学連携推進で、同センターからのセンター長は「大学と中小企業の技術協力は、情報提供や各コーディネータの状況報告、またまだまだ少ない。敷居が高いこと、企業に研究（シーズ）と結びつける産学連携によるビジネスの具体化に取り組み、本年度から日常業務で企業訪問をする足利銀行の行員らもコーディネータに術開発をの二スを加えた。

食・農・環境で産学官連携

14日に始動フォーラム

本県と首都圏近郊の「クラスター」が14日、同フォーラムは、文部科学省の支援を受け、月に開催された合同組織として、宇都宮大が設立した「クラスター」が、本格的にスタートさせた。

同フォーラムは、文部科学省の支援を受け、月に開催された合同組織として、宇都宮大が設立した「クラスター」が、本格的にスタートさせた。

同フォーラムは、文部科学省の支援を受け、月に開催された合同組織として、宇都宮大が設立した「クラスター」が、本格的にスタートさせた。

下野新聞 H22/6/1

資料3-1-3 宇都宮大学地域共生研究開発センター機器の学外者利用に関する規程

(地域共生研究開発センター機器の学外者利用に関する規程)

宇都宮大学地域共生研究開発センター機器の学外者利用に関する規程

制 定 平成22 年度第7号

(趣旨)

第1条 この規程は、宇都宮大学地域共生研究開発センター（以下「センター」という。）の機器の有効活用と、本学の地域貢献に寄与することを目的として、センターの機器を教育研究に支障のない範囲において学外者の利用に供するために必要な事項を定める。

(利用の手続き)

第2条 機器の利用にあたっては、あらかじめ別に定める利用申請書をセンター長に提出し、利用許可を得なければならない。

(利用料金)

第3条 機器の利用したときは、別に定める利用料金を負担しなければならない。

1 利用者は、機器利用後出納命令が発行する請求書により指定期日までに利用料金を支払わなければならない。

2 センター長は、利用者が機器の利用を終了又は中止した時はすみやかに利用料金収納依頼書を出納命令役に提出するものとする。

3 指定期日までに利用料金が支払われない場合、利用者はその翌日から納入の日までの日数に応じ、年6%の割合で計算した金額を延滞金として、利用料金に追加して支払わなければならない。

(利用条件)

第4条 利用者は、センター先端計測分析部門（以下「分析部門」という。）担当者と相談の上、利用の日時を決定する。

2 学外者の利用は、本学の教育研究に支障がない範囲に限るものとする。

3 利用者は、測定等を希望する特定の試料に関して、分析部門に測定等を依頼するものとし、実際の機器の運転・操作は、原則として分析部門が指定する本学職員が行うものとする。

4 機器の利用に際し、個別に必要な消耗品並びに試料等の搬入及び搬出は、すべて利用者の負担で行うものとする。

5 センター長は、許可を与えた測定等であっても、測定対象試料の使用が不

14-355-1

(地域共生研究開発センター機器の学外者利用に関する規程)

適切と判断した場合には、利用許可を取り消すことができる。

6 機器の利用により得られたデータに関して、その機度（データの正確さ）をセンター及び分析部門は保証しない。

7 センター及び本学は、測定等の結果又は利用者の責めに起因した利用者が受ける一切の損害に関して、その責任を負わないものとする。

(秘密の保持等)

第5条 センター及び利用者は、機器の利用で知り得た相手方の秘密、知的財産権等を相手方の書面による同意なしに公開してはならない。

第6条 測定等で得られたデータを民間機関等の利用者が公表する場合、原則として本学の名称及び本学を特定できる表現を使用することはできない。ただし、連名書に本学職員が含まれており、その職員がデータに関する一切の責任を負う場合、又はセンター長が使用を許可した場合は、この限りでない。

(利用許可の取り消し)

第7条 利用者がこの規程に反したとき又は機器の利用に当たって重大な支障を生じた場合及び本学の教育研究に支障が生じた場合には、センター長は、当該機器の利用許可を取り消すことができる。

(損害の弁償)

第8条 利用者は、自らの責に帰すべき事由により機器等を滅失、き損もしくは著しく機器の性能を低下させたときは、その損害を弁償しなければならない。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、学外者の利用に關し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

14-355-2

地域共生研究開発センター機器の学外者利用に関する規程

(地域共生研究開発センター機器の学外者利用に関する規程実施細則)

別表1

地域共生研究開発センター機器の一覧及び学外者利用料金表

平成22年4月現在

| 装置名 | 利用条件等 | 学外利用料金 | |
|---|------------------------------|--------------|--------------|
| | | 基本使用料 | 操作委託料 |
| 400MHz 核磁気共鳴測定装置 (NMR-400) パリアン NCV400 | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 500MHz 核磁気共鳴測定装置 (NMR-500) パリアン NMR System 500.1 | サンプル測定と 測定測度は要相談 | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 非変態プローブ観察装置 (SPM) 日本電子 MagScope III | 消耗品代金として、別途 1,000 円/時間を加算 | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 微量熱量計 (CM) 東洋電 TEC-205 | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 二重収束質量分析装置 (Sector MS, GC/MS) 日本電子 RM-U300 | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 飛行時間型質量分析装置 (TOF-MS) アルファ・ラボ トピクス analysis II-UT | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 有機元素元素分析装置 (EA) Perkin Elmer | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/試料 |
| ガスクロマトグラフ (GC) 島津 GC-15A | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 線形放射型非変態電子顕微鏡 エネルギー分散型 X 線分析装置 (FE-SEM, EDX) 日立 S-9500、島津 SMAX-9710 | | 1,000 円/1 利用 | 1,500 円/1 利用 |
| 低電圧非変態電子顕微鏡 (LV-SEM) 日本電子 BM-561LV | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| Os イオンコーター (Os IC) 島津 ETC-VA | 要相談 | 300 円/分 | 1,500 円/時間 |
| Pt-Fd イオンコーター (Pt-Fd IC) 日立 E-1030 | | 300 円/分 | 1,500 円/時間 |
| Au イオンコーター (Au IC) 日立 E-1030 | | 300 円/分 | 1,500 円/時間 |
| 円二色性分散計 (CD) 日本分光 J-725 | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 誘導結合プラズマ発光分析装置 (ICP) 島津 ICP-7500 | 消耗品代金として、別途 2,000 円/時間を加算 | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 電子スピン共鳴装置 (ESR) 日本電子 JEJ-TE100 | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 常重量・非変態分析装置 (TG-DTA) リガク DTA | | 2,000 円/試料 | 1,500 円/試料 |
| 粉末 X 線回折装置 (XRD) リガク XRD-7000 | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 単結晶 X 線回折装置 (SCD) ブルバーク・クリスタルシステム SMART APEX II | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| 遠赤電子顕微鏡 (TEM) 日本電子 BM-2010 | 消耗品代金として、別途 1,000 円/時間を加算 | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| イオンミリング (IM) | | 2,000 円/試料 | 1,500 円/試料 |
| 振動マイクロ硬度力計 (VSM) 島津 HVS-10 | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |
| X 線光電子分光分析装置 (XPS) アルベックファイ ESCA5500 | | 1,000 円/時間 | 1,500 円/時間 |

備考 1 「基本使用料」＋「操作委託料」＋「消耗品代金(必要の場合)」が利用料金の総額となります。
2 「基本使用料」は装置の実験時間、「操作委託料」は装置運転者の実験時間から算出されます。
3 「基本使用料」の算出時間と「操作委託料」の算出時間は異なる場合があります。
4 ここに掲げた料金は基本的な料金であり、装置によってはこれ以外の費用が発生する場合があります。
5 ここに掲げた「操作委託料」は標準的な試料の場合であり、試料状態および方法によって増減する場合があります。
6 装置によっては、時間外装置運転者の関係上、依頼分析をお引き受けできないことがあります。
7 学外利用料金は消費税込み料金で表示してあります。

学外者利用料金表(実施細則から)

連携協定

—成果はいかに—

分野を学ぶ国内で数少ない大学院として注目され、今春には1期生約40人が卒業する。3年目を迎える2010年は地域との連携も視野に入れ、教養と実学研究の両

阪大学・東北大学をはじめ、フォトニクスやレーザーなど最先端の研究組織は全国に数多くある。一方で屈折率の高いガラス材料、非球面レンズの開発などレンズの進化は著しい。「二重の」分野が大学で研究され

光学基礎を本格研究

レーザー加工・溶接に活用

宇都宮大学とキヤノンが光学の基礎研究を目的に設立したオプティクス教育研究センター。レンズやコーティングといった産業界でニーズのある

宇都宮大・キヤノン

このため、基礎研究は産業界が独自で対応するのが現実。だが、「業務」の合間に基礎理論を学ぶのはハードルが高い(本多徳行キヤノン総合R&D本部基礎技術開発統括部門オプティクス技



ななくなった(産業界は危機を感じていた)という。宇都宮市に光学関連の事業所を設けるキヤノンも例外ではない。同センターは幾何光学や波動光学、干渉の「光学特論」やレンズ設計などの「光学設計特論」、

大学に構想をもちかけ、設立へとつながった。兼任教授ら計25人を指導し、キヤノン側からは客員教授ら計6人が講義する。卒業後は日本の光学を担う人材として期待される。

機構(JST)の補助事業で、県内の産学官連携拠点としても認定された。今後は「光融合技術イノベーションセンター」として、蓄積した基礎研究を実用化へつなげる役割も担う。

国立大学は4月から第2期の中期目標期間に入る。宇都宮大は同センターを高度な研究拠点に推し進める考えで、進村武男学長は「オプティクス教育研究センターを日本一の拠点にしていこう」と目標を高く掲げる。

(栃木・杉浦武士)

科学技術・大学

資料 3-1-5 地域社会との連携



2008年7月31日付 毎日新聞より

2009年11月4日
 連続シンポジウム「グローバル化する世界の諸問題」Vol.2
 『The Philippine Crisis, the Challenge of Peacebuilding, and the Japanese ODA』 Dr.Mario Juyo Aguja



2010年『多文化公共圏センター年報2号』
 特集: 宇都宮市民意識調査広告

宇都宮大学
3大内大

共同で教育プログラム

来年度から 国際的人材を育成

栃木県内に拠点を置く宇都宮、作新学院、白鷗の3大学が連携し、国際的な視野を持つ学生を育成する「国際キャリア開発プログラム」に乗り出す。国際機関や非政府組織（NGO）、企業の現場で経験を積んだ講師を招く。専門知識を学び、実践できる講座を2010年度から本格展開。地元自治体や経済界とも協力し、国境を越えて活躍できる人材を養成する。

国際キャリア教育講座

文部科学省の助成事業

「戦略的」大学連携支援プログラム」に選ばれ、事業費として09～11年度で1億1600万円を要望中。3大学はそれぞれ専

任教員を採用する。県や県経済同友会、県国際交流協会などの協力も受け、インターシシップ先の確保など準備を急ぐ。複数大学の協力で国際キャリア教育のプログラムを組むのは全国でも珍しいという。

宇大は国際協力、作新は国際経営、白鷗は国際理解・教育分野にそれぞれ力を入れてきた。3大学と国際医療福祉大学は04年度から「国際キャリア合宿セミナー」を開いており、今回の企画も従来の取り組みの発展型と位置付ける。宇大の友松篤信教授は「国際キャリア教育のモデルに育てていきたい」と話す。